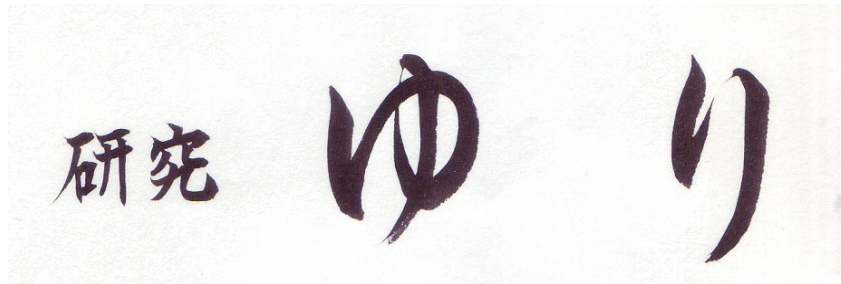


令和3年度



第23号

本校研究主題

児童生徒による学習評価の充実

—児童生徒が学びを実感し、学びをつなげる授業づくりを通して—

道川分教室研究主題

児童生徒による学習評価の充実

～自立活動の授業づくりを通して～

秋田県立ゆり支援学校

# 巻 頭 言

一昨年度までの「教科等を合わせた指導」における研究を通じて、目標を「育成を目指す資質・能力の三つの柱」で整理することや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むことができました。また、これまでの研究実践を活かし、様々な授業において、「ねらいを整理」し「めあての提示を工夫」することによって、児童生徒が学習のゴールを意識し、見通しを持って意欲的に学習活動に取り組む姿を引き出すことが見られるようになってきました。しかし、授業後の振り返りが、「できた（できなかった）」にとどまってしまうことにより、児童生徒自身が次の学習や別の実践場面に活かせていないことが課題として残されました。

昨年度からの2カ年研究では、これまでの研究成果で課題として残された学習評価に焦点を絞った研究として、「児童生徒による学習評価の充実」を主題に、教科指導の場面に焦点を絞った実践に取り組んでいます。

1年目は、「資質・能力の三つの柱」を元にした「めあて」の設定と、「学習評価の三つの観点」での「振り返り」を行うことを主とした【共通実践事項】に取り組みました。

2年目となる今年度は、1年目の実践を継続しながら、児童生徒が学びを実感し、学びをつなげることができる支援に着目し、副題を「一児童生徒が学びを実感し、学びをつなげる授業づくりを通して」として、研究実践に取り組みました。また、研究対象教科に関して、各学部の職員が入った縦割りの教科別ワーキンググループ（以下WG）を編成し、小学部から高等部までの学びをつなげる視点で、指導内容等の検討作業も行っています。

研究実践を通して、児童生徒が「学びを自分事としてとらえる」ために、次の三点がポイントとなることが明らかになりました。

- ・児童生徒自身が学びを実感できる「振り返り」につながる「めあて」の焦点化
- ・学びの連続性につながる児童生徒自身による多面的な「評価」
- ・学びの積み重ねや、他教科へのつながりを意識した長期的視点による学習計画

また、研究の過程で取り組んだWGも、特別支援学校で小中高の一貫した教育に取り組むために有効な手段だと実感しました。WGによる検討と、以上三点のポイントについては、これからも継続して取り組んでいきたいと思えます。

最後に、事前・事後と合わせて年3回の授業提示をした本校教員に対して、貴重な御助言をいただきました由利本荘市教育委員会指導主事 大庭珠枝 先生、栗田支援学校教育専門監 石垣徹 先生、秋田大学教育文化学部准教授 前原和明 先生に心より感謝申し上げます。

令和4年3月  
秋田県立ゆり支援学校  
校長 高橋 譲

## ◇ 目 次 ◇

<巻頭言> . . . . . 校 長 高 橋 讓

### 【本校の取組】

- 全体研究 . . . . . 1  
児童生徒による学習評価の充実  
ー児童生徒が学びを実感し、学びをつなげる授業づくりを通してー
  
- 学部研究
- 小学部研究 . . . . . 13  
ー国語科ー
  
- 中学部研究 . . . . . 25  
ー保健体育科ー
  
- 高等部研究 . . . . . 39  
ー職業科・家庭科ー
  
- 寄宿舎研究 . . . . . 57  
ー日常生活指導ー

### 【道川分教室の取組】

- 全体研究及び研究の取組 . . . . . 65  
児童生徒による学習評価の充実 ～自立活動の授業づくりを通して～

本校の研究の歩み . . . . . 77

研究同人 . . . . . 78

## 研究主題

### 児童生徒による学習評価の充実

－児童生徒が学びを実感し、学びをつなげる授業づくりを通して－（2年次／2年計画）

#### 1 問題と目的（主題設定の理由）

##### (1) 本校の目指す学校像とこれまでの研究の取組

本校は、目指す学校像を「地域と共に歩み、地域で育ち、地域に必要とされるゆり支援学校」とし、児童生徒の自立と社会参加を目指し、明るく豊かな心の育成と教育的ニーズに応じた適切な教育活動を展開している。平成30年度からは学校運営協議会を設置し、特色ある教育活動を推進するとともに、地域交流・地域貢献を通して地域を元気にする学校づくりを推進している。

この目指す学校像を具現化するために、平成30年度からの2年間、研究主題を「主体的に人と関わる力を高めるために」とし、「各教科等を合わせた指導」や「各教科」の授業づくりに取り組んできた。育成を目指す資質・能力の3つの柱に基づき、単元・題材目標を設定し、「各教科等を合わせた指導」と「各教科」の関連を意識した研究を進める中で、言葉の表現が豊かになり、相手に合わせた対応や課題解決力の向上、学びを他の学習で生かす姿などの児童生徒の変容がみられた。加えて、教職員の变容として各教科の授業に対する意識の高まりや、「めあての提示」の定着、発問の精選などがみられた。しかし、今後の課題として、児童生徒自身が見通しをもち、本人が主体となる課題解決の機会や学びを自覚できる授業づくり、教科別の指導の充実、自己理解や自己評価の充実、児童生徒自身がPDCAサイクルに沿った学習を行う必要性が提起された。

##### (2) 社会的背景

昨年度から小学校、特別支援学校小学部で全面実施されている学習指導要領では、「生きる力 学びの、その先へ」と示され、学校で学んだことが、明日、そして将来につながるように、育成を目指す資質・能力の3つの柱に基づき整理されている。その際、特別支援学校では学びの連続性を重視し、各学部や各段階、小・中学校の各教科及び高等学校の各教科・科目とのつながりが大切にされている。これまで領域・教科を合わせた指導が教育課程の中心として行われてきた知的障害特別支援学校においても、各教科の指導の充実は、今後取り組むべき喫緊の課題であることが示唆された。

平成28年12月の中央教育審議会答申では、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、各学校において教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すカリキュラム・マネジメントが求められている。その中では、児童生徒に「何が身に付いたか」（学習評価の充実）を改善すべき課題として挙げている。特別支援学校学習指導要領解説総則等編では、「学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものである」と示し、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるためにも重要であると、指導と評価の一体化の必要性を明確に示している。

このように、児童生徒に何が身に付いたかを明確にしなが、児童生徒自身が次の学びや生活に生かすことのできる目標設定と振り返りの機会や、児童生徒本人が主体となる学習評価の在り方を検討し、充実に向けた実践を積み重ねる必要性があると考えられる。

そこで、本校の目指す学校像、これまでの研究の取組、社会的背景を踏まえ、本研究主題「児童生徒による学習評価の充実」を設定した。



## 2 研究1年次（令和2年度）の成果と課題

昨年度は、研究副題を「各教科による授業づくりを通して」として、学部ごとに研究対象の教科を設定し、授業実践に取り組んだ。以下の表は、対象とした各教科と1年次の成果・課題である。

学部	対象教科	1年次の成果（○）と課題（▲）
小学部	国語科	○資質・能力に合わせた事態把握と焦点化しためあての設定による、児童が分かる授業づくり ▲「何が分かったか」を大切にしたり振り返り ▲他教科との関連
中学部	保健体育科	○体育ノートの活用、動画による自己評価や友達と伝え合う場面の設定による学習評価の充実 ▲評価から次の目標につながる効果的な振り返りの工夫 ▲3年間を見通した指導計画
高等部	職業科 家庭科	○友達や職員など様々な人と関わりながら他の場面でも生かせるような授業展開の工夫 ▲個の学びを集団の学びにできるような振り返りの工夫 ▲学びの蓄積を日常的に活用できるような場面設定
寄宿舎	日常生活指導の 場面	○生徒の願いを反映した具体的な目標設定 ○生徒同士が互いに学び合い、工夫する姿 ▲生徒ができた、失敗したなど、実感を伴う活動の必要性

さらに、研究全体を通して2年次に向けての提言として、以下の3点のキーワードが挙げられた。

- ・教科の特性に合わせた学び方と学習評価
- ・学んだことを次につなげる、生かすことができる俯瞰的な授業計画
- ・児童生徒自身の「何を学ぶか」が自分事となる目標と評価、授業づくり

研究主題「児童生徒による学習評価の充実」の実現に向けて、児童生徒自身が何を学び、何が身に付いたかを実感し、学びを次の学習や様々な生活場面につなげていくための授業づくりを推進していく必要がある。

そこで、2年次は1年次の研究の成果を土台として、副題を「児童生徒が学びを実感し、学びをつなげる授業づくりを通して」として取り組むこととした。

## 3 仮説

児童生徒による学習評価の充実を目指した各教科による授業づくりは、自分自身が何を学び、何が身に付いたか（評価）、さらにはこれから学ぶべきこと（次の目標）に気付くであろう。学習を振り返ることは、児童生徒の「できた!」「分かった!」などの学びの実感や達成感が得られ、次の学習への見通しと学習意欲を高めることにつながると考える。そういった学びにつながる経験を積み重ねることで、今後の予測困難な社会の中で、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、行動できる生きる力になるであろう。

**「児童生徒による学習評価の充実」とは、**

「何を学ぶのか分かる『めあて』（目標）が提示され、それに対する『振り返り』（評価）が児童生徒自身で行われていること。さらには、これから学ぶべきこと（次の目標）について、気付くこと」と定義する。

## 4 内容与方法

本研究は、以下のAPDCAサイクルの視点で2年計画の研究期間で検証する。

### 1年次

#### A：実態把握（アセスメント）

- ・生徒（中学部、高等部）、教職員に対して授業づくりに関するアンケートⅠの実施

#### P：計画

- ・授業デザインミーティングⅠの実施 ⇒年間指導計画、単元・題材計画の作成

#### D：授業実践

- ・「資質・能力の3つの柱での目標設定」と「学習評価の3つの観点での評価設定」の検討
- ・全校での共通実践事項の実施（下記に提示） ⇒APDCAを含む
- ・単元、題材計画の作成と評価（まとまりとなる単元・題材の評価）⇒C、Aを含む
- ・全校授業研究会、学部授業研究会等の実施

#### C、A：評価、改善

- ・授業デザインミーティングⅡの実施 ⇒年間指導計画、単元・題材計画の評価と見直し
- ・生徒（中学部・高等部）、教職員に対して授業づくりに関するアンケートⅡの実施

#### 【4つの共通実践事項】（1年次）

- (1) 児童生徒による評価が可能な「めあて」の提示
- (2) 一単位、単元のまとまりでの「振り返り」の設定
- (3) 「めあて」と「振り返り」カードの活用
- (4) 「めあて」と「振り返り」の整合性の検討

### 2年次

- ・1年次のAPDCAサイクルの継続
  - ・教科ワーキンググループ（以下、WGとする）の実施
- ⇒学部研究会（年間13回）のうち、その一部（4回計画）を全校縦割りの教科WG（国語科WG、保健体育科WG、職業科・家庭科WG）で実施し、学部を越えた学校の教育課程という視点での一貫性や系統性を図る。
- ・授業デザインミーティングへの教科WGメンバーの参加
  - ・全校での共通実践事項（2年次）の実施（下記に提示）
  - ・全校授業研究会の授業映像のオンライン配信
  - ・2年間の研究成果のオンライン配信
  - ・2年間の研究成果を教育課程検討委員会やキャリア推進委員会へ反映

#### 【3つの共通実践事項】（2年次）

- (1) 「めあて」と「振り返り（まとめ）」の整合性の検討
- (2) 児童生徒が学びを実感できる支援の工夫
- (3) 児童生徒の学びがつながる支援の工夫

※共通実践事項を学部の実情に合わせてさらに落とし込み、具現化した研究内容・方法を各学部単位で設定することにした。

## 5 対象

小学部：国語科 中学部：保健体育科 高等部：職業科・家庭科 寄宿舎：日常生活指導の場面

## 6 研究の実際

### (1) 教科WG（ワーキンググループ）の実施

研究対象の各教科について学部を越えた学校の教育課程という視点での一貫性や系統性を図るために、全校縦割りの教科WG（国語科WG、保健体育科WG、職業科・家庭科WG）を設定し、年間4回実施した。WGメンバーには、各教科の免許保有者や各学部の担当者などを選択したのち、全体のバランスを考慮して構成した。なお、各WGの実施した主な内容については、下記の表1に示した。

⇒教科WGに参加して、「他学部の実践や教材を知ることで、自分の学部の教科についても考え直す機会となった」「生活単元学習の中で、職業・家庭科の教科についての学習が多く取り扱われていることを知ることができた」「学習内容の生涯スポーツの視点（高等部）から今後取り扱いたい領域に気付くことができた」などの肯定的な意見が挙げられた。また、課題としては、「各学部のWGに所属していない職員に対して、WGの内容の伝達方法や情報の共有の仕方を検討する必要がある」などの意見が挙げられた。

＜表1＞教科ワーキンググループの主な内容

	内容	○成果	▲課題
国語科 WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導内容表（熊本大附属特別支援学校）を活用した各学部、学年の系統性の検討</li> <li>・国語科での教材・教具の紹介と情報交換</li> <li>・模擬授業（研究授業）</li> <li>・国語科と各教科等を合わせた指導との関連の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学部の取組を知り、理解を深められた。</li> <li>○授業づくりのヒントが得られた。</li> <li>○小1～高3までの指導内容に偏りや漏れがないか確認でき、各学部の系統性やつながりを考える機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲計画段階のため、実際に指導できたか、目標を達成できたのかは検証が必要である。</li> <li>▲情報交換の取組が多く、今後は改善案を出し合うことが課題である。</li> <li>▲実施、活動時間が限られていた。</li> </ul>
保健体育科 WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業の授業構想と指導案検討の実施</li> <li>・中学部3年間の年間指導計画の作成</li> <li>・小学部、高等部の年間指導計画作成への反映の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてに迫るアイデアを他学部視点からもらい、指導案に反映できた。</li> <li>○中学部器械運動での跳び箱の学習を受け、小学部でも今年度から開始した。（今までは未習事項）</li> <li>○高等部保健体育科での生涯スポーツにつながるような領域や単元を中学部でも参考にできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲出席率はよく、活発な意見交換が行われる反面、一部の教師の発言が少ない。（指導案検討）今後は、学部の枠を越えて、積極的に発言できる実施方法を検討する。</li> <li>▲高等部保健体育科への反映が少なかった。各学部の教育課程へ反映した取組が課題である。</li> </ul>
職業科 家庭科 WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部における職業科・家庭科に関する指導内容についての情報交換</li> <li>・指導内容表（熊本大附属特別支援学校）と年間指導計画を活用した中学部における指導内容の整理、検討</li> <li>・中学部における職業・家庭科に関する学習内容参考一覧の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導要領に示されている内容を中学部の教科等を合わせた指導の中で取り扱っていることを確認できた。また、系統性を考える機会となった。</li> <li>○中高の6年間のスパンで学習内容について話題にでき、効果的だった。</li> <li>○学習指導要領と照らした学習内容の整理や、根拠を明確にした検討につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲キャリア教育の視点から小学部段階からのつながりを検討できるとよい。</li> <li>▲個別の指導計画や年間指導計画の中で、職業・家庭科に関する内容がどの程度実施されているのか分からない部分がある。（中学部教育課程の再考）</li> <li>▲学習内容参考一覧の次年度の活用を進め、ブラッシュアップしていく。</li> </ul>

## (2) 授業デザインミーティングへの教科WGメンバーの参加

- ・研究対象の単元・題材の構成や計画及び他の指導の形態との関連について検討し、年間指導計画や日々の授業実践に反映させるために、授業デザインミーティングを実施した。
- ・1回目（4月中まで）は、授業担当者と各学部の研究部員で大まかな計画を立て、2回目（5月中まで）に授業担当者、学部主事、授業アドバイザー、研究部員、WGメンバーでさらに検討した。年度途中の3回目（夏季休業時）では、評価と見直しを図り、その後の学習内容や指導内容、方法の改善に生かした。授業デザインシート（図1）には、その都度加筆修正を加えた。

※1、2回目を合わせて授業デザインミーティングⅠ、3回目を授業デザインミーティングⅡとした。

⇒教育専門監を含む授業アドバイザーだけでなく、学部の枠を越えたWGメンバーから単元・題材計画を設定する際の留意点や授業づくりのアドバイスがあり、評価・改善を図る貴重な機会となった。

授業デザインシート	
学習グループ及び指導の形態 高等部1年 職業科・家庭科 指導者 【職業】○江美、石垣、高野、小池、神田、今野、美鈴 【家庭】○美鈴、石垣、高野、小池、今野、谷苗	
単元・題材について	各教科の目標・内容について
<b>児童生徒の実態、興味・関心</b> ・男子6名、女子8名、計14名。(中学部6名、外部8名) ○●女子は積極的に発言する。意見を出し合える。男子も自分の考えがある生徒もいるが、消極的である。 ●自分に自信がない生徒も。人を認めたり、人に認められたいしながら自己理解を深め、自信を持たせたい。 ○将来の夢や、卒業後のイメージを具体的に持っている生徒が多い。(働きたいという気持ちもある。)現実的でない生徒もいるが、自分の夢のために目標をもって頑張ろうという気持ちはある。 ▲【職業】実態差が大きく、いずれは実態に応じたグループでの活動を考えている。	<b>見方・考え方</b> 「職業に係る見方・考え方」 職業に係る事象を、将来の生き方等の視点で捉え、よりよい職業生活や社会生活を送るための工夫を行うこと。 「生活の営みに係る見方・考え方」 家庭科が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫すること。
目標、目指す姿	学習指導要領から
<b>【職業】</b> ①夢や目標に向かって、自分で小さな目標を決め、日々の生活で意識しながら取り組んでいこうとする姿。 ②友達と意見を伝え合ったり、協力し合ったりしながら、自己理解を深め、自分だけでなく相手のことも考えながら意見を出し合える。 ③生活の中で生かせるスキル(同意する音聲、様々な場面のコミュニケーションの適切な言動<〇〇と言われたら△△と伝えたらよい等>、雑談、ICTの利用の仕方など)を身に付ける。	職業科 A職業生活 ア 勤労の意義 ア 職業 B 専門知識の活用 C 職業現場等における実習
<b>【家庭】</b> ・健康的な生活をするために必要な基本的知識を身に付ける。 ・身の回りの整え方や家事の仕方を覚えて、自分から実践する。 ・簡単な調理や裁縫に挑戦する。	家庭科 A 家族・家庭生活 ア 自分の成長と家族 イ 家庭や学校での役割や責任の分担

＜図1＞授業デザインシート

また、課題としては、授業デザインミーティングの対象グループの数が多いと、小中高の職員の日程調整に苦慮したこと、実施回数の増加による負担感があることが挙げられた。

## (3) 全校授業研究会の実施と授業映像の配信

研究主題に沿った授業づくりや授業改善を進めるため、教師の手立てや評価の仕方を全職員で検証し、各学部や学級の授業実践に生かす機会として、全校授業研究会を3回(各学部1回)実施した。各学部の期日、指導助言者については下記の表2に示した。また、授業映像について視聴の希望を募り、オンライン配信した。

⇒昨年、指導案の様式を変更したことで、育成を目指す資質・能力での目標と評価規準が整理され、教師の支援と授業での評価場面が明確になった。また、授業研究会では、教科WGメンバーのバランスを考えて配置し、協議したことで、教科の見方・考え方の視点や学部の状況などの話題が挙がり、協議の深まりがみられた。

＜表2＞全校授業研究会の日程

学部	小学部	中学部	高等部
全校授業研究会 期日	事前授業研究会 8月31日(火) 授業提示・研究会 9月27日(月)	事前授業研究会 6月28日(月) 授業提示・研究会 9月6日(月)	事前授業研究会 10月7日(木) 授業提示・研究会 10月28日(木)
	指導助言者 由利本荘市教育委員会 大庭珠枝 指導主事	栗田支援学校 石垣徹 教育専門監	秋田大学 前原和明 准教授

⇒授業映像の配信では、コロナ禍の社会状況の中でも他校の教員に本校の授業を見てもらう機会を作ることができた。また、視聴後のアンケートでは、9割以上の教員から「とても参考になった」「まあまあ参考になった」のいずれかの回答が得られた。アンケートの記述の内容からも視聴した授業で気付いた改善点や様々な視点からの意見があった。

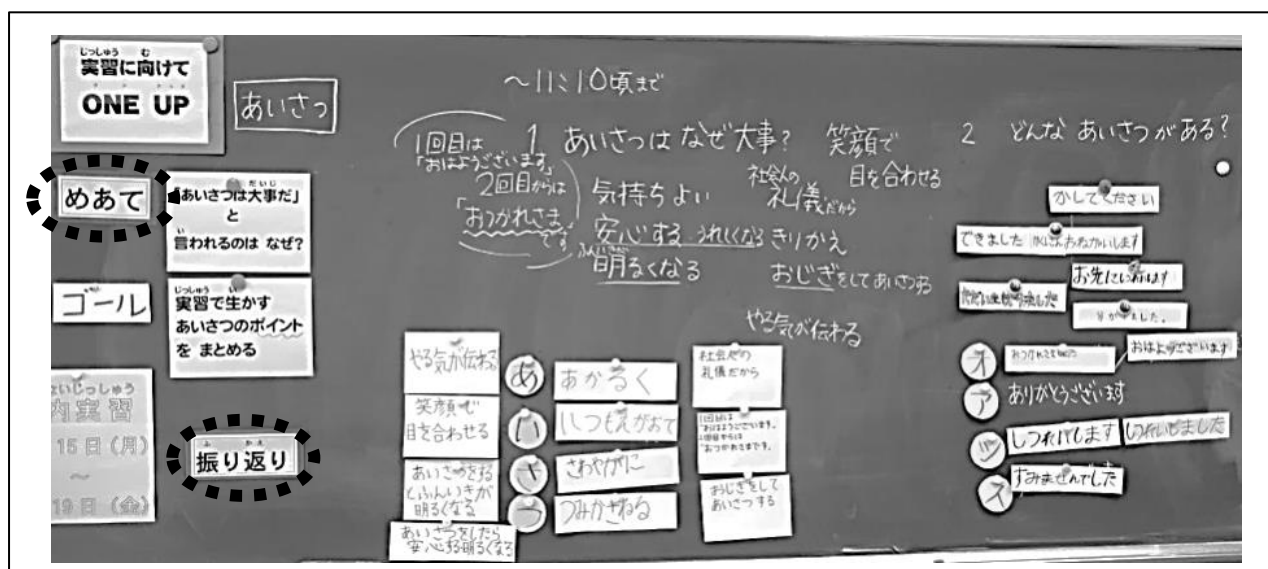
#### (4) 共通実践事項の推進

・研究主題の下、日常的な授業改善に向けた以下の3つの共通実践を全校で推進した。

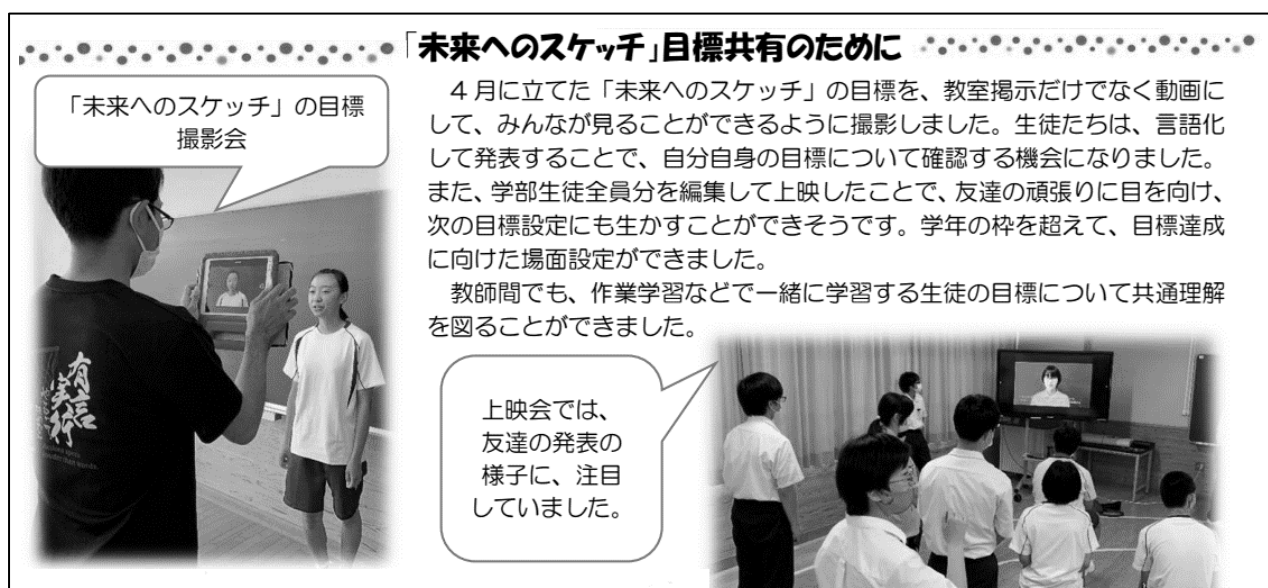
##### 【3つの共通実践事項】(2年次)

- (1) 「めあて」と「振り返り(まとめ)」の整合性の検討
- (2) 児童生徒が学びを実感できる支援の工夫
- (3) 児童生徒の学びがつながる支援の工夫

⇒各学部の具体的な取組内容や成果、課題については、各学部の研究の実地で紹介する。また、この後の「授業づくりに関するアンケートⅠ・Ⅱの実施」と「まとめ」の中で共通実践事項に関連させた成果と課題について述べる。下記に示した図2、図3は推進した実践の一例である。



＜図2＞授業の板書の蓄積と整合性の検討



＜図3＞未来へのスケッチ(キャリア・パスポート)の目標の撮影と共有(研究だより No. 1 抜粋)

## (5) 授業づくりに関するアンケートⅠ・Ⅱの実施

・研究の成果と課題を幅広く、かつ分析的に見取ることができるように、教職員に対して授業づくりに関するアンケートⅠ（1回目：5月）・Ⅱ（2回目：12月）を実施した。それぞれの項目の評価基準は、「よくしている」「よくできている」（4点）、「ときどきしている」「ときどきできている」（3点）、「あまりしていない」「あまりできていない」（2点）、「ほとんどしていない」「ほとんどできていない」（1点）とし、いずれかの選択で回答を求め、結果を数値化した。アンケートの結果ⅠとⅡを各学部、全体、全体の増減に分けて表3に示した。またアンケートⅡでは、カテゴリーごとに自由記述の欄を設け、その結果については表4に示した。

⇒2回目の評価が高い平均値（3.50ポイント以上）になったのは、「①学びの履歴、興味・関心など、子どもの実態を把握している」「③授業のねらいに合う教材・題材・資料等を選定している」「⑦日頃から『めあて』のカードを使って授業をしている」「⑨日頃から授業のゴールから『めあて』を設定している」の4項目であった。（昨年度、全17項目中1項目）

⇒1回目に比べ2回目の平均値が大幅（0.30ポイント以上上昇）な伸びとなったのは、「①学びの履歴、興味・関心など、子どもの実態を把握している」「②単元（題材）で目指す子どもの姿を明らかにしている」「③授業のねらいに合う教材・題材・資料等を選定している」「④発問や板書を意識して授業づくりをしている」「⑤単元（題材）や1単位時間の学習の見通しを子ども自身にもたせている」「⑥単元（題材）や1単位時間毎に一人一人の子どもの成長を評価している」「⑨日頃から授業のゴールから「めあて」を設定している」「⑩児童生徒が学んだことを整理したり、自分の考えをまとめなおしたりする時間を保障している」「⑬児童生徒が学びを実感していると思う」「⑭『めあて』と『振り返り』の整合性を意識した授業をしている」「⑮単元（題材）の計画を児童生徒と一緒に作っている」「⑰『児童生徒の学びがつながる』支援を工夫している」の12項目あった。（昨年度、全17項目中8項目）

⇒1回目と2回目の平均値のどちらも3.00ポイント未満となったのは、「⑩個別の指導計画の目標を児童生徒と一緒に共有している」「⑰個別の指導計画の評価を児童生徒と一緒に共有している」「⑮単元（題材）の計画を児童生徒と一緒に作っている」の3項目あった。（昨年度、全17項目中5項目）

⇒1回目と2回目を比べた増減値が一番伸びの低い学部に対して比べて大幅（0.30ポイント以上上昇）な伸びで、かつ、2回目の平均値が他学部に対して一番高くなった項目は、小学部の「④発問や板書を意識して授業づくりをしている」、中学部の「⑨日頃から授業のゴールから『めあて』を設定している」「⑭「めあて」と「振り返り」の整合性を意識した授業をしている」、高等部の「⑰「児童生徒の学びがつながる」支援を工夫している」「⑳児童生徒が学びをつなげる（次に生かす）様子が見られる」であった。

＜表3＞アンケートⅠ・Ⅱ結果

カテゴリー	項目	小	中	高	全体	全体増減
実態把握	①学びの履歴、興味・関心など、子どもの実態を把握している	3.29	3.00	3.08	3.13	+0.37
		3.59	3.53	3.41	3.50	
	②単元（題材）で目指す子どもの姿を明らかにしている	3.05	3.00	3.19	3.09	+0.40
		3.50	3.35	3.56	3.49	
授業づくり	③授業のねらいに合う教材・題材・資料等を選定している	3.32	3.06	3.23	3.22	+0.33
		3.62	3.41	3.59	3.55	
	④発問や板書を意識して授業づくりをしている	2.77	2.88	3.12	2.94	+0.40
		3.48	3.24	3.30	3.34	
	⑤単元（題材）や1単位時間の学習の見通しを子ども自身にもたせている	3.14	2.82	3.04	3.02	+0.45
		3.59	3.35	3.44	3.47	
	⑥単元（題材）や1単位時間毎に一人一人の子どもの成長を評価している	2.91	3.00	2.88	2.92	+0.35
		3.23	3.18	3.37	3.27	
	⑦日頃から「めあて」のカードを使って授業をしている	3.45	3.06	3.58	3.40	+0.25
		3.50	3.59	3.81	3.65	
	⑧日頃から「振り返り」のカードを使って授業をしている	2.64	2.71	3.04	2.82	+0.21
		2.86	2.88	3.26	3.03	
	⑨日頃から授業のゴールから「めあて」を設定している	3.27	3.00	3.12	3.14	+0.36
3.55		3.65	3.37	3.50		
⑩児童生徒が学んだことを整理したり、自分の考えをまとめなおしたりする時間を保障している	2.48	2.82	2.92	2.75	+0.36	
	2.91	3.24	3.19	3.11		
⑪活動や振り返りの際に、学習の成果を見取り、価値付たり意味付たりしている	3.18	2.88	3.00	3.10	+0.26	
	3.45	3.35	3.30	3.36		
⑫「児童生徒が学びを実感する」支援を工夫している	3.00	3.00	3.15	3.06	+0.15	
	3.18	3.06	3.30	3.21		
⑬児童生徒が学びを実感していると思う	2.77	2.88	2.77	2.80	+0.40	
	3.18	3.12	3.26	3.20		
授業改善	⑭「めあて」と「振り返り」の整合性を意識した授業をしている	3.27	2.94	3.04	3.09	+0.30
		3.41	3.47	3.33	3.39	
	⑮次の学習への意欲や見通しをもたせてから授業を締めくくっている	3.05	3.06	3.04	3.05	+0.22
		3.18	3.41	3.26	3.27	
	⑯個別の指導計画の目標を児童生徒と一緒に共有している	2.23	2.24	2.77	2.45	+0.19
2.23		2.71	2.93	2.64		
⑰個別の指導計画の評価を児童生徒と一緒に共有している	2.05	2.18	2.58	2.30	+0.28	
	2.18	2.53	2.93	2.58		
⑱単元（題材）の計画を児童生徒と一緒に作っている	1.68	1.94	2.38	2.03	+0.41	
	2.00	2.47	2.78	2.44		
その他	⑲「児童生徒の学びがつながる」支援を工夫している	3.05	2.71	2.81	2.87	+0.39
		3.23	3.18	3.33	3.26	
	⑳児童生徒が学びをつなげる（次に生かす）様子が見られる	2.95	2.94	2.85	2.91	+0.27
3.14		3.06	3.30	3.18		

※上段は1回目（5月）平均値、下段は2回目（12月）平均値の結果

＜表4＞アンケートⅡ 自由記述 結果

<p><b>成果</b></p>	<p><b>実態把握</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科以外での児童の様子を日常的に共有することができた。(教師)</li> <li>・担任や学年の教師、作業担当からも情報をつかむように、話を聞いたり、様子を見学したりするように心掛けている。(教師)</li> </ul> <p><b>授業づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの実感なのか、学習の中で「あー」「へえ～」などの言葉がよく見られる。(児童)</li> <li>・ゴールから授業を計画することで、Let's型からHow to型のめあてになってきた。(教師)</li> <li>・職業科や家庭科以外の授業でもめあてが練られてきたように感じる (教師)</li> <li>・導入時に前時の学習の確認テストを行った。学びにつながりにくい知的障害の生徒にとって、1時間完結の授業だけでなく、時間をおいて確認する効果を感じた。(教師)</li> <li>・本時の目指す姿(ゴール)をイメージし、「めあて」を考える習慣が付いた。(教師)</li> <li>・学びをつなげることができるように、家庭とも協力し合っている。(料理、そうじなど) また、長期休業中や卒業後も活用できるように、授業の工夫を紹介するようにした。(教師)</li> </ul> <p><b>授業改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりや粘り強さ、あきらめない心など時間をかけ、少しずつ育んでいくことも大事だが、体育で技術を教え、実体験として「できた喜び」を味わえることを指導することも、子どもにとっての学びの実感やモチベーションになると感じた。(生徒・教師)</li> <li>・未来へのスケッチの目標を言語化したことで目標達成の意識付けになった。また、他学年の生徒の映像を見ることで他者の頑張りに気付いたり、取組を参考にしたりしていた。(生徒)</li> <li>・卒業後の生活も見据えて、必要な課題、身に付けたい力も含め、個々の課題についても注目できるようにした。生徒同士の情報交換、意見交換の場も多くなった。(教師)</li> </ul> <p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の流れや学習内容を既習事項に合わせてレベルアップするようにしている。(教師)</li> <li>・物語に関心のある児童が多く、生単ともリンクさせて国語で学んだ物語を再度生単で行っている。逆に、生単から国語につなげているグループもある。(教師)</li> <li>・舎や家庭との連携した授業づくりや、長期休みの課題として職業科や家庭科で学んだことを生かす実践が生徒たちの必然性となり、つながる学びとなっている。(生徒・教師)</li> <li>・学年を越えた学習の機会は、先輩の学びを後輩につなげることができた。(生徒・教師)</li> <li>・実習後の2週間チャレンジを通して、課題を意識して生活する様子が見られた。(生徒)</li> <li>・学級の中で友達に手を貸したり、手伝ったりするなど、積極的に関わり、様々な場面で共有する機会が増えた。自らが協力し合える(察して動く)場面が増えた。(生徒)</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<p><b>授業づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実感できない場面や学びは実感していても定着までは難しいと感じることがある。(児童)</li> <li>・板書を理解できない生徒が多くいるため、口頭での即時評価を多くしている。(教師)</li> <li>・教師側から授業のめあてを提示が多いことと、振り返り時間の確保が課題である。(教師)</li> <li>・本時の学びや活動は振り返るが、生徒に残っているかは分からないときがある。(教師)</li> </ul> <p><b>授業改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態を考えると個別の指導計画の目標や評価、単元計画を児童と一緒に考えたり、共有したりするのは難しい。即時評価が主になっている。(児童・教師)</li> <li>・ねらいに対する振り返りはできているが、「グループ全員のめあて」となると文章にすることが難しく、めあて自体の設定に悩み、活動の提示で代替してしまうことがある。(教師)</li> </ul>
<p><b>今後に向けて</b></p>	<p><b>授業づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の見通しやめあて、振り返りは意識して行ったが、考えのまとめ直しや学んだことの整理、学習の成果の価値付けは不足していると感じる。今後、取り組んでいきたい。(教師)</li> </ul> <p><b>授業改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が指導計画のことを分かっていないことがあるため、今後は生徒と一緒に単元を考えたり、どの生徒にも分かりやすい計画を提示したりするようにしたい。(生徒・教師)</li> <li>・めあてとまとめ、振り返りの授業での適切な使い方をさらに勉強していきたい。(教師)</li> <li>・単元計画を生徒と一緒に作りたと思っていますが、高1には難しいところもあると感じる。いろいろな学びをし、知識も増えた高3になると可能であると思う。(生徒・教師)</li> </ul> <p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次の授業につなげるだけでなく、その授業から他の領域、教科等へ、また将来の豊かな生活へつなぐことを意識していきたい。(教師)</li> </ul>



## 7 まとめ

### (1) 共通実践事項の推進の効果と今後の課題

昨年度と同様に、アンケート結果Ⅰ・Ⅱを比較してすべての項目の数値が上昇しているこのことから、共通実践事項に全校で取り組んだことは一定の効果があったと推察される。特に、結果に示したように、項目1、3、7、9は、2回目の結果で3.50ポイント以上の数値であり、実態把握から授業づくりが行われるようになったことがうかがえる。また、この結果と自由記述の回答から、様々な授業の中で児童生徒に分かりやすい「めあて」の提示（What型、How to型など）と児童生徒に合わせた「まとめ」や「振り返り」の工夫、充実につながっていると見える。このことは、児童生徒の実態把握と目指す姿のもと、ゴール（振り返りやまとめ）から授業をデザインすることが定着し、子どもが「何を学ぶか」「何が身に付いたか」に着目するようになってきたと考えられる。

しかし、アンケートⅡの結果から「めあて」カードの活用が3.65ポイント（12月実施）であるのに対して、「振り返り」カードの活用が3.03ポイントと依然低い数値となっている。数値が低くなった要因の一つとして、自由記述では、振り返りのカードの活用や時間の確保、児童生徒が学びの振り返りを実感できる内容・方法の検討が指摘されていた。また、各教科の特質によっては、毎時間の振り返りよりも、まとまりとなる単元・題材での振り返りの方が、効果的な場合もあると考えられる。さらに、自由記述には、言葉や文字による板書の振り返りよりも、即時評価や具体物による評価を積み重ねることが有効という意見があった。今後は、児童生徒の思考の流れを理解した上で、学びをまとめ積み重ねていく内容や方法などについて、児童生徒が自ら学びを振り返り、学びを次時につなげていく授業実践を重ねながら検討していく必要がある。さらには、児童生徒の経験の差や障害特性に対応した更なる振り返りの工夫が必要であると考えた。

アンケート結果Ⅰ・Ⅱでは、個別の指導計画の目標、評価を児童生徒と一緒に共有し、単元（題材）計画と一緒に作っているという項目が2ポイント台と低い数値となった。自由記述の課題や今後に向けた取組として、目標や評価、授業計画の児童生徒との共有や作成が挙げられるなど、児童生徒自身の理解した目標や評価、計画の工夫、自分事になるしかけ（導入や様々な支援の工夫）が必要であろう。そのことで主体性が高まり、さらに児童生徒による学習評価の充実につながっていくと考える。

### (2) 育成を目指す資質・能力と教科の特質との関連

1年次の研究実践の中で、指導案の様式を変更し、「目標に対する評価規準」「めあて」「振り返り」の欄を設定したことが、各教科で育成を目指す資質・能力の3つの柱と観点別学習状況の評価の3つの観点の意味や関連の押さえにつながった。また、2年次の継続した取組が、アンケート記述に挙げられたように、授業における教師側のねらいの明確化や、評価場面や評価規準の焦点化につながった。

また、アンケート結果に示したように、他の学部より特に伸びが高かった項目として、小学部は項目4（発問や板書）、中学部は項目11（生徒への価値付け）、高等部は項目19（学びがつながる支援）が挙げられた。この結果は、小学部が国語科、中学部が保健体育科、高等部が職業科・家庭科を研究対象に設定し、授業実践を重ねたことによる「教科の特質」に関連し、他の学部よりも伸びが高かったのではないかと推察された。このことから、教科の資質・能力を育成していくためには、教科の見方・考え方を働かせ、教科の学び方や教え方の違いがあること、学びの積み重ね方に違いがあることを理解した上で、授業の構想から教科の特質についても検討し、実践を積み重ねていく必要があると考える。

### (3) 児童生徒による学習評価の充実に向けたポイントと4つの支援のサイクル

児童生徒による学習評価の充実に向けたポイントとして、小学部では「児童が自己評価できるめあての焦点化と多面的な評価の積み重ね」、中学部では「明確な目標、実践、視覚化された相互評価のスパイラル」、高等部では「長期的視点での学びの積み重ねと学びのバトンがつながる支援」というキーワードを挙げる事ができた。(各学部の研究の報告から)

本研究を通して、「児童生徒による学習評価の充実」をさせるために教師は、十分な実態把握の下、児童生徒のゴールの姿から授業をデザインする「目的と構想」からスタートし、児童生徒が主体として取り組める自分事になった「めあて」の提示が必要である。次に、授業実践や家庭、社会の中で活動する際には、児童生徒自身が学びを実感し、次につながる支援を関係者との「連携と実践」を積み重ねる。さらに、実践を児童生徒自身が評価し、「振り返り」の場面を設定することで、次の学びにつながる。この4つの観点での支援のサイクルから児童生徒による学習評価が充実されると考える。

## 8 教育課程編成に向けての提言

### **児童生徒が自分事になる授業と学びをつなぐ環境作り**

2年間の研究を通して、「資質・能力の育成」と「学習評価の充実」というキーワードから、改めて児童生徒が主語になる学校、児童生徒主体の授業づくりの必要性を感じた。今後の予測困難な時代の中で子どもたちが生きる力を身に付けて行くためには、児童生徒自身が、「自分事」になれるような魅力的な授業が必要であると考え。そのためにも2年間の研究で取り組んだ「めあて」や「振り返り」の設定、児童生徒が学びを実感し、学びをつなげることができる授業展開や学年間、学部間、や家庭や地域との連携については、今後も俯瞰的な視点で続けていくことが必要であると考え。

### **教科ワーキンググループの継続と弾力的な校内職員の活用**

本研究の成果の1つである教科ワーキンググループは、カリキュラム・マネジメントの充実の視点からも一貫性や系統性、職員の学びの機会、学部間の連携にもつながると考える。さらに、本校職員の教科の専門性を生かし、弾力的な職員の活用を提案する。例えば、音楽の教科を専門とする教師が他学部の授業に参加したり、小・中学部の進路に関する授業に高等部の教師が行ったりするなど、様々なケースが考えられる。令和3年1月に中央教育審議会から出された「令和の日本型学校教育の構築」の答申には、「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方」として、令和4年度を目処に小学校高学年での教科担任制の導入が検討されている。特別支援学校の特色の1つである各教科等を合わせた指導の専門性を高めるためには、その基礎となる教科の指導力の向上は必要条件であると考え。

### **学習履歴（スタディ・ログ）の活用による児童生徒の学びのつながり**

学習履歴（スタディ・ログ）は、上記の答申のICTの活用によつての教師の負担軽減する観点から、示された言葉である。本研究を通して、学部3年間の学習内容表の検討や、6年間、9年間、12年間といった長期的なスパンでの学びのつながりの必要性が挙げられた。その中で、小学部、中学部、高等部の授業の中で、学習指導要領に示されている育成を目指す資質・能力に基づいた目標や内容の既習事項と未習事項がどの程度取り扱われているのかと考えた。また、知的障害のため、一度の学習では定着が難しく、反復して学習する内容もある。その既習、未習、反復の3つの事項を示しながら、児童生徒の学びをつなげていくことは、今後さらに必要なことであると考え。そのことは、本校のカリキュラム・マネジメントの実現にもつながるであろう。

＜資料＞研究計画

月	全体としての流れ	具体的な取組		
		全校	学部・寄宿舎	その他
4月	○全体の研究主題、研究内容及び方法の検討、共通理解 ○学部等の研究内容、方法の検討 ○児童生徒一人一人の目指す姿の明確化（個別の支援計画） ○単元、題材計画の検討 ⇒授業デザインミーティングの実施	□第1回全校研（4月20日） ・全体研究の共通理解  □授業デザインミーティングの実施 ～5月末 ⇒ ①授業者間、②関係者間での検討（授業アドバイザー、教科ワーキンググループメンバー含む）	□第1回（4月26日） ・研究テーマ、研究内容・方法の検討	□第1回拡大研（4月14日） ・研究内容・方法の検討
5月	○全校、各学部、寄宿舎、道川分教室の研究内容及び方法の共通理解 ○授業実践及び評価、改善	□第2回全校研（5月19日） ・各学部、寄宿舎の取組、道川分教室の取組の共通理解 ・学習指導案の様式の共通理解	□第2回（5月24日） ・研究内容、方法の計画の提示	
6月	○授業実践及び評価、改善 ○授業研究会の実施	教科WG	□第3回（6月21日） ・研究対象の授業の授業実践、評価、改善を進める。	□クォーター研修会の実施（月1回程度）
7月	○授業実践及び評価、改善 ○授業研究会の実施 ○単元構成や支援の評価、見直し ○児童生徒の変容を検証、評価、目標の見直し	※教科ワーキンググループ  □授業デザインミーティングの実施/評価、改善 ～8月末	□第4回（7月27日：小中学部8月4日：高等部） ・単元計画や支援の検証 ・児童生徒の変容の検証 ・目標に対する評価、見直し	研究成果配信 1次案内 配付  ○全校授業研究会（年3回） 小： 9月27日 中： 9月6日 高： 10月28日 ○学部授業研究会 小： 8月31日 中： 6月28日 高： 10月7日 ※学部の計画で実施
8月	○後期に向けた単元構成、支援の検討、共通理解 ○学級及び学部内で児童生徒の目標の共通理解	半分教科WG	□第5回（8月17日） ・後期の学部の研究、単元計画や教師の支援の共通理解 ・児童生徒の目指す姿を学級、学部内での共通理解	
9月	○授業実践及び評価、改善 ○授業研究会の実施		□第6回（9月15日） ・授業実践、評価、改善	
10月	○授業実践及び評価、改善 ○授業研究会の実施	教科WG	□第7回（10月13日） ・授業実践、評価、改善	○寄宿舎参観週間 ・寄宿舎の計画で実施
11月	○授業実践及び評価、改善 ○授業研究会の実施 ○今年度の取組の成果と課題、児童生徒の変容の検証	教育課程検討委員会 キャリア推進委員会との連携	□第8回（11月22日） ・授業実践、評価、改善 ・授業実践における成果と課題、児童生徒の変容の検証	○年次研修 ・対象者と調整 ○他校（特別支援学校、由利本荘・にかほ地域の小・中学校）の授業研究会、公開研究協議会等への参加
12月	○今年度の成果と課題、児童生徒の変容の明確化  「研究ゆり」の執筆	半分教科WG	□第9回（12月20日） ・今年度の成果と課題、児童生徒の変容の検証 ・研究成果の配信に向けて	研究成果配信 2次案内 配付
1月	○今年度の成果と課題の共通理解 ○今年度の方向性の具体化		□第10回（1月11日） □第11回（1月17日） ・今年度の成果と課題、児童生徒の変容の共通理解 ・研究成果の配信に向けて	□第2回拡大研（1月24日） ・各学部、寄宿舎の成果と課題の共通理解 ・研究成果の配信に向けて
2月	○今年度の成果と課題の共通理解 ○今年度の方向性の具体化	□第3回全校研（2月4日） □第4回全校研（2月28日） ・各学部・寄宿舎の成果と課題を共通理解する。 ・次年度の取組を検討する。 □出張報告会（同日）	□第12回（2月22日） ・今年度の成果と課題の共通理解 ・次年度の取組の検討	研究成果配信 ※オンラインでの配信予定（2月14日）～
3月	○次年度の方向性の共通理解		□第13回（3月14日） ・次年度の取組を共通理解する。	

＜参考・引用文献＞

- ・秋田県立ゆり支援学校 研究紀要「研究ゆり」第22号 令和3年3月
- ・特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 文部科学省 平成29年4月
- ・特別支援学校高等部学習指導要領 文部科学省 平成31年2月
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省 平成30年3月
- ・特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）文部科学省 平成30年3月
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省 平成30年3月
- ・特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者各教科等編（高等部）文部科学省 平成31年2月
- ・「児童生徒の学習評価の在り方について」（報告）中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告 平成31年1月
- ・「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（改善等通知）文部科学省初等中等教育局長通知 平成31年3月
- ・「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」特別支援学校学習指導要領 学習評価参考資料 文部科学省 令和2年4月

研究主題

児童生徒による学習評価の充実  
—児童生徒が実感し、学びをつなげる授業づくりを通して—（2年次／2年計画）

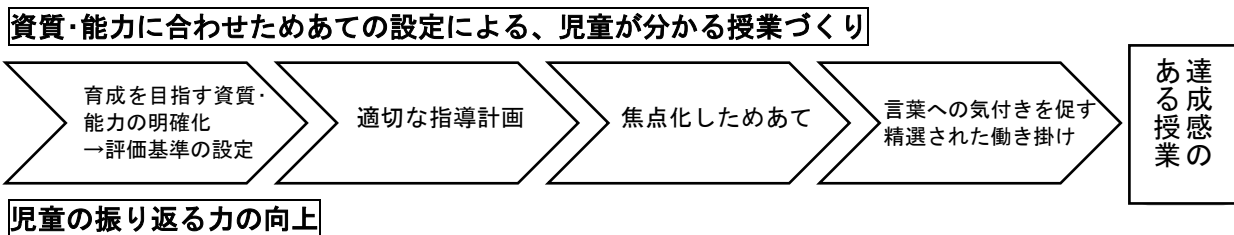
1 児童の実態

今年度の小学部には、男子23名、女子7名の計30名（うち1名は訪問教育）が在籍している。知的障害の他に、肢体不自由を併せ有する児童が5名おり、自閉的傾向を伴う児童も在籍している。

国語科は学年や学習進度、障害特性などを考慮し12のグループで週4単位時間、国語・算数として実施している。国語・算数の時間は、個別学習や小集団学習など、児童の実態に合わせて指導形態や学習内容を工夫しており、児童全員が意欲的に学習に参加している。しかしながら、国語・算数で学んだことを他の場面で活用することや、他者からの働き掛けに気付いたり、適切に答えたりすることに時間を要するなどの課題もある。

2 1年次（令和2年度）の成果と課題

(1) 成果



**児童の振り返る力の向上**

友達の答えの正誤を考えたり、友達の答えをきっかけに自分の考えを再考したりする姿が見られるようになった。また、相手に伝わるような発表を心掛けるようになり、発表を通してお互いを認め合うようになった。

**教師の学習評価に対する意識の高まり**

授業のゴールである振り返りを意識した授業をデザインできるようになってきた。また、児童の実態に合った振り返りを行えるようになってきた。

(2) 課題

**より適切なめあての設定と「何が分かったか」を大切にしたい振り返り**

自己評価したり、次のめあてを教師と一緒に立てたりする力を育むために、「できた」だけでなく、「何が分かったか」を大切にしたい振り返りを継続する必要がある。

**各教科等を合わせた指導との関連**

他教科においても、国語科の見方・考え方である「言葉による見方・考え方を働かせること」を意識した指導を行う。

3 目指す児童の姿（2年次）

- ・国語科で学んだことを生活や他教科などで生かしている。
- ・相手の話や問い掛けに気付いたり、考えて答えたりする。

#### 4 研究対象教科

- ・国語科

#### 5 内容与方法

##### 【小学部研究】

###### ○実態把握①

- ・学習指導要領の活用→特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（H29）に示される各教科の「目標」に照らして「内容」の習得状況をチェックする。（6月）

※参考：福島県特別支教育センター2020【学びの履歴】

- ・子ども理解シートの活用→自立活動の視点から児童の実態を捉える。

###### ○授業デザインミーティング

###### ○年間指導計画の作成

###### ○授業づくり

- ・国語科

###### ○単元配列表の活用：関連の明確化

- ・日常生活の指導
- ・生活単元学習

###### ○エピソード記録の蓄積

- ・児童が国語科で学んだことを日常生活の指導や生活単元学習で生かしている姿

- ・教師の働き掛けや環境設定など

###### <授業づくりのポイント>

- ・生活に生きる指導内容
- ・焦点化したためあての設定

###### <授業づくりのポイント>

- ・国語科と関連させた指導内容
- ・国語科の学習成果を生かした学習活動の設定

###### ○授業実践

- ・模擬授業
- ・授業研究会
- ・授業を見合う会  
→授業者が参観の観点(意見がほしいこと、悩んでいること等)を提示して実施

###### ○板書記録等を活用したためあてと振り返りについての情報交換

###### ○実態把握②

- ・学習指導要領の活用→特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（H29）に示される各教科の「目標」に照らして「内容」の習得状況をチェックする。（12月）

※参考：福島県特別支教育センター2020【学びの履歴】

##### 【国語科ワーキンググループ】

###### ○各学部における国語科の指導内容について情報交換

- ・年間指導計画の活用

###### ○小学部から高等部までの指導内容の系統性について検討

- ・熊本大学教育学部附属特別支援学校「指導内容確認表」の活用

###### ○教材・教具を見合う会

- ・授業づくりに生かせるように、各学部の国語科の授業で使用している教材・教具を紹介し合う。

###### ○小学部研究に関する意見交換

- ・小学部研究の改善や発展を図るため、学部の枠を超えた視点から小学部研究の取組を考える機会の設定

## 6 研究の実際

### (1) 実態把握

#### ①学習指導要領を活用した実態把握

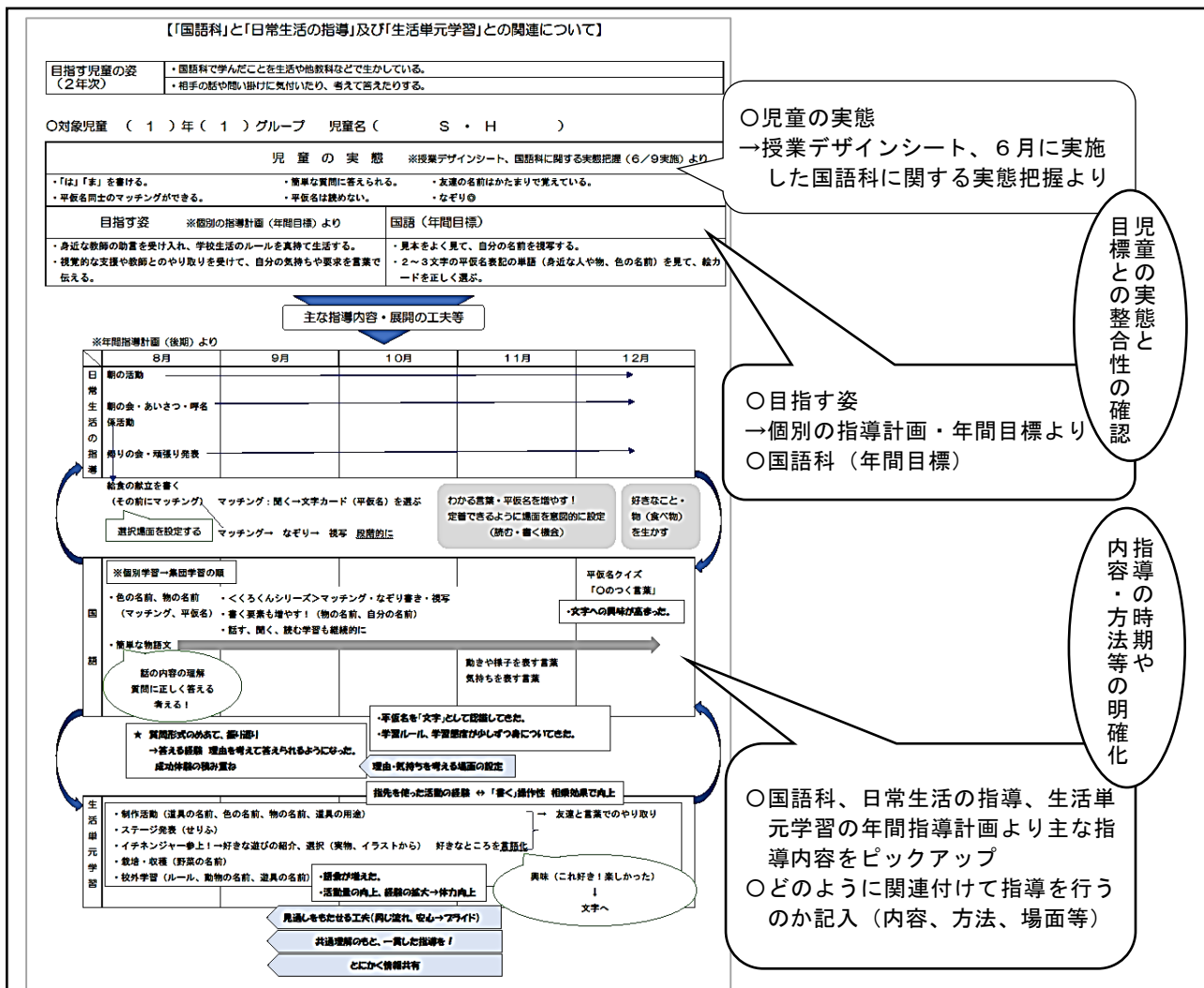
昨年度に引き続き、福島県特別支援教育センター2020【学びの履歴】のシートを活用した。特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(H29)に示される国語科の目標に照らして、「内容」の習得状況を6月と12月に全児童を対象にチェックした。(資料1)

#### ②子ども理解シートを活用した実態把握

自立活動の視点から児童の実態を捉えられるように、昨年度、本校自立活動推進員会で作成した子ども理解シートを活用した。研究授業を実施する学習グループから児童を1名ずつ抽出し、グループ協議を行った。(資料2)

### (2) 国語科と日常生活の指導及び生活単元学習との関連

- 各学年から児童を1名抽出し、国語科と日常生活の指導及び生活単元学習とをどのように関連付けて指導を行っていくのかを、単元配列表を活用して明確にした。また、具体的な指導の時期や内容・方法についても検討した。(図1)
- 児童の変容や様子(国語科で学んだことを国語科の授業以外の場面で生かしている姿など)を、教師の支援と合わせてエピソード記録として記録した。

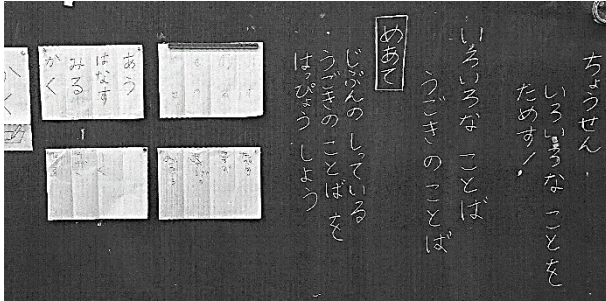


<図1> 単元配列表



### (3) めあてと振り返りについての記録と情報交換について

- ・学習グループ毎に、板書や教材教具を写真に撮って記録した。板書や教材教具の記録は、教師の指導の評価の一材料にもなった。(図2、3)
- ・授業改善に役立てるために、それぞれの学習グループのめあての提示の仕方や、振り返り方法などの情報交換を行った。情報交換の際には、板書記録や実際に用いた教材教具を活用した。



<図2>板書記録①



<図3>板書記録②

### (4) 国語科ワーキンググループの取組について

#### ①各学部における国語科の指導内容についての情報交換と系統性についての検討(6月実施)

各学部で作成した国語科の年間指導計画を持ち寄り、指導内容の情報交換を行った。さらに、熊本大学教育学部附属支援学校「指導内容確認表」を参考にし、各学部で計画している指導内容を表にまとめた。小学部から高等部までの指導内容に偏りや穴がないか確認を行い、それぞれの指導計画の見直しをするとともに、指導内容の系統性について検討した。(図4、5)

【各学部の国語科の指導内容】		知識・技能		思考力・判断力・表現力		学びに向かう力、人間性等	
	言葉の特徴や使い分け	情報の強い方	我が国の言語文化	聞くこと・話すこと	書くこと	読むこと	
小学部 (6年)	丁寧な言葉遣い	図像を使った調べ学習	習語 言葉の面白さ	相手に応答できるように 表現する 一問一答学習の発展	書くこと 自分の感想 (表現豊かに)	音読の工夫 読み取り 心情の想像	
中学部 (1・2年)	話し言葉と書き言葉 (読もう、書こう)	絵本 事柄の順序等 (読もう、書こう)	記述 (お礼状)	行事の振り返り (お礼状)	発表、報告、漢字 学級名、片名 自分の名前 (漢字)	構成と内容の把握 (正しく読もう、書こう)	
高等部 (3年)	5W1H メモ		漢字や文法 文法 (動詞・指示語)	読書 読みの取り 伝言ゲーム (正しく伝える)	漢字 漢名	読小説 朗読	

<図4>小学部から高等部までの指導内容一覧(例)

【A グループの協議より】	
<p>分かったこと、気付いたこと</p> <p>&lt;底 葉&gt; 表裏的なつながりあり、 まんべんなく上がっている</p> <p>・ていねいな言葉づかい 自分の感想(表現の豊かさ)を随す →中・高に(お礼状等)つながっている</p> <p>・コミュニケーションにつながる</p> <p>・(高)メモ、礼状 実生活に密着している内容</p>	<p>気付いたこと</p> <p>&lt;課題 題&gt; ・基礎的なことをやらせよう? (5W1Hも、メモも、基礎が必要)</p> <p>・(実態にもよる)</p> <p>・話す、伝える喜びを身に付ける</p> <p>・筋数が少なくなっている (H4→中3→高2)</p>
改善案(これからできそうなこと)	
話す、伝える喜びを身に付けられるように、学級差しさを感じながら指導していくこと	
<その他>	

<図5>系統性についての検討結果(例)

#### ②教材教具を見合う会の実施(8月実施)

授業づくりに生かせるように、各学部の国語科の授業で使用している教材教具について紹介し合った。障害特性に合わせた教材や、素材の使い方が参考になったという成果があった一方で、教材の改善点について意見交換したり、一定期間展示し、じっくりと見る機会を設けたりすればよかったという反省もあった。



教材教具を紹介している様子

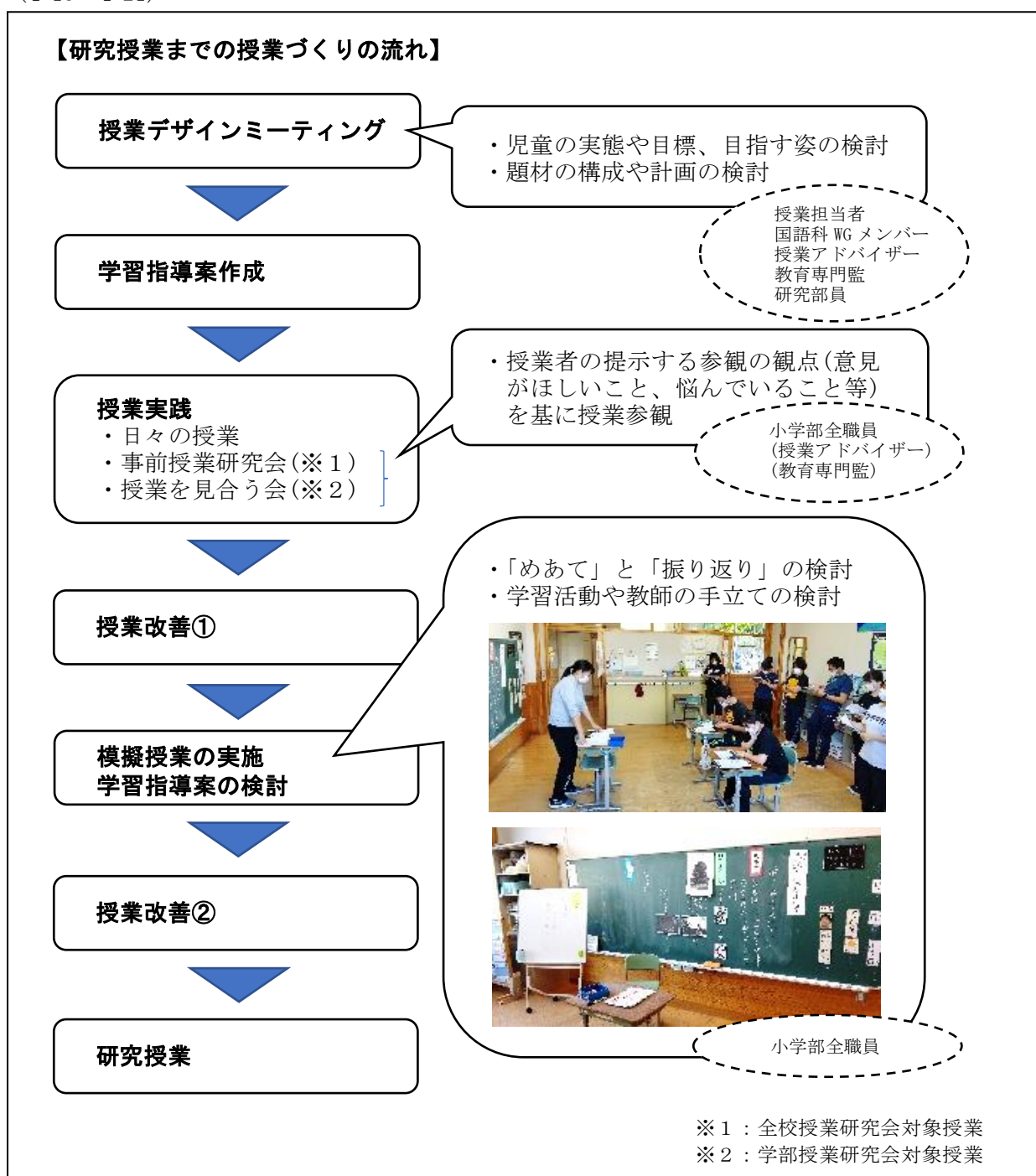
### ③小学部研究に関する意見交換(10月実施)

小学部研究の取組の1つである「国語科と日常生活の指導及び生活単元学習との関連」に関して、改善と発展を目指して意見交換を行った。他学部の視点を取り入れたことで、小学部卒業後の生活や学習につながっていく指導内容にバージョンアップすることができた。また、協議や教育専門監からの助言を通して、国語科で「付きたい力」と「付けなければならない力」を吟味する必要性についても考える機会となった。

### (5) 授業実践

授業実践については全12学習グループのうち、第12グループを対象とした全校授業研究会(9月実施)と第1グループを対象とした学部授業研究会(10月実施)の実践について紹介する。

(P18～P21)




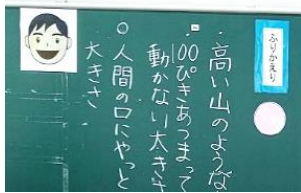


【授業実践1】小学部 国語科 6年 第12グループ：全校授業研究会対象授業

児童の実態（授業デザインシート、国語科に関する実態把握より）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>主語と述語の関係や助詞の使い方により、意味が変わることが分かる。</li> <li>言葉の意味を正しく理解していなかったり、間違った使い方をしたりすることがある。</li> </ul>	
目指す姿（授業デザインシートより）	年間目標（国語科）
<ul style="list-style-type: none"> <li>場に相応しい言葉を考えて使う。</li> <li>本に親しむ。</li> <li>抽象思考を働かせて自分の意見や感想をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語を読み、登場人物の心情を想像したり、自分の意見や感想をもったりする。</li> </ul>

題材名	物語を読みましよう「大きなあめ玉」	
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語文に親しみ、新しい語や語句に触れたり、意味を正しく理解したりする。                      中学部2段階ア(エ)【知識及び技能】</li> <li>物語を読んで、あらすじや印象深い場面を考えて発表する。                      中学部1段階Cのエ【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>祖父母の姿に目を向け、感謝の気持ちや尊敬の念をもっている。                      【学びに向かう力、人間性】</li> </ul>	
指導計画	①「もしもありだったら」をテーマに、ありの生態を調べたり、あり目線の映像や疑似体験をしたりする。 ②段落1～4を音読し、語や語句を確認し、あめ玉の様子について読み取る。 ③段落5～6を音読し、おじいさんありに対する若いありたちの気持ちの移り変わりを想像する。	④段落7～8を音読し、物語全体を通して、一番心に残った場面を考えて発表する。 ⑤⑥祖父母が普段してくれていることを思い出したり、祖父母について父母にインタビューしたりする。



<7月>

教師の主な支援	児童の様子・エピソード
<b>①体験的な活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「びくとも動きません」を動作化・疑似体験</li> <li>本当に動かない物に実際に触れて確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から床に寝転び、「大きなあめ玉」に見立てたバランスボールを下から見上げ、あり目線を疑似体験した。</li> <li>身の回りの「びくとも動かない」ものを探す活動では、教室の中や外に出て、様々なものを実際に押ししたり引いたりして探した。</li> </ul>  <p>〈黒板を押している様子〉</p>
<b>②板書(振り返り)の工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「あめ玉」の大きさについて、ありと人間のそれぞれの視点から考えるためのイラストの提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ありから見たあめ玉の大きさと、人間から見たあめ玉の大きさについて、読んだ内容から考えて答える姿が見られた。</li> </ul>  <p>〈板書の工夫〉</p>
<b>&lt;授業改善ポイント&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>物語全体を俯瞰して読むこと（鳥の目）と文中の言葉を掘り下げること（虫の目）の両方を鍛えることを意識する。</li> <li>単元のねらいが「読む」ことであれば、最後までそこにこだわって、読んできたことを生かす総まとめを計画する。</li> </ul>	



<b>題材名</b>	物語を読みましよう「モチモチの木」	
<b>題材の目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様子や行動、性格や気持ちを表す語句を増やす。  <div style="text-align: right;">中学部2段階ア(エ)【知識及び技能】</div> </li> <li>・登場人物の行動や会話から、場面の情景や登場人物の心情を想像する。  <div style="text-align: right;">中学部2段階Cのア【思考力、判断力、表現力等】</div> </li> <li>・文を読んで、出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉える。  <div style="text-align: right;">中学部2段階Cのイ【思考力、判断力、表現力等】</div> </li> <li>・読み聞かせ会を開いて、物語の情景が相手に伝わるように読もうとする。中学部2段階ウ【学びに向かう力、人間性等】</li> </ul>	
<b>指導計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①昔の暮らしについて学習する。</li> <li>②物語の朗読を聞いて、心に残ったことを考えて発表する。</li> <li>③単元末の「読み聞かせ会」に向けた計画を立てる。</li> <li>④「おくびょう豆太」の場面を読み、登場人物の性格や関係性などを捉える。</li> <li>⑤「やい、木い」の場面を読み、昼と夜のモチモチの木に対する豆太の態度の違いや気持ちを捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥「霜月二十日のぼん」の場面を読み、“神様のお祭り”の概要やじさまや豆太の気持ちの対比を考える。</li> <li>⑦⑧「豆太は見た」の場面を読み、起こった出来事や気持ちを捉える。</li> <li>⑨「弱虫でも、やさしけりゃ」の場面を読み、登場人物の性格や関係性の変化について考える。</li> <li>⑩⑪読み聞かせ会の準備や練習をする。</li> <li>⑫読み聞かせ会を開く。</li> </ul>

<9月>

教師の主な支援	児童の様子・エピソード
<b>①児童とともに作り上げる板書</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>昼と夜の登場人物の態度の違いを捉え、思考を整理するための教材の工夫→イラストや短冊の活用</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豆太の態度を表す言葉や文を短冊にしたものを、昼夜それぞれのモチモチの木の絵の上に『いばっていた』のは…昼』等、つぶやきながら貼り、豆太の態度の違いを整理した。</li> </ul>  <p style="text-align: right;">〈イラストと短冊を活用している様子〉</p>
<b>②視覚教材の工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モチモチの木の<u>大きさをイメージできる写真の提示</u></li> <li>・昔の暮らしを学習した際に、<u>分かったことをすぐに振り返られる掲示物</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モチモチの木のモデルである「とちの木」の拡大写真を見て、「本当に実するんですか」と驚く姿が見られた。</li> <li>・単元の導入で昔の暮らしを学習した際、夜がどれだけ暗かったかを掲示している写真を度々振り返って、「えー！ぼくもトイレ行けないよ」等と発言した。</li> </ul>  <p style="text-align: right;">〈大きさをイメージできる写真〉</p>

**成果と課題 (○成果 ▲課題)**



- “全体を俯瞰で読む時間”“単元の見通しをもつ時間”、そして、読むことの学びを生かした「読み聞かせ会」を単元末としたことで、読む力を付ける構成になった。「読み聞かせ会」の動画で振り返りをした際に、児童から「すごいね。長い文がすらすら読めた」というつぶやきが聞かれた。児童自身が「読む力が付いた」と実感できたようだった。
- 物語文に関する学習を積み重ねてきたことで、読書活動の際、以前は絵本や図鑑などを選びがちだったが、自分から物語文を選択するようになってきた。
- ▲学習集団が小さくても、児童が解釈を広げ、言語化し、思考が深まるように、教師が児童の一員となって、あえて失敗して気付きを引き出したり、問い返したりする活動を行う。
- ▲授業の途中でも、前の場面とのつながりを振り返りながら物語を俯瞰で見る「鳥の目」や、似ている表現の言葉を見付ける「虫の目」をより鍛えられるとよい。

【授業実践2】小学部 国語科 1年 第1グループ：学部授業研究会対象授業

児童の実態（授業デザインシート、国語科に関する実態把握より）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字(平仮名)に興味をもち始めており、自分や友達の名前に含まれる平仮名を見つけたり、書いたりできる。</li> <li>・語彙の少なさが見受けられ、発問に答える意欲は十分にあるものの、正しく受け答えができないことがある。</li> </ul>	
目指す姿（授業デザインシートより）	年間目標（国語科）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み聞かせなどを通して語彙を増やす。</li> <li>・自分の意見を発したり、友達の話を聞いたりして、友達同士で学び合う楽しさを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人や物の名前、動作を表す言葉などの語彙を増やす。</li> <li>・簡単な平仮名を読んだり、書いたりする。</li> </ul>

題材名	くれよんのくろくん	
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本に登場する色の名前や物の名前を知る。小学部2段階ア（ウ）【知識及び技能】</li> <li>・絵本の読み聞かせを聞き、登場人物が描いたものの名称を平仮名で表したり、身振りで表現したりする。小学部2段階A（ア）【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>・絵本の読み聞かせを聞いて、あらすじを理解したり、登場人物の気持ちを考えたりする。小学部2段階ウ【学びに向かう力、人間性等】</li> </ul>	
指導計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①登場人物（きいろくん、ピンクちゃんなど）が作中で描いた物の名前や色を知り、平仮名や色をマッチングする。</li> <li>②仲間外れにされた場面のくろくんの気持ちを考え、せりふを話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③みんなに「すごいね」や「ごめんね」と言われたくろくんの気持ちを考え、せりふを話す。</li> <li>④登場人物になりきって、絵本と同様にスクラッチを体験する。</li> </ul>

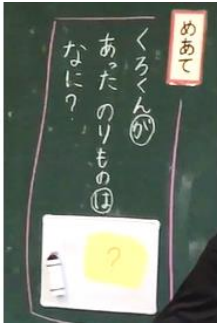
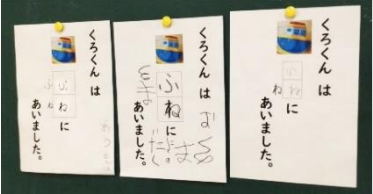
<7月>

教師の主な支援	児童の様子・エピソード
<p>①学習意欲を高めるための教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物を、<u>実際に手に取ったり動かしたりできる工夫</u> →くれよん人形の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くれよん人形が登場すると「うわ～」と歓声を上げ喜び、絵本の読み聞かせや学習に対する関心意欲が高まった。「あおくん」や「あお」と登場人物の名前や色の名前を正しく話すことができたようになった。</li> </ul>  <p>〈くれよん人形〉</p>
<p>②言葉を定着させる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>言葉に身振りを添える支援の徹底</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲は十分にあるものの、これまで上手に表出できなかったA児だったが、T2と身振りを確認しながら言葉を押さえていったことで、自信をもって表出できるようになってきた。</li> <li>・身振りをB児とC児がまねるようになったことで、2名についても言葉の定着が見られ、効果的であった。</li> </ul>  <p>〈身振りをしながら発表している様子〉</p>
<p>&lt;授業改善ポイント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おさえたい言葉の精選・・・「色」又は「物の名前」に絞り込む。めあての焦点化にもつながる。加えて、教師の発問も吟味する。</li> <li>・TTの役割分担・・・学習活動毎にT1を交替し、活動にメリハリをもたせる。</li> </ul>	



<b>題材名</b>	くろくんとふしぎなともだち	
<b>題材の目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本に登場する乗り物の名称を知り、平仮名表記の単語カードと正しく選ぶ。 小学部2段階ア(ウ)【知識及び技能】</li> <li>絵本の内容を概ね理解し、教師の発問に言葉や身振りで答えたり、答えを平仮名で書いたりする。 小学部2段階A(ア)【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>登場人物の気持ちを考え、役になりきって友達や教師とせりふの掛け合いをする。 小学部2段階ウ【学びに向かう力、人間性等】</li> </ul>	
<b>指導計画</b>	①登場する乗り物の名前を知り、平仮名をマッチングさせたり、書いたりする。 ②けんかの場面と仲直りをする場面の登場人物の気持ちを考え、言葉や表情などで表す。	③②の場面について、簡単なせりふや動作を覚えて、登場人物になったつもりで簡単な劇をする。 ④学級の友達や先生に劇を発表する。

<10月>

教師の主な支援	児童の様子・エピソード
<b>①めあての提示方法の工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>視覚的な教材を活用しためあての提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字での提示に加えて、前題材の「くれよんのくろくん」で作成したくれよん人形を導入時に活用した。視覚的な教材を用意し、それを操作しながらめあてを確認したことで、学習グループの3名ともめあてを理解できた。それによって、「分かった！」と積極的に発言したり、「あれかな～」と答えを予想したりしながら読み聞かせを聞く姿が見られた。</li> </ul>  <p>〈めあての提示〉</p>
<b>②一人一人の児童の学びの保障</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態に応じた難易度の異なる課題の設定</li> <li>実態に応じたワークシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれのねらいに迫る活動を設定したことで、友達同士で「がんばって!」「○○さん、すごいね」などと頑張りを認め合う姿が見られるようになった。</li> <li>個々の実態に応じたワークシートを用意し、振り返りで活用した。自分で書いたもので振り返りをしたことで、これまでよりも達成感を存分に味わっている様子が見られた。</li> </ul>  <p>〈ワークシートを活用した振り返り〉</p>

**成果と課題 (○成果 ▲課題)**

- 「平仮名クイズ」という活動を導入し、学習活動のルーティンに組み込んだ。クイズ形式(例:「あ」のつく言葉は何?)にしたことで、3名ともとても楽しみながら、平仮名の書き順を指でなぞって確かめたり、言葉探しに取り組んだりできた。言葉の中の該当する平仮名を指差したり、自分から答えとなる言葉の話したりするなど、語彙の広がりにも効果的であった。
- 話すことに自信をもてるようになり、以前よりも積極的に発言するようになってきた。
- 7月と10月で同じシリーズの絵本を題材にしたことで、読み聞かせだけでなく登場人物にも親しみをもって、好きなせりふをまねたり、登場人物の名前を呼んだりする姿が見られた。
- ▲成功体験だけではなく、あえて失敗しそうな場面を設定したり、「本当にそう？」など揺さぶりをかける発問をしたりして、児童の思考や気づきを促す。
- ▲言葉の精選や吟味をさらに行い、本時でおさえたい言葉(今回は「ふね」)に、より焦点を当てた授業構成も考えられる。そのためにも、振り返りに十分な時間を取り、教師や友達とのやり取りの中で「ふね」と話したり、身振りで表したりすることも有効だと考えられる。



## 7 まとめ

### (1) 児童の変容

丁寧な実態把握や、各教科等を合わせた指導とのつながりを意識した授業づくりを積み重ねてきたことで、表1に示したように「国語科で学んだことを生活や他教科などで生かしている姿」と「相手の話や問い掛けに気付いたり、考えて答えたりする姿」が見られるようになってきた。一方で、学習態度・ルールの遵守や既習事項の定着、習得状況の異なる児童への支援の工夫などの課題も挙げられた。今後は、児童の実態の変化を的確に捉えていくことや、指導の評価により焦点を当てていくことも必要である。

#### <表1>エピソード記録より

国語科で学んだことを生活や他教科などで生かしている姿
○「はるまの『は』だね」など、自分の名前に含まれる文字が読める(書ける)ようになった。(1年) ○気持ちを表す言葉と実際の表情が結びつくようになり、図画工作で描く絵の表情が豊かになってきた。(3年) ○国語で学習した文字「り」を、手紙を書く学習(生活単元学習)で思い出して書くことができた。 →「あ『り』がとう」(4年)
相手の話や問い掛けに気付いたり、考えて答えたりする姿
○教師の問い掛けに対して即答したり、的外れな回答をしたりすることが少なくなり、じっくりと考えてから挙手したり答えたりするようになった。(2、6年) ○言葉を動作化したり、体験の伴う活動をしたりしたことで、話されていることや問い掛けの内容が分かるようになってきた。(3年)

### (2) 学びを実感し、学びをつなげる支援の工夫

#### 丁寧な実態把握：学習指導要領、子ども理解シート(自立活動推進委員会作成)の活用

福島県特別支援教育センター2020【学びの履歴】を活用したシートを用いて、学習指導要領に示される「目標」に照らして、その「内容」の習得状況をおおまかに捉え、一人一人の児童に合っためあての設定ができた。また、段階別、観点別に評価を行い、児童の実態、成果、今後の課題を明らかにすることもできた。しかしながら、実態把握として考えるには、目が粗いという意見も少なくなかった。「学びの履歴の把握」として活用することが適切であると考えます。

子ども理解シートの活用は、児童の現状(できること、課題、必要な手立て等)についてじっくりと協議したり、情報を共有したりすることに有効だった。また、自立活動の視点から児童の実態を把握することができ、児童の特性に合わせた支援を行うことにもつながった。

#### 単元配列表の活用：各教科等を合わせた指導とのつながりを意識した授業づくり

単元配列表を活用して、リンクさせる指導内容、具体的な指導・支援方法、実施時期を明確にし、国語科と日常生活の指導及び生活単元学習とのつながりを意識した授業づくりができた。また、学級担任だけでなく学部全体で各学級の取組を共通理解することができた。(表2)

一方で、単元配列表を用いた検討会は、年間指導計画の作成と同時期に行うことが望ましいなど、時期の設定なども課題として挙げられている。教務部などの他分掌との連携も必要である。

#### <表2>小学部職員に対する授業づくりに関するアンケート結果 ～一部抜粋～

項目	5月	12月	増減
⑩「児童生徒の学びをつなげる」支援を工夫している	3.05	3.23	+0.18

※評価基準 4：よくしている 3：ときどきしている 2：あまりしていない 1：ほとんどしていない (以下のアンケート結果についても同様)

### (3) 児童による学習評価の充実

#### 児童が自己評価でき、学びを実感する「めあての焦点化」

丁寧に実態把握を行い、国語科で育成を目指す資質・能力が明確になったことで「単元、授業のゴール」も明確になった。また、授業づくりの中に模擬授業を取り入れたことで、授業者だけでなく、学部職員全員が自分事として授業改善に参加し、児童側、教師側それぞれの立場に立って、めあての焦点化及び提示方法(思考を促す提示、分かりやすい言葉の吟味、イラスト等の活用など)について考えることができた。さらに、必要な学習活動や教材教具、発問などについても検討できた。これらのことを通して、児童が自己評価したり、学びを実感したりできる「めあての焦点化」に対する教師の意識が高まり、振り返りの充実にもつながったと考える。(表3)

＜表3＞小学部職員に対する授業づくりに関するアンケート結果 ～一部抜粋～

項目	5月	12月	増減
②単元(題材)で目指す子どもの姿を明らかにしている	3.05	3.50	+0.45
⑤単元(題材)や1単位時間の学習の見通しを子ども自身にもたせている	3.14	3.59	+0.45
⑨日頃から授業のゴールから「めあて」を設定している	3.27	3.55	+0.28
⑭「めあて」と「振り返り」の整合性を意識した授業をしている	3.27	3.41	+0.14

#### 多面的な評価の積み重ね：エピソード記録、学習成果の見取り

エピソード記録や児童の変容に関する協議を通して、児童が学んだことを生活の中で生かしている姿を教師が日常的に意識するようになった。また、自己評価の難しい児童が学びを実感できるように、学んだことを他の場面で生かしている様子を見取り、価値付けるようになった。(表4)

エピソード記録については、単元配列表(図1)に直接記録したことが、他の学習グループの授業づくりの参考になった。しかし、エピソードをこまめに記録することや、指導者に学級担任が含まれていない学習グループに属する児童に関して、情報を共有する機会の設定の仕方には課題があった。小単元ごとにエピソード記録をまとめ、情報を共有する機会を設けるなどの工夫が必要だった。

＜表4＞小学部職員に対する授業づくりに関するアンケート結果 ～一部抜粋～

項目	5月	12月	増減
⑪活動や振り返りの際に、学習の成果を見取って価値付けたり、意味付けたりしている。	3.18	3.45	+0.27
⑬児童生徒が学び実感していると思う	2.77	3.18	+0.41
⑲「児童生徒の学びがつながる」支援を工夫している。	3.05	3.23	+0.18
⑳児童生徒が学びをつなげる(次に生かす)様子が見られる	2.95	3.14	+0.19

## 8 教育課程編成に向けての提言

#### 目指す児童の姿に迫るための基盤づくりの継続と、情報共有の工夫

多角的な実態把握や、国語科と各教科等を合わせた指導との関連の明確化は、目指す児童の姿に迫る基盤となり、児童の実態に応じた授業づくりや学習評価の充実につながった。しかしながら、学級担任を始めとした関係職員で、授業や児童の変容などに関して情報を共有することについては課題があった。今後は、目指す児童の姿に迫る基盤づくりに引き続き取り組むとともに、職員間で確実に情報を共有する工夫を行い、より一層の学習評価の充実を目指していきたい。

#### 指導形態の検討

これまでは「国語・算数」として国語科と算数科の指導を行ってきた。児童の実態に合わせて集団の大きさや学習内容を工夫していたが、指導時間に偏りが生じる等の課題もあった。今後は、国語科と算数科をバランスよく学習するために、年間指導計画を偏りのないように作成したり、児童の実態に応じて「国語」と「算数」に分けて学習したりするなど、様々な方策を検討していきたい。

＜資料1＞福島県特別支援教育センター2020【学びの履歴】を活用したシート(例)

小学部【国語】 2段階			
目標			
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	
ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	ウ 言葉がもつよさを感じると読み聞かせに親しみ、言葉でのりを聞いたり伝えたりしよう態度を養う。	
内容		6月	9月
知識及び技能	ア 言葉の特徴や使い方 (ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じることに。 (イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。 *例えば、自分や友達の名前や絵本などに出てくる動物等の名前を表す平仮名のこと。 (ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	◎ ○ ○	◎ ○ ○
	イ 我が国の言語文化 (ア) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。 (ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ⑧ 写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。 (エ) 読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。	◎ ○ ○ ○ ○ △	◎ ○ ○ ○ ○ △
A 聞くこと・話すこと	ア 身近な人の話しに慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句	○	◎

＜習得状況チェック①(6月)＞  
・チェック後に、学習グループ毎に①習得状況②個別の指導計画との整合性③年間指導計画に必要な学習内容が盛り込まれているかどうかの3点について検討を行った。

＜習得状況チェック②(12月)＞  
・習得状況を再度チェックし、指導内容が妥当かどうか見直しを行った。

- ◎：既習事項
- ：学習中
- △：未習事項

※必要に応じて具体的な姿を記入

＜資料2＞子ども理解シート

児童生徒氏名	
＜子ども理解シート＞	
障害の種類・程度や状態等	
1 実態把握	○学習や生活のなかで見られる長所やよさ、△困難さ、苦手としていること ☆その他(障害の状態、発達や経験の程度、特性、興味・関心等) 【健】健康の保持 【心】心理的な安定 【人】人間関係の形成 【身】身体の動き 【コ】コミュニケーション
☆	
○	個別の支援計画の個人票の実態を、○よさ、△困難さ、苦手としていること、他の項目にわたる。
△	
2 背景要因	～があればできる。～のため、困難が生じている(または)～できる。 < >
3 課題	1年後の姿 . 中心課題～この課題が改善されると、他の課題が改善につながる。 .
4 目標	3に基づき指導した指導目標【関連する6区分(項目)】 . 【心(1・2)】【人(3)】【環(3)】【身(5)】 【心(2)】【人(2(4))】【環(2)】【コ(5)】
5 指導内容	教育活動全体を通した具体的な指導内容～配慮、環境設定、手立て(～できるように～する) .

＜グループ協議①(8月)＞  
・自立活動の視点から実態把握を行い、教育活動全体を通した配慮点や支援方法を共通理解した。

＜グループ協議②(1月)＞  
・児童の変容や効果的だった支援について確認と共有を行った。

## 研究主題

### 児童生徒による学習評価の充実

－児童生徒が学びを実感し、学びをつなげる授業づくりを通して－（2年次／2年計画）

#### 1 生徒の実態

今年度の中学部には、男子 17 名、女子 10 名、計 27 名が在籍している。知的障害の他に、自閉的傾向の生徒や肢体不自由を併せ有する生徒等が在籍しており、時間における自立活動を行う生徒 2 名を除く 25 名が保健体育に参加している。

1 年生では、苦手意識などから活動中に休んでしまう生徒もいるが、2・3 年生は、チームの友達と勝利を目指し、応援したり、うまくいくポイントを言葉にして伝えたりして、意欲的に活動している。一方で、学んだことの次の単元や他の運動、他の場面へのつながりに課題がある。

#### 2 1 年次（令和 2 年度）の成果と課題

##### (1) 成果

###### 学習評価が充実する授業づくりの推進→視覚化の効果

「めあてや振り返りを記入する体育ノートの活用」、「動画による自己評価や友達と伝え合う場面の設定」など、視覚的な教材の工夫や設定が学習評価の充実に効果的であると分かった。

###### めあてがわかり意欲的に学習に取り組み、自己評価、相互評価の力の高まり

生徒が何を学ぶのかが分かり、技のポイントを押さえながら意欲的に活動する姿が増えた。また、「〇〇を頑張ったら△△できるようになった」「〇〇するためにもっと△△すればよい」と技のポイントを交えながら振り返るようになってきている。友達とも「〇〇したら上手くいくかもしれない」などと互いに伝え合う姿が見られるようになってきた。

###### 技能、体力の伸び、運動が好きな生徒の増加

今までできなかった技ができる、走る距離が伸びるなど、技能、持久力の伸びが見られた。授業で経験した運動や動きが好きになったり、得意になったりした変容があった。

##### (2) 課題

###### 評価から次の目標の設定

一人一人を見取り、生徒が評価から次の目標の設定へとつなぐ支援が必要であった。

###### 資質・能力の 3 つの柱の時間配分や 3 年間を見通した指導計画づくり

単元全体で運動量や振り返る場をバランスよく配分した単元計画、目標に応じた学習活動を設定する。また、中学部 3 年間で幅広い運動を取り上げられる指導計画が必要である。

#### 3 目指す生徒の姿（2 年次）

- ・毎時間の学びを実感し、次の目標に向かって運動を楽しむ。
- ・運動のポイントが分かり、友達との伝え合いを通し、技能が向上する。



#### 4 研究対象教科

- ・保健体育科

#### 5 内容与方法

##### < 中学部研究 >

###### A : 保健体育に関する実態把握

- ・新体力テスト（文部科学省）の実施、分析（5月）

###### P : 経験の幅の拡大と学びのつながりを大切にした単元計画

- ・授業デザインミーティングⅠ（5月）  
→年間指導計画、学習内容・手立ての検討

###### D : 生徒が学びを実感し、学びをつなげる授業実践

- ・授業づくりの5つの視点
    - ①学習計画、段階表の提示
    - ②運動のポイントの提示
    - ③体育ノートの活用
    - ④動画の活用
    - ⑤ペアやグループワーク
  - ・単元毎に指導者をローテーションし、全員が指導者となる。
- 1年次の手立てを継続、発展する。

###### D、C、A : 事例研究

- ・3名の生徒を抽出  
→運動への意欲、技能、振り返る力（つなげる力）の変化を分析する。（7、11、12月）

###### 対象生徒A

意欲◎、技能◎、  
振り返る力◎



###### 対象生徒B

意欲◎、技能○、  
振り返る力▲



###### 対象生徒C

意欲▲、技能▲、  
振り返る力◎



###### C、A : 評価、改善

- ・フライデーミーティング  
→単元毎に評価し、次単元へ生かす。
- ・授業デザインミーティングⅡ（8月）  
→前期の授業の評価、後期の単元構成の再検討
- ・新体力テストの実施、分析（11、12月）
- ・学部授業研究会、全校授業研究会

###### P : 中学部3年間を見通した年間指導計画の作成

- ・保健体育科ワーキンググループからの提案や生徒の変容から作成  
→令和4年度から生かす

##### < 保健体育科ワーキンググループ >

- ・令和3年度中学部保健体育科年間指導計画の検討
- ・中学部全校授業研究会（保健体育科）指導案の検討
- ・3年間を見通した指導計画の検討

##### < 小学部、高等部 >

- ・（保健）体育科の授業へ生かす
- ・12年間を見通した各学部の指導計画の検討

## 6 研究の実際

### (1) 保健体育に関する実態把握Ⅰ、Ⅱ

文部科学省が作成している「新体力テスト」を5月（Ⅰ）と11月（Ⅱ）に実施した。5月の結果で、ハンドボールの項目が低かったため、「投げる」運動を重点的に扱った単元を設定した。単元終了時（12月）に、ハンドボールのみ再計測し、変容をみた。結果は、32ページに掲載する。

### (2) 年間指導計画の作成と単元計画

中学部研究会、さらに保健体育科ワーキンググループ（小学部6名・中学部7名・高等部7名の職員）で年間指導計画を検討した。その後、授業担当者で単元計画を作成し（表1）、授業を実施した。武道の扱い方に、指導者の確保、指導方法、配当時間の面で課題が残り、今年度は実施できなかった。

＜表1＞令和3年度 保健体育科年間指導計画

月	単元名	内容	領域	計画 時数	実施 時数
4	病気から自分を守ろう	衛生指導	保健	2	2
5	中学部運動会に向けて 体力テスト①	100m走・ダンス	陸上・ダンス	12	12
6	メダルラッシュ① 特別支援学校総合体育大会に向けて	ポートボール グラウンドゴルフ フライングディスク	球技	4 20	2 20
7	メダルラッシュ② 水泳	水泳	水泳	6	8
8・9	↓				
10	メダルラッシュ③ 球技	ハンドボール	球技	12	17
11	↓	的あて			
12	体力テスト②			4	2
1	メダルラッシュ④ 器械運動	跳び箱・平均台・ マット運動	器械運動	14	8
2	↓	歯を守ろう	保健	2	(2)
3	プライベートゾーンってなあに？	性指導	保健	4	(4)
年間を通じて	体力トレーニング	ランニング・ラジオ 体操・剣道・ダンス	陸上・武道・ ダンス	72	(72)
※全単元において、扱う運動の内容に応じた「体づくり運動」を行う（予定）				152	(149)

### (3) 生徒が学びを実感し、学びをつなげる授業実践

授業実践では、1年次と同様「学習計画、段階表の提示」「運動のポイントの提示」「体育ノートの活用」「動画の活用」「ペアやグループワーク」の5つの視点で授業づくりの工夫を行った。これらについては、28ページからの（5）授業実践において詳細に掲載する。

### (4) 事例研究

生徒の運動に対する意欲や技能、振り返る力についての変化を分析し、実態に応じた授業づくりの5つの視点の有効な活用方法を見つけ出すため、3名を抽出し、事例研究を行った。5月の3名の実態と目指す姿は以下の通りである。

	生徒A	生徒B	生徒C
実態 (◎得意、▲課題あり)	意欲◎、技能◎、 振り返る力◎	意欲◎、技能○、 振り返る力▲	意欲▲、技能▲、 振り返る力◎
目指す姿	友達と伝え合い、さら に技能を高める。	自分で学びを実感し、 次の目標が分かる。	運動の楽しさを感じ、 進んで運動する。

(5) 授業実践


【授業実践1】 中学部 保健体育 「球技」 (球技全般、グラウンドゴルフ、フライングディスク)

<実施時期 6、8、9月>


実態把握	単元計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技によっては、未経験の生徒がいる。</li> <li>・1年生は、上級生の姿に憧れをもち、運動する意欲が高まってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「FD」、「GG」、「サッカーまたはバスケ(球技グループとする)」のいずれかの運動</li> <li>※特別支援学校総合体育大会に出場する種目の3グループ(5～7名)にする。</li> </ul>


単元名	メダルラッシュ I ～特総体に向けて～
単元目標(全体)	<p>(1) フォームや攻守の動きなどの基本動作や「上達のポイント」が分かり、技能の向上を目指す。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 自分や友達の動画を見て、課題や解決方法などを見付けたり、伝えたりする。 【思考力、判断力、表現力】</p> <p>(3) 「上達のポイント」に気を付けながら、記録や得点が伸びる楽しさを知り、進んで運動する。 【学びに向かう力、人間性】</p>

<球技全般グループ(ポートボール、サッカー、バスケットボール)>事例対象生徒A、B所属


授業づくりの5つの視点	生徒の様子(○成果、▲課題)
<p>②運動のポイントの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家の活用</li> </ul>	<p>○普段から生徒の様子を見ている部活の顧問が、見本を示しながら具体的にポイントや課題を伝えたことで、自分の課題を意識しながら運動できた。</p>
<p>④動画の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールを蹴る足元を撮影</li> <li>・スローモーションで再生し、振り返り</li> </ul>	<p>○動画を見ながら1つずつポイントを確認したことで、自身の振り返りと友達の評価ができた。</p> <p>▲Bは動画を見て「できた」「できない」を判断できるが、振り返りで言語化する際には、教師との対話が必要である。</p> 
<p>⑤ペアやグループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントができていないかを友達に伝える活動の設定</li> </ul>	<p>○軸足、蹴り足の振り方にポイントを絞り、友達からアドバイスをもらうことで、ポイントを意識して運動した。</p> <p>▲Aが友達にアドバイスすることはあるが、Aが友達からアドバイスをもらう機会がない。</p>

<グラウンドゴルフ(以下:GG)グループ>事例対象生徒C所属

授業づくりの5つの視点	生徒の様子(○成果、▲課題)
<p>②運動のポイントの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つのポイントを提示</li> <li>・注目を促すイラストや手首を固定する補助具などを使用</li> </ul> 	<p>○4つのポイントを4週に分けて提示することで、一つの動きに集中して練習できたため、技術が向上した。</p> <p>○Cには、ポイントの一つに絞り込んで図で示した。意識を向けるところが分かりやすくなり、ねらったところへ打てるようになってきた。</p> <p>▲ポイントの積み重ねに重点を置いたため、基本ルールやクラブの持ち方などにスポットを当てる時間を十分に取れなかった。</p>

<p><b>③体育ノートの活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめの時間に動画と併用し、評価・改善 ※図2</li> </ul>	<p>○運動のポイントと連動して、その日の一つの動きに対してそれぞれで評価できる点が良かった。</p> <p>▲より文章を書くスペースを設ければ、動きの反省や改善点を深く掘り下げることができた。</p>
<p><b>④動画の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース上で随時撮影し、スウィングや振り幅の確認に使用</li> </ul>	<p>○即時評価につながるため、次のスウィングから改善に取り組むことができる。</p>
<p><b>⑤ペアやグループワーク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スウィングの振り幅(大中小)をチームの友達に伝えるカード</li> </ul>	<p>○カードをきっかけに、友達同士で次の打ち方に対し、声を出してアドバイスできた。</p> <p>○Cは、自分の考えと友達からの助言が一致していることで自信をもって打つことができた。スコアも劇的に伸びた。</p> 

### <フライングディスク(以下:FD)グループ>

授業づくりの5つの視点	生徒の様子(○成果、▲課題)
<p><b>②運動のポイントの提示の仕方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つのポイントを生徒にわかりやすい言葉とイラストで提示</li> <li>・各ポイントの言葉と教師の演示、イラストを合わせて毎時間一つずつ増やしながら提示</li> <li>・いつでもポイントを意識できるようにイラストが見えるように掲示</li> </ul>	<p>○1つずつポイントを提示したことは、理解のしやすさにつながった。</p> <p>○良い見本、悪い見本などの演示で分かりやすくなり、イラストを加えたことで前時までに紹介されたポイントも思い出しやすかった。</p> <p>▲示したポイント以外の課題をもつ生徒には十分に対応できるものではなかったが、個別に指導することで自分の課題やポイントを意識して練習していた。</p>
<p><b>③体育ノートの活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に自分が気を付けたい1つを選択できる様式 ※図3</li> <li>・10投中何投ゴールできたかを記録するスコアシート ※図4</li> </ul>	<p>○毎時間の課題を自分で選ぶことで、活動中も意識できていた。</p> <p>○スコアシートは自分の励みになり、友達同士でスコアを付け合うことで、友達の評価につながった。</p> 
<p><b>④動画の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、半分ほど活動が過ぎたら、動画で自分の様子を振り返る機会を設定</li> </ul>	<p>○活動半ばに振り返りをしたことで、後半の活動でポイントをさらに意識できるようになった。</p> <p>○自分で決めたポイントを動画で振り返ったことは有効であった。</p> <p>○試合形式の練習では、動画を見て振り返ることで、待ち時間の有効活用になった。</p> <p>▲必ずしも課題が撮影できるとは限らないこともあり、どの生徒にとっても分かりやすいわけではなかった。</p>

とくそふだい じぶん  
特総体に向けて「球技」 自分のメダルシート

月 日 ( ) 名前: \_\_\_\_\_

ポイント

①軸足  
②蹴り足

① 軸足のつま先

② 蹴り足

<今日の目標>

\_\_\_\_\_

<振り返り>

\_\_\_\_\_

<これからの目標>

\_\_\_\_\_

<先生から>

\_\_\_\_\_

<図1>体育ノート：球技グループ

じぶん  
自分のメダルシート ( )

いくせい 新記録! しょうたつ 上達のポイント

	8/30 (月)	9/6 (月)	9/13 (月)
今日のスコア	①		
	②		
	③		
	④		
「今日うまくいったところ」			
「次に置きたいところ」			
かんだんに書いてみよう!			

めいしん 本書に向けて

\_\_\_\_\_

<図2>体育ノート：GGグループ

フライングディスク  
メダルシート

①ゴールに ビーム

②シュットと 上げる

③しんぱんを  
ロックオン

メダルゲットへの ポイント	/	/	/	/	/
1. ゴールに ビーム					
2. シュットと 上げる					
3. しんぱんを ロックオン					
先生から					

ふりかえり

\_\_\_\_\_

<図3>体育ノート：FDグループ

メダルシート

月 日 名前 \_\_\_\_\_

じぶん じぶん  
1. 自分の目標

①ゴールに ビーム

②シュットと 上げる

③しんぱんを  
ロックオン

2. スコア

1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計

3. ふりかえり ○ よくできた △ またがんばる

ゴールに ビーム		【先生から】
シュットと 上げる		
しんぱんを ロックオン		

きづいたこと つぎにがんばること

\_\_\_\_\_

<図4>体育ノート：FDグループ



【授業実践2】 中学部 保健体育 「水泳」

＜実施時期 7月＞

実態把握	単元計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の実態別4グループから、今年度は、一つ上級グループにあがる生徒が半数程度いる。一方、継続して、水が苦手な生徒もいる。</li> <li>・運動のポイントが分かると意識して運動し、振り返りで着眼する生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水慣れ、面かぶり</li> <li>・補助具や壁を使った浮き泳ぎ、け伸び</li> <li>・クロールなどの泳法</li> </ul> <p>※実態別4グループ（5～7名）で運動する。</p>

単元名	メダルラッシュ②～水泳～
単元目標 (全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もぐる・浮く運動や浮いて進む楽しさに触れ、その行い方やポイントが分かり、その動きを身に付ける。 【知識及び技能】</li> <li>・動画や友達の運動を見て、上達のポイントに気付いたり、自分や友達のよい動きや課題を伝え合ったりする。 【思考力、判断力、表現力】</li> <li>・楽しみながら進んで運動したり、きまりを守りながら安全に運動したりする。 【学びに向かう力、人間性】</li> </ul>

授業づくりの5つの視点	生徒の様子（○成果、▲課題）
<b>①水泳段階表の提示</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度と同様の段階表を使用</li> <li>・単元の最初と最後に自分の段階を評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の最初と最後を比べ、段階が上がると、できるようになったことや達成感を言葉にした。</li> <li>▲水が苦手な生徒にとって段階が上がりやすく、毎年同じ段階にいる。</li> </ul>
<b>③体育ノートの活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに1枚作成</li> <li>・毎年同じグループにいる生徒も、3年間で学びが積み重なる内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○同じ目標をもつ生徒とポイントを伝え合う姿があった。</li> <li>○水が苦手な生徒も、昨年度と違う活動でポイントを獲得し、「できた」という実感を高めた。</li> </ul>

メダルラッシュⅡ～水泳 うえきうきグループ～

名前 \_\_\_\_\_

うきうきポイント ゲットだぜ！！

はじめに、特にながらぶところを決めて、赤○をしよう！

振り返り、ゲットしたポイントに鉛筆で○をしよう！↓

うきうきポイント	1回目	2回目	3回目
( / ) ( / ) ( / )			
①小さいプールで ボールをひろう。			
②大きいプールで 歩く。			
③大きいプールで ボールをひろう。			
④わっかを くぐる。			
⑤顔を 洗う。			
先生からのコメント ゲット			

➔

メダルラッシュ②～水泳 うえきうきグループ～

名前 \_\_\_\_\_

うきうきポイント ゲットだぜ！！

はじめに、特にながらぶところを決めて、赤○をしよう！

振り返り、ゲットしたポイントに鉛筆で○をしよう！↓

うきうきポイント	1回目	2回目	3回目
( / ) ( / ) ( / )			
①顔を 洗う。			
②小さいプールで ボールをひろう。			
③大きいプールで 歩く。			
④大きいプールで ボールをひろう。			
⑤せうきをする。			
⑥わっかを くぐる。			
先生からのコメント ゲット			

< R 2 年度 >
< R 3 年度 >

＜図5＞令和2年度と令和3年度の体育ノートの比較（水慣れグループ）


【授業実践3】 中学部 保健体育 「球技」 (ハンドボール、玉入れ)

<実施時期 11月～12月>

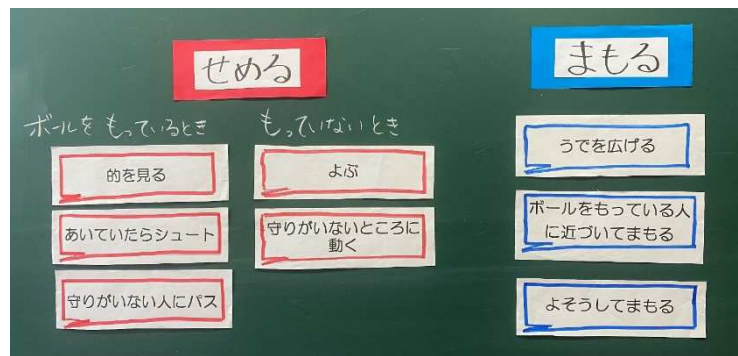
実態把握	単元計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>5月と10月の体力テスト結果(ハンドボール投げ)で記録の変化が少ない。</li> <li>投げる運動や攻守の入れ替わるゲームの経験が少ない。</li> <li>自分の動きを見て、改善点を見付け出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡略化したハンドボールと的当て、玉入れ</li> <li>片手でボールを投げるポイント</li> <li>攻めと守りのポイント</li> </ul> <p>※2グループ(12～13名)で運動する。</p>

単元名	メダルラッシュ③～球技～
<b>単元目標(全体)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>片手でボールを投げる基本的な動作や簡単なゲームのやり方が分かって行う。 【知識及び技能】</li> <li>自分やチームの特徴や課題を知り、改善方法や簡単な作戦を考えたり、伝えたりする。 【思考力・判断力・表現力】</li> <li>きまりや簡単なルールを守り、友達と協力しながら最後まで楽しく運動する。 【学びに向かう力、人間性】</li> </ul>	

<ハンドボールグループ>事例対象生徒A、B所属

授業づくりの5つの視点	生徒の様子(○成果、▲課題)
<b>②運動のポイントの提示</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>攻めと守りのポイントを分けて提示 ※図6</li> </ul>	<p>○攻守の入れ替わるゲームでも、攻め方と守り方が分かりやすかった。</p> <p>▲基本的なポイントを絞って提示したが、サッカー経験のあるBにとっては、提示したポイント以外の技能を身に付けられるようにするとよかった。</p>
<b>④動画の活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>作戦ボードと同様、客観的に見えるように上方から撮影</li> </ul>	<p>○上方から動画を撮影することで、ゲーム中の生徒の動きが見やすくなり、「守りがいないところに動いたか」「ボールを持っている人に近付いて守ったか」などを生徒自身で評価しやすかった。</p> <p>▲生徒一人一人と動画を見ながら、良かったところや課題を振り返るには、時間配分を検討する必要がある。</p> 
<b>⑤ペアやグループワーク</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>試合前にグループで作戦を話し合う時間を設定</li> </ul>	<p>○チームで作戦を立てたり、ゲーム後には作戦を修正したりした。また、作戦ボードを使用したことで、ポジションや動きをイメージしやすかった。</p> <p>○Aは、友達の得意な動きからチームの作戦を考えたり、友達に率先して「もっと動くといいよ」「腕を広げているね」などとアドバイスや称賛をしたりした。</p>

<図6>ハンドボールの攻守のポイントの板書



<的当てグループ>事例対象生徒C所属

授業づくりの5つの視点	生徒の様子（○成果、▲課題）
<b>②運動のポイントの提示</b> ・ 3つのポイントを提示し、実際に体を動かして確認する場の設定 ・ 的に入った球数を表で提示	○投げる時のポイントを言葉にし、実際にやってみることで正しいフォームを意識して投げるようになった。 ○入った数が一目で分かり、的に入れるためには一球一球、正しいフォームで投げるという振り返りにつながった。 ▲ポイント3「投げる腕側の足から反対の足へ重心を移す」は難しく、1「的を見る」2「頭の後ろから投げる」を優先して実践した。
<b>④動画の活用</b> ・ 自分が投げている姿を視聴	▲投げる時のポイントを意識して玉を投げているか、動画で確認したが、次にどうすれば良くなるかの振り返りにはつながらなかった。
<b>⑤ペアやグループワーク</b> ・ 協力してできるようなチーム編成 ・ チームで入った個数を確認	○Cの投げ方を見て、どうすれば良くなるのかをチーム内でアドバイスする様子が見られた。 ○玉を投げる位置や玉数をチームで相談して決めた。



【授業実践を通じた事例対象生徒の変容】

5月の実態（27ページ）と比較し、12月には以下のような変容があった。生徒一人一人の変容を検証していく中で、授業づくりの5つの視点の活用は、集団ではもちろんのこと、さらに、個に合わせて活用していくことが大事であった。



	生徒A	生徒B	生徒C
実態 (5月)	意欲◎、技能◎、 振り返る力◎	意欲◎、技能○、 振り返る力▲	意欲▲、技能▲、 振り返る力◎
目指す姿	友達と伝え合い、さらに技能を高める。	自分で学びを実感し、次の目標が分かる。	運動の楽しさを感じ、進んで運動する。
変容	・ ハンドボールの試合で、友達に合うポジションや動きを見てアドバイスし、チーム全体の技能向上に貢献した。 ・ 提示したポイント以外の本人に必要な改善策を伝え、技能が向上した。 ・ 他場面においても、気を付けることを意識し、それに対して自分の達成度、改善は何だったのかを考えるようになった。	・ 本人の言葉を待ち、くみ取って返すことで、正しく自己評価できるようになった。 ・ ルールや複雑な動きをポイントとして1つずつ確認し、即時的に評価を受けることで、技能が向上した。 ・ 帰りの会の頑張り発表で、その日の出来事を思い出して話すようになった。	・ ポイントを1つに絞ったり、友達と一緒にチームになって「できた」経験をしたりしたことで、最後までみんなと運動を続けるようになった。 ・ 友達からのアドバイスを受け入れて、運動の仕方を覚えた。 ・ 上級生に憧れ、休み時間に話したり、遊んだりするなど関わりが広がった。様々な学習で意欲的な姿が増えた。



## 【授業実践から得た「5つの視点」のまとめ】

28 ページから 33 ページまでの授業実践や事例研究、1 年次の研究より、生徒が学びを実感し、学びをつなげたり、学習評価を充実させたりするためには、5つの視点を表2のように活用していくことを共通理解した。

＜表2＞授業づくりの5つの視点のまとめ

授業づくりの5つの視点	○有効な活用法（1年次）、☆有効な活用法（2年次）
①学習計画、段階表の提示	<p>○跳び箱や水泳など、技の段階を一覧表にし、単元の始めに提示すると、見通しや目標をもちやすい。</p> <p>☆段階表は、どの段階の生徒も段階が上がるように細分化する。（3年間行う水泳では、苦手な生徒もステップアップを図る。）</p>
②運動のポイントの提示	<p>○1種目3～5つに絞る。1時間に一つずつ提示し、積み重ねる。</p> <p>○イラストや生徒が動きをイメージしやすい擬態語などを用いて提示する。（友達にアドバイスする言葉にもなる。）</p> <p>○「(跳び箱で)線より前に手を着く」「(サッカーで)足の向きはまっすぐ」など、「できた」「できない」が自己評価、相互評価しやすい提示の仕方にする。</p> <p>☆生徒に合わせて、ポイントをより絞って伝えたり、ポイント以外の本人に必要な動きを伝えたりする。</p> 
③体育ノートを活用	<p>○前時までの振り返りが見える一枚のノートにし、運動のポイントと対応させる。</p> <p>○自己評価後に、教師と対話をし、できたことや次の目標を価値づけたりする。（教師のコメント欄を設ける）</p> <p>☆繰り返し運動し、達成感を味わえるように、運動時間を確保できる様式や、時間によって活用方法を工夫する。</p>
④動画の活用	<p>○運動し、すぐ視聴して評価することでその時間で改善できる。</p> <p>☆動画よりも「入った」「入らない」など自分の動きが結果につながる方が分かりやすい生徒もいる。</p> <p>☆ポイントの達成度や分かるように、足元のアップや客観的にフォーメーションが分かる撮影の仕方に配慮する。</p> <p>☆必要な場面を視聴できるように、試合では提示したい場面があった際に動画を区切る。動画の終わり部分を教師が操作して提示する。（細切れにして最後の部分のみ提示する。）</p>
⑤ペアやグループワーク	<p>○アドバイスし合えるグルーピングの工夫（チームで高め合える）</p> <p>○自分の考えを伝えやすいように、カードや作戦ボード、OKサインなどを活用する。</p> <p>☆生徒同士で「すごいね」「やったね」と認めあえる雰囲気を大切にするため、教師も進んで称賛や認める言葉を掛ける。</p> 

## (5) 新体力テスト結果

5月と11月に表3の項目で、体力テストを実施し、変容をみた。また、投げる運動を重点的に行った単元終了後の12月には、ハンドボール投げのみ計測した。

＜表3＞新体力テスト結果

項目（単位）	上段：5月 下段：11月	変容
握力（kg）	20.4 18.8	記録が下がった、変化がなかった生徒が多い。格段に伸びた生徒もいない。
上体起こし（回）	12.4 14.2	記録が下がった生徒はいなかった。記録が伸びた生徒は多い。
長座体前屈（cm）	36.5 40.2	記録が伸びた生徒が多い。全体的に下がり率も悪くない。
反復横跳び（回）	31.1 31.9	一人のみ急激に記録が下がったが、記録が伸びている生徒が多い。
シャトルラン（回）	20.6 24.0	全体的に、記録が伸びている生徒が多い。
50m（秒）	10.8 10.1	記録がわずかに伸びている生徒もいるが、大きな伸びは少ない。
立ち幅（cm）	132.7 134.0	記録が伸びた生徒もいるが、記録が変化しない生徒の方が多い。
ハンドボール投げ（m）	8.3 8.5	12月は、9.2m。フォームを覚えた生徒は、単元終了時に記録が伸びた。

※平均値は、小数点第2位で四捨五入。


※記録が伸びた生徒が多い項目に網掛け。

特に記録が伸びた項目「上体起こし」「長座体前屈」「シャトルラン」については、文部科学省出典「新体力テストをより活用するために」の新体力テスト項目が測定する運動特性（下図7）に当てはめると、『動きを継続する能力』『体の柔らかさ』に伸びがあることが分かった。一方、『すばやさ』や『タイミングの良さ』『力強さ』の伸びが少なかった。



＜図7＞新体力テスト項目が測定する運動特性

（引用：文部科学省「新体力テストをより活用するために」）

※5月と11月を比較し、伸びのあった項目に  をつけた。

### (9) 保健体育科ワーキンググループ

- ・ 中学部から提案した今年度の中学部保健体育科年間指導計画（案）に、さらに検討を加えた。各学部の（保健）体育科をつなぐために、次のような意見が出された。

#### <体づくり運動>

小学部～動かす体の部分を意識させた上で、動かし方を丁寧に指導している。さらに中学部でも継続した指導を望む。

#### <球技及びダンス>

高等部～球技ではネオホッケー、バドミントン、ポッチャを取り上げている。球技やダンスは生涯スポーツにつながりやすい。中学部でも、このことを踏まえた指導を望む。

#### <保健>

高等部～二次性徴、性交渉、避妊の仕方などを扱う。中学部では、感染症予防や身だしなみ、男女の距離感などを扱ってほしい。

- ・ 全校授業研究会（9月）及び事前研究会（6月）の指導案検討を行った。研究授業では、振り幅を示すカードを採用したことが、生徒が活発に意見交換しながら活動することへつながった。
- ・ 中学部3年間を見通した保健体育科の年間指導計画（領域案）を検討し、中学部へ提案した。提案を受けて、中学部で決定した年間指導計画（領域案）は次の通りである。※（ ）内は計画時数

	一年次（一年生）	二年次（二年生）	三年次（三年生）
4	陸上運動（運動会練習を含む）		(12)
5	体力テスト		(4)
6	球技（特別支援学校総合体育大会へ向けた練習） ＜フライングディスク・グラウンドゴルフほか＞		(6)
7	水泳運動		(6)
8・9	球技（特別支援学校総合体育大会へ向けた練習） ＜6月と同種目＞		(14)
10	ダンス		(4)
11	器械運動 / 武道（3年生のみ）		(14)
12	※武道は、剣道または相撲		
1	球技		(各12)
2	ゴール型	ネット型	ベースボール型
3			
年間を通して	体づくり運動/陸上運動/ダンスほか ※体力トレーニング		(72)
	保健		(6)

※ダンスは、保健体育の時間（週当たり2時間）での4時間のほか、毎日の体力トレーニング（週当たり2時間）でも扱う。生徒が好きな曲（ヒップホップなど）を取り上げ、余暇へつなげたい。

- ・ 4回のワーキンググループを通して、考察した結果、小学部体育科では、今年度から器械運動で跳び箱も扱うことにした。学部縦割りの職員で考察を重ねた成果である。今後は、小学部から高等部までの12年間を見通した（保健）体育科の指導計画について検討する必要性を感じた。

## 7 まとめ

### (1) 生徒の変容

授業づくりの5つの視点をグループや生徒一人一人の実態に応じて工夫したことで、友達と運動を楽しみ、技能が向上する姿が見られた。具体的な変容は、表4の通りである。

＜表4＞生徒の変容

成果	課題
<b>目指す姿1：時間の学びを実感し、次の目標に向かって運動を楽しむ。</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「来年は、一つ上のグループだな」「試合に勝ちたい」など次への意欲を言葉にした。</li> <li>・動画や結果から、自分ができていたか正しく評価したり、次の的確な課題を見つけたりするようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の課題を書くというパターンに慣れ、本時で達成したポイント以外の自分の課題ではないものを選ぶ生徒もいる。</li> </ul>
<b>目指す姿2：運動のポイントが分かり、友達との伝え合いを通し、技能が向上する。</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つのポイントに注目して運動することで、経験の少ない運動の仕方も覚え、フォームや技能が向上した。</li> <li>・ポイントを基にアドバイスしたり、応援や認める言葉を伝えたりするようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「投げる」などフォームを大体習得していた生徒にとっては、2ヶ月の中単元では、ハンドボール投げの新体力テストの結果向上は難しい。</li> </ul>

### (2) 生徒が学びを実感し、学びをつなげる支援の工夫

#### 授業づくりの5つの視点の活用

その時間や単元で何を学ぶかのゴールを大切にし、34ページのように5つの視点をグループや個人の実態に合わせて活用した。一つずつ運動の仕方（種目のポイント）を学習することで技能が高まり、運動が「できた」「楽しい」と実感し、今後の自信や意欲につながった。また、中学部全職員が研究対象授業である保健体育の授業担当者になったことで、他教科でも「めあて」と「振り返り」への意識の高まりが見られた。

＜表5＞授業づくりに関するアンケート結果 ～一部抜粋～

項目	5月	12月
⑨日頃から授業のゴールから「めあて」を大切にしている。	3.00	3.65
⑭「めあて」と「振り返り」の整合性を意識した授業をしている。	2.94	3.47

※評価基準 4：よくしている 3：ときどきしている 2：あまりしていない 1：ほとんどしていない

#### 様々な運動で総合的に技能を向上

35ページに示した「動きを持続する能力（ねばり強さ）」は、体力トレーニング（週4回、朝の35分間）による継続したランニングにより上昇したことと考える。一方、変化のすくない「タイミングの良さ」や「力強さ」については、1つの運動や種目ではなく、様々な動きや種目で扱いながら、生徒の運動の力をつなげ、高めていくことが必要である。

### (3) 生徒による学習評価の充実

#### **「どうやって運動するか（何を学ぶか）」を明確に提示**

(2) でも述べたとおり、34 ページ「運動のポイント」のように、運動の仕方（どうやって運動するか、何を学ぶか）を1つずつ提示することは、生徒がその時間の「めあて（学習課題）」として意識して学習することにつながった。何を学ぶかを生徒自身が意識することで、活動中に「できている」「うまくいかない」などを感じる生徒もいた。活動中に、動画や友達からのアドバイスなど自己評価・相互評価を取り入れ、さらに運動を重ねることで、その時間の中での技能習得（学び）がより充実した。運動のポイントは、うまくできなかったときは、「〇〇するために△△すればよい」と改善点を見付ける手立てになった。「できた」「できなかった」を判断するだけでなく、自分で改善していく、次の目標をもつことにつながっていた。

このように、「運動のポイントが分かる」→「運動する」→「自己評価・他者評価」→「繰り返し運動する」というサイクルは、学習評価の充実と技能向上に大切であった。

#### **単元全体を通して運動と評価場面を適切に配分**

自分で動画を視聴し客観的に評価したり、友達にアドバイスをもらったりすることは、改善や、技能向上に大切であったが、動きを身に付けるためには、繰り返し体を動かすという運動量が必要である。十分な運動量を確保しながら、自分や友達の評価をして技能を高めるためには、単元の中で評価場面と運動場面のバランスをとることが必要であった。「単元の始めは、十分に体を動かして慣れる時間」「動画を運動の中間で視聴し、その時間内で改善する」など、振り返りのタイミングや方法を工夫することが大切であった。

## 8 教育課程編成に向けての提言

#### **中学部3年間を見通した学習内容表の活用と改善**

今回作成した保健体育科内容表（3年間）を活用し、生徒一人一人の成長を見取ることで、学びをつなげ、運動の技能や意欲向上をより図りたい。また、保健体育科だけでなく、同じ技能教科である音楽や美術についても3年間の学習内容を整理し、学びの履歴を確かめたり、各教科と合わせた指導と関連させたりしていきたい。

#### **12年間を見通し、小学部段階、中学部段階、高等部段階で扱う単元の検討**

教科WGで中学部の単元を検討したことで、小学部は跳び箱を取り扱うなど単元構成を工夫した。さらに検討を重ね、家庭生活や生涯を通じて進んで運動する生徒をより育てたい。また、今年度実施できなかった武道について指導者や指導段階などを検討し、実施につなげていく。

## 高等部

### 研究主題

#### 児童生徒による学習評価の充実

－児童生徒が学びを実感し、学びをつなげる授業づくりを通して－（2年次／2年計画）

#### 1 生徒の実態

今年度の高等部には、男子 26 名、女子 24 名の計 50 名の生徒が在籍している。そのうち、約 6 割が中学校から入学してきており、知的障害の状況が軽度である生徒の割合が増加している。自閉的傾向や発達障害を有する生徒も在籍しており、多様化が進んでいる。

これまで、友達や職員など様々な人と関わりながら他の場面でも生かせるような授業展開の工夫をすることで、職業科・家庭科以外の様々な学習場面でも学んだことを生かす様子が見られるようになってきた。一方で、家庭や寄宿舎など学校以外の場での学びのつながりに課題がある。

#### 2 1年次（令和2年度）の成果と課題

昨年度は「児童生徒による学習評価の充実－職業科・家庭科における授業実践を通して」という研究テーマのもと、職業科と家庭科に焦点を当てて研究に取り組んだ。

##### (1) 成果

###### 生徒が成長を実感し、次の活動につなげる振り返り

振り返りの時間を十分に設け、教師が学習の成果を見取り、価値づけたり、意味付けたりすることで、生徒が成長を実感し、次の活動への意欲喚起につながった。

###### 学習ゴールからの組み立て

授業のゴールから組み立てることで、「めあて」や「振り返り」が明確になり学習への見通しをもたせることができた。

###### 学びをつなぐ授業づくりの工夫

その場限りの学びにするのではなく、様々な人と関わりながら他の場面でも生かせるような授業展開の工夫をすることで、生徒自身が 1 度学んだことを他の学習場面で生かす姿が増加した。

##### (2) 課題

###### 成長を実感できる振り返りの充実

自分にはない視点に気付いたり、自分の成長を実感したりするために、個の学びを集団の学びにできるような振り返りの工夫が必要である。

###### 学びの蓄積の活用

職業科・家庭科で学習したことを家庭や寄宿舎など学校以外の場で生かすためには、学びの蓄積を日常的に活用できるような場面を意図的、継続的に設定していく必要がある。

#### 3 目指す生徒の姿（2年次）

学んだことを実感し、学びをつなげる生徒

→学習の振り返りを通して、学びを実感する。

→個々の学びを全体の学びとして共有し、自分事として生活に生かす。

#### 4 研究対象教科

研究対象教科	学習グループ
職業科 家庭科	I グループ：一般就労や進学を目指す II グループ：福祉的就労または一般就労を目指す III グループ：各種福祉サービスを利用しながら地域生活を送ることを目指す (学年毎にグループ編成をする)

※1年生は2学期からグループに分かれる。1学期は実態に合ったグループ編成をするための準備期間とする。

#### 5 内容と方法

##### (1) 生徒の実態把握と目指す姿の共有、見直し

- ・授業デザインミーティング I・II の実施（ワーキンググループの活用）
- ・生徒、職員に対するアンケート調査 I・II



##### (2) 生徒による学習評価の充実を目指した授業づくり

- ・自分事として捉えられる「めあて」の設定
- ・学びを実感し、学びをつなげるための実践、授業場面（めあて、振り返り）の工夫一覧の作成
- ・学びを積み重ね、日常的に活用する展開の工夫



##### (3) 各教科等の関連や成果・課題の共有

- ・目標、評価の動画上映週間の実施
- ・導入、振り返りの動画を見合う会の実施
- ・成果と課題に関する職員に対するアンケート調査 III



##### (4) 職業科・家庭科ワーキンググループ

- ・中学部職業・家庭科に関する学習内容参考一覧の作成  
→各学部における職業科・家庭科に関する指導内容について情報交換  
→年間指導計画を活用した、中学部における職業・家庭科に関する指導内容の整理、検討



## 6 研究の実際

### (1) 生徒の実態把握と目指す姿の共有、見直し

#### ①授業デザインミーティングⅠ・Ⅱの実施（ワーキンググループの活用）

学習グループ毎に生徒の実態や目指す姿を基に、単元・題材の構成や展開の工夫を教師の手立てを検討し、年間指導計画や日々の授業実践に反映させるために授業デザインミーティングを行った。→授業アドバイザーや教科ワーキンググループのメンバーと授業づくりに関する検討を行うことで、小学部、中学部段階からの学習の履歴を踏まえた系統的な視点から評価・改善を図ることができた。

#### ②生徒、職員に対するアンケート調査Ⅰ・Ⅱ

職業科・家庭科に関する生徒、職員へのアンケートを通して実態把握し、授業づくりについての現状を明らかにしながら授業改善に生かすことを目的にアンケート調査を5月（3年生のみ7月に実施）と12月に実施した。 ※49、50 ページ（資料）

### (2) 生徒による学習評価の充実を目指した授業づくり

#### ①自分事として捉えられる「めあて」の設定

生徒が必然性や期待感をもてるような「めあて」の設定をできるように、指導主事計画訪問で作成した略案を基に学習グループ毎にLet`s型からhowto型、What型の「めあて」の検討をした。（図1）

→生徒にどのような力を身につけてほしいのか授業のゴールから考えることで、「めあて」を焦点化し、「めあて」と「振り返り」の整合性が図れるようになってきた。さらに、対象教科以外の授業でも「めあて」が練られてきた。

第5回学部研 高2 Iグループ	
めあて	清掃や木工の仕事に必要な働く力は何だろう？
まとめ	清掃の仕事は、〇〇の働く力が求められる。（例：「仕事の正確さ」、「仕事の速度」など）
めあて代案	Which → よりイメージが湧いた 「働くために必要な7つの力から選ぶ」～清掃・木工編～
Why	なぜ「清掃と木工の仕事」には「体力」が必要なのか
How	どのように清掃に必要な「仕事の正確さ」「仕事の速度」「体力」を学校生活で身につけられるか考えよう → 〇〇のめあて△△していくと「体力」が身につくと思う。

<図1>めあての検討会

#### ②学んだことを実感するための「導入、振り返り」の工夫一覧の作成

生徒が学習の導入、振り返りを通して、学んだことや自分自身の成長を実感できるように、学習グループ毎に生徒の実態に合わせて効果的な取り組みについて検討し、実践、共有を図った。 ※55 ページ（資料）

#### ③学びを積み重ね、日常的に活用する展開の工夫

学んだことを生かす生徒の育成を図れるように、職業科・家庭科で学びを積み重ねていき、家庭、寄宿舎など学校以外の場と学びのバトンをつなげていく授業づくりの工夫をした。 ※43～48 ページ（資料）

### (3) 各教科等の関連や成果・課題の共有

#### ①目標、評価の動画上映週間の実施

生徒が学期毎に作成している目標を意識するとともに、生徒・職員で目標を共有できるように、一人一人が目標を発表している様子を撮影し、7月と12月の3日間程度、動画上映週間を設定した。

→動画を撮影するために生徒が自分の立てた目標を言語化することで、目標の意識付けにつながった。さらに、他学年の生徒の発表を見て、自分に取り入れる様子が見られた。また、教師にとっては学年の枠を越えて日常生活の指導や作業学習などとの関連を図りながら教科横断的な視点から目標の共有ができた。



## ②導入、振り返りの動画を見合う会の実施

学びを実感し、学びをつなげるための導入、振り返りの在り方について共通理解を図るために、2年Iグループと3年Iグループの職業科の略案と授業映像を見ながら夏季休業中に学年や学習グループの枠を越えて検討した。

→導入と振り返りにおける基礎・基本を共通理解した。内容については表1に示した。

＜表1＞導入と振り返りにおける基礎・基本

<b>導入</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までのつながりを振り返るために確認テストを行ったり、プリントを見返したりする。</li> <li>・必然性、期待感をもてるよう生徒の理解度に応じて言葉を吟味したためあてを提示する。</li> <li>・学習の流れに見通しをもてるよう、本時の流れや学習計画を提示する。</li> </ul>
<b>振り返り</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを実感できるように、シートの工夫をしたり、言語化したりする。</li> <li>・個の学びを全体の学びとして共有するために、場面を設定したり、振り返りの時間を確保したりする。</li> </ul>

## ③成果・課題に関する職員に対するアンケート調査Ⅲ

職業科・家庭科における成果や課題を分析できるように、職員に対してアンケート調査を実施し、KJ法に準じてカテゴリー化し、分類した。 ※51、52 ページ（資料）

## (4) 職業科・家庭科ワーキンググループ

### 中学部職業・家庭科に関する学習内容参考一覧の作成

学部を越えた教育課程の一貫性や系統性を高めることを目的に、全校縦割りの職業科・家庭科ワーキンググループを年4回実施した。中学部での職業・家庭科に関する学習は生活単元学習を中心とした授業の中で取り扱っているが、単元構成や学習内容は学級担任裁量という課題が挙げられた。そのため、職業科・家庭科ワーキンググループで中学部から高等部までの6年間の系統性を検討できるように、各学部における職業科・家庭科に関する指導内容について情報交換をした。また、年間指導計画を活用し、中学部における職業・家庭科に関する指導内容の整理、検討を行い、中学部職業・家庭科に関する学習内容参考一覧を作成した。 ※56 ページ（資料）


→学部を越えて中学部の職業教育について検討することで、学習指導要領に示されている職業・家庭科の内容を中学部の教育課程における合わせた指導の中で取り扱っていることを確認できた。しかし、個別の指導計画や年間指導計画の中で職業・家庭科に関する内容がどの程度行われているのか記載されていない部分があり、今後の課題が明らかとなった。

【授業実践1】高等部1年 職業科における授業実践

＜授業デザインミーティングIより＞

・生徒の実態 ☆目指す姿	単元計画
<p>・将来の夢や卒業後のイメージをもち、自分の夢のために目標をもって頑張ろうという気持ちがある生徒が多いが、具体的なイメージをもてない生徒もいる。</p> <p>・自分に自信がない生徒が多い。</p> <p>・知識・経験不足でできないことが多い生徒もいる。</p> <p>☆夢や目標に向かって、自分で課題を決め、日々の生活の中で課題を意識しながら取り組む。</p> <p>☆友達と意見を伝え合ったり、協力し合ったりしながら、自己理解を深める。</p> <p>☆生活の中で生かせるスキル（コミュニケーション、適切な言動、困った時の対応等）を身に付ける。</p>	<p><b>職業科</b>・今の自分とこれからの自分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く力を高めよう（実習）</li> <li>・職場見学</li> <li>・様々な仕事と将来の夢</li> <li>・ようこそ先輩</li> <li>・地域とつながる</li> </ul> <p>～私たちの応援者～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生にむけて</li> </ul>

＜実践：6月＞

教科・単元名	職業科「I期校内実習を振り返ろう～これからの自分のために～」	
単元目標	<p>・実習を通してできるようになったことや、実習後の課題や目標が分かる。</p> <p style="text-align: right;">【知識及び技能】</p> <p>・友達や教師に自分の思いを伝えたり、実習後の目標を達成する方法を考え実践したりする。</p> <p style="text-align: right;">【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>・自分の頑張り（良さ）を知って自己肯定感を高めたり、課題解決に向けてチャレンジしようとする気持ちをもったりする。</p> <p style="text-align: right;">【学びに向かう力、人間性等】</p>	
教師の支援	生徒の様子、エピソード	
<p>①実習後の課題に挑戦する意欲を高めるために「2週間チャレンジ」を学校で行うことを提案する。チャレンジのチェックを教師に依頼し、自己評価と他者評価ができるようにする。（図2）</p> <p>②自分の頑張りや自信がもてるように、1年生全員で成果を認め合い、実習中の友達の頑張りや良かったところを見つけて友達に伝えたり、友達の思いを受け止めたりする活動を設定する。（図3）</p>	<p>①教師からのチェックがあることで、日々の生活の中で課題（自分から挨拶、時間を守る、早めに相談等）を意識しながら活動する姿が見られた。教師からのチェックで「できている」という評価をもらったことで、自信をもってできることが増え、次の目標を決めていた生徒もいた。</p> <p>②実習中の友達の頑張りや良さを書いた付箋を渡し合ったり、実習班のメンバーで一番頑張っていたところを『〇〇ナンバーワン』として紹介し合ったりしたことで、自己肯定感が高まり、集団での活動に安心して向かう姿が見られるようになってきた。</p>	

学びを積み重ね、日常的に活用する展開の工夫

- ・自己理解を深め、自信→行動につながるように、日常的に即時評価や他者評価をする。
- ・2週間チャレンジのチェックを作業班の担当に依頼した生徒もおり、チャレンジが終わった後も課題を意識しながら取り組めるように、作業班担当に依頼する。
- ・小集団でリーダーを担ったり、みんなの前で話したりする機会を設け、自信につながる役割を設定する。
- ・自分の目標を意識して行動できるように「未来へのスケッチ」を活用し、日常生活（学校や家庭）で挑戦する目標を考え、自分の目標について毎日振り返るためのチェックシートを用意する。
- ・学期毎に面談を行い、次のステップへとつながる目標を教師と相談しながら考え、実践する。





【授業実践2】高等部2年家庭科Iグループ 家庭科における授業実践

＜授業デザインミーティングIより＞

・生徒の実態 ☆目指す姿	単元計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの考えをもっている。</li> <li>・自分の考えを元に、簡単な話合いができる。</li> <li>・自信がなく、行動が伴わないことがある。</li> <li>・日常生活の中で片付けや清掃を十分にできていない生徒が多い。</li> </ul> <p>☆考えたことや自分の目標を行動に移す。 ☆知識として学んだことを実際に行うことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整理と整頓の違い</li> <li>・机やロッカーの整理と整頓</li> <li>・汚れ方に応じた整理と整頓、清掃の仕方</li> <li>・整理と整頓、清掃の手順と効率性</li> <li>・寄宿舎で清掃チャレンジ</li> <li>・家庭の清掃実践計画を立てよう（快適な住まいの実践）</li> </ul>

＜実践：7月＞

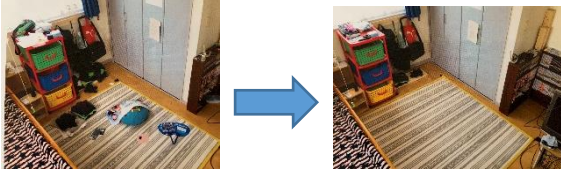



教科・単元名	家庭科 「清掃の仕方と実践」
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整理整頓に関心をもち、身の回りを快適に整えたり、そのやり方を知ったりする。 【知識及び技能】</li> <li>・身の回りを点検し、課題を見付け、清掃の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりする。 【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>・寄宿舎での清掃体験を通してできることを増やし、家庭でも実践する。 【学びに向かう力、人間性等】</li> </ul>
教師の支援	生徒の様子、エピソード
<ul style="list-style-type: none"> <li>①活発な意見交換ができるようにペアや小グループでの話合いや活動の場を設定した。</li> <li>②自宅（部屋等）のイメージがもてるように、寄宿舎での清掃体験の場を設定した。</li> <li>③「整理整頓をしたことで」「清掃をしたことで」どのような変化が生まれたか気付くことができるように、活動の場面を多く設定した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①発言が少ない生徒も、小集団にしたことで話合いや、活動に積極的に参加することができた。</li> <li>②自分の経験を基に、友達にアドバイスしながら活動したり、友達のアドバイスを受けて今後に生かそうとしたりする意識が出てきた。</li> <li>③活動前後で、気持ちの面での変化と、活動のしやすさの変化に気付いたが、継続することの難しさを感じた生徒が多かった。</li> </ul>

学びを積み重ね、日常的に活用する展開の工夫

- ・授業で学んだ知識を基に実践できる技能となるように、寄宿舎の清掃体験を行った。
- ・思考力や判断力、表現力を高めることができるように、友達とペアを組んでやり方を見たり、互いにアドバイスしたりする活動にした。また、効率を考え、工夫するポイントを事前に相談できる機会を設定した。
- ・家庭科で学んだことを他の授業や家庭生活で活用できる機会を設定した。
- ・課題へ向かう意識を高め、日常的に活用できるように、自宅の清掃を夏休みの課題とした。さらに、自分で清掃箇所を決め、実施日はペアの友達と同じ日に設定した。

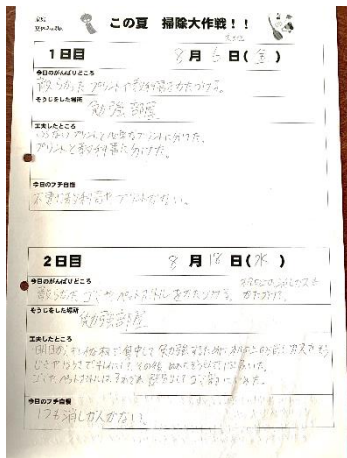


＜学びを次に生かした事例（作業学習、校内・現場実習、職業科、家庭科、寄宿舎、地域など）＞

T・R 家庭科	I・M 特別活動
<p>・夏休みの課題では、整理整頓のポイントを踏まえ、収納の仕方を見直したり、継続するための課題を見出したりすることができた。また、自室の整理整頓前後を写真に撮り、客観的に捉えることができた。</p> 	<p>・「整理整頓」の次に「清掃」という整理整頓と清掃のつながりに気づき、ピカピカデー等の清掃に生かすことができた。また、自分からアドバイスをして活動する場面が増え、自信をもって取り組む場面が増えた。</p> 
S・Y 作業学習	S・Y 校内・現場実習
<p>・ペアや小グループでの話し合い活動を積み重ねたことで、進捗状況を話し合いながら活動する姿が増え、作業へのモチベーションや効率がアップした。</p> 	<p>・決意式の司会原稿や礼状など、事前に準備したり、自宅で考えてきたりなど、これまでの経験自分から生かそうとするようになってきた。</p>  <p style="text-align: right;">実習生代表あいさつ原稿</p> <p style="font-size: small;">私たち高等部2年生16名は、来週から、それぞれの実習が始まります。僕は2週間クラマート石路店で実習をします。実習先で主に野菜などを加工する作業をします。特に衛生面や、野菜を優しく扱ったり、落とさないように丁寧心がけたいと思います。この実習を通して、学校卒業後の社会の中で生活していくための準備として仕事の大変さや楽しさを感じ、自分はどんなことについてがんばらなければならないのかを調べて学校で苦手分野を克服していきたいと思いま</p>

＜成果と課題＞ ○：成果 ▲：課題

- 自分で清掃箇所を決め、実施日はペアの友達と同じ日に決めたことで、課題への意識が高まった。
- 自分でやらなければいけない場面を作ることで、寄宿舎や家での実践につなげることができた。
- 自分の不得意の部分（片付け）に気づき、自己理解が進んだ。
- 自分から課題に取り組む姿勢（実習中のアイロン掛けや弁当作り、実習生代表挨拶の原稿を自分から考えて提出する等）が増えてきた。
- ▲自宅（自室）＝自由というイメージが先行してしまうことや、家庭からの協力を得られない生徒が少なくないことから継続の面で課題が残った。
- ▲自宅（自室）ではなく、共有スペースを清掃箇所にするすることで、家庭での役割を担うとともに、卒業後の職場での整理整頓につながり、自ら取り組もうとする意欲に繋がると感じた。







【授業実践3】高等部3年Ⅱグループ 職業科における授業実践

＜授業デザインミーティングⅠより＞

・生徒の実態 ☆目指す姿	単元計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次の実習から、卒業後の生活や働くことにイメージをもてるようになってきた。</li> <li>・社会人として必要な力や自己の課題について、自分のこととして捉えたり、般化したりすることが難しい。</li> </ul> <p>☆自分の考えや社会人として必要な力について、自分自身のこととして捉え、定着し、汎化できるようにする。</p> <p>☆実践的な活動を通して、自分の生活が豊かになるようにする。</p>	<p>職業科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く力を高めよう① 実習事前事後学習</li> <li>・働く力を高めよう② 後輩に伝える3年生特別授業</li> </ul>





＜実践：10月＞

教科・単元名	職業科「後輩に伝える3年生特別授業」	
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業で学んだことをまとめ、後輩に伝えることを通して自分の課題との向き合い方が分かる。 【知識及び技能】</li> <li>・友達や後輩と伝え合うことで違った視点に気付き、自分の課題を考え直す。 【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>・ST授業を友達とやり遂げることによって、お互いの良さを認め合おうとする気持ちをもつ。 【学びに向かう力、人間性等】</li> </ul>	
教師の支援	生徒の様子、エピソード	
<p>①導入では学んだことを思い出し、活用できるように、授業の始めにファイルから学びの履歴を探して発表する機会を設定した。 (始めの<b>STタイム</b>：職業トレーニングタイム)</p> <p>②相手のことを肯定的に捉え、自己有用感が高まるように、友達のいいところを伝え合う場面を授業の最後に設定した。(終わりの<b>STワード</b>：素敵などころを伝える言葉)</p> <p>③社会人として働くために必要な力について、後輩に伝えることで自分自身のこととして捉え、般化できるようにした。(ST授業：3年生特別授業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①～③の<b>3つのST</b>をキーワードにやグループによる話し合い活動など繰り返しの学習を設定し、見通しをもって取り組めるようにした。</li> </ul>	<p>①前時の学習の内容に関する質問に、ファイルを見返すことで答えることができた。また、前時の学習をしっかりと覚えていたり、思い出そうとしたりする様子が見られ、本時の学習につなげることができた。</p> <p>②仲間のいいところに目が行くようになり、肯定的なコメントをもらうことで生徒の達成感、成就感につながり、意欲が高まった。</p>  <p>③後輩に伝えるために、自分が現場実習で学んだことをエピソードとともに伝えることで、自分事として落とし込めた。後輩が実習で教えてもらったことを生かしたという感想をもらうことで、さらに達成感を得ることができた。</p> 	

学びを積み重ね、日常的に活用する展開の工夫

- ・自分の課題に集中的に取り組む2週間チャレンジを実施する。
- ・本人の課題解決についての取り組みを家庭や教師間で共有する。

<学びを次に生かした事例（作業学習、校内・現場実習、職業科、家庭科、寄宿舎、地域など）>

<p style="text-align: center;"><b>A・R 作業学習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生特別授業の経験が、製品の作り方や良さを自信をもって伝えることができるようになった。</li> <li>・報告や接客などで積極性が出て、製品の完成度も上がった。</li> </ul> 	<p style="text-align: center;"><b>O・G 作業学習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の経験が後輩のためになっているという実感を得たことで、後輩のマイナス発言に対して、納得できるようなエピソードを伝えてアドバイスできるようになった。</li> </ul> 
<p style="text-align: center;"><b>A・R 日常生活の指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の振り返りで、自在ほうきの使い方を難しかったという反省が挙げられた。自分でも課題を意識して、自在ほうきの持ち方や使い方に気をつけて普段の清掃に取り組んだ。</li> </ul> 	<p style="text-align: center;"><b>T・M 寄宿舎</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の反省から、自分の課題についてまとめて実践したことで、寄宿舎のチャレンジ体験（一人部屋で社会人と同じような生活をする）では、担当職員に自分から聞いたり、自分で考えて行動する場面が見られた。</li> </ul> 

<成果と課題> ○：成果 ▲：課題

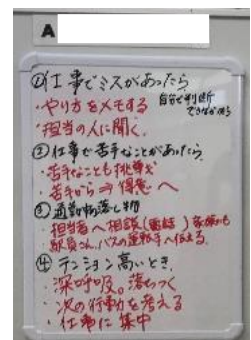
- 生徒自身が実習での学びを振り返り、まとめることで働く上で大切なことや自分の課題が整理できた。後輩に伝えることで学び直しとなり、より自分事として課題に向き合えた。
- 学年を越えた学びや他学年、他集団との学習の機会を設定したことで、先輩の学びを後輩につなげることができた。〈写真1〉
- グループの話合い活動では、教師がホワイトボードに書き取り内容を整理することで、話合いが焦点化され、簡潔に伝えることができた。
- ▲職業Ⅱグループでは成果が見られるが、3年生全体での活動場面では、良さを生かし切れていない部分があるので、学んだことを生かせるような場面設定と適切な役割を与え、評価していく必要がある。
- ▲「相手に伝えたことで分かったこと」「相手に伝えることで頭の中に定着したこと」について、更なるフィードバックが必要である。授業のまとめの部分で効果的に触れ、意味付けできるようにしたい。



〈写真1〉



〈写真2〉



## (6) 高等部生徒アンケート結果

高等部生徒に対して授業に関するアンケートを実施し、数値化した結果を表2に示した。また、自由記述の抜粋を表3に示した。それぞれの項目の評価基準は、「よくしている」(4点)、「ときどきしている」(3点)、「あまりしていない」(2点)、「あまりしていない」(1点)とし、いずれかの選択で回答を求め、結果を数値化した。

＜表2＞高等部生徒アンケート結果

項目	5月	12月	増減
①職業科・家庭科の授業は楽しいですか。	3.66	3.52	-0.14
②職業科・家庭科の授業は大切だと思いますか。	3.86	3.75	-0.11
③授業では、今日の学習の流れが出されていますか。	3.81	3.73	-0.08
④授業では、毎時間「めあて」が出されていますか。	3.95	3.91	-0.04
⑤「めあて」はわかりやすいですか。	3.75	3.75	0
⑥「めあて」を見て、ワクワクすることがありますか。	3.43	3.20	<u>-0.23</u>
⑦友達の話聞いて「なるほど」と思うことはありますか。	3.75	3.64	-0.11
⑧「振り返り」では、自分で考えて書くことができますか。	3.77	3.66	-0.11
⑨友達の「振り返り」を聞いて、参考にしたり、自分に生かしたりすることはありますか。	3.61	3.52	-0.06
⑩この先の授業の計画はわかりますか。	3.48	3.57	+0.09
⑪学習で1度使ったノートやプリントをあとで見返したり、使ったりすることがありますか。	3.07	3.23	<u>+0.16</u>
⑫職業科・家庭科で学んだことを他の学習で生かしたことはありますか。	3.16	3.00	<u>-0.16</u>
⑬職業科・家庭科で学んだことを学校生活や家庭、寄宿舎の生活で生かしたことはありますか。	3.18	3.34	<u>+0.16</u>

- ・1回目、2回目のどちらの評価も高い平均値(3.5ポイント以上)になった項目は、「①職業科・家庭科の授業は楽しいですか」、「②職業科・家庭科の授業は大切だと思いますか」、「③授業では、今日の学習の流れが出されていますか」、「④授業では『めあて』が出されていますか」、「⑤『めあて』はわかりやすいですか」、「⑦友達の話聞いて『なるほど』と思うことはありますか」、「⑧『振り返り』では、自分で考えて書くことができますか」、「⑨友達の『振り返り』を聞いて、参考にしたり、自分に生かしたりすることはありますか。」の8項目あった。
- ・1回目に比べて2回目の平均値が増加(0.15ポイント以上)したのは、「⑪学習で1度使ったノートやプリントをあとで見返したり、使ったりすることがありますか」、「⑬職業科・家庭科で学んだことを学校生活や家庭、寄宿舎の生活で生かしたことはありますか」の2項目あった。
- ・1回目に比べて2回目の平均値が低下(0.15ポイント以上)したのは、「⑥「めあて」を見て、ワクワクすることがありますか」、「⑫職業科・家庭科で学んだことを他の学習で生かしたことはありますか」の2項目あった。

＜表3＞高等部生徒アンケート自由記述 結果 ～一部抜粋～

記述項目	内容
⑫他の学習で生かした	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生からのST授業を現場実習で生かすことができた。</li> <li>・食事のことやマナーを家や学校で生かしている。</li> </ul>
⑬学校生活や家庭、寄宿舎で生かした	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学び、家事をしようという気持ちになり何回か家事をした。</li> <li>・整理の学習をしたとき自分の部屋でも参考に生かした。</li> <li>・洗剤の量を確かめるようにした。</li> <li>・家庭科で学んだ調理を家で実践している。</li> </ul>



## (7) 高等部職員アンケート結果

高等部職員に対して授業づくりに関するアンケートを実施し、数値化した結果を表4に示した。また、自由記述の抜粋を表5に示した。

＜表4＞高等部職員アンケート結果

カテゴリー	項目	4月	12月	増減	
実態把握	①学びの履歴、興味・関心など、子どもの実態を把握している。	3.08	3.41	+0.33	
	②単元（題材）で目指す子どもの姿を明らかにしている。	3.19	<u>3.56</u>	+0.37	
授業しほり	③授業のねらいに合った、学びがよい教材・題材・資料等を選定している。	3.23	<u>3.59</u>	+0.36	
	④発問や板書を意識して授業づくりをしている。	3.12	3.30	+0.18	
	⑤単元（題材）や1単位時間の学習の見通しを子ども自身にもたせている。	3.04	3.44	<u>+0.40</u>	
	⑥単元（題材）や1単位時間毎に一人一人の子どもの成長を評価している。	2.88	3.37	<u>+0.49</u>	
	⑦日頃、「めあて」のカードを使って授業をしている。	<u>3.58</u>	<u>3.81</u>	+0.23	
	⑧日頃、「振り返り」のカードを使って授業をしている。	3.04	3.26	+0.22	
	⑨日頃、授業のゴールから「めあて」を設定している。	3.12	3.37	+0.25	
	⑩児童生徒が学んだことを整理したり、自分の考えをまとめなおしたりする時間を保障している。	2.92	3.19	+0.27	
	⑪活動や振り返りの際に、学習の成果を見取り、価値付けたり、意味付けたりしている。	3.00	3.30	+0.30	
	⑫「児童生徒が学びを実感する」支援を工夫している。	3.15	3.30	+0.15	
	⑬児童生徒が学びを実感していると思う。	2.77	3.26	<u>+0.49</u>	
	授業改善	⑭「めあて」と「振り返り」の整合性を意識した授業をしている。	3.04	3.33	+0.29
		⑮次の学習への意欲や見通しをもたせてから授業を締めくくっている。	3.04	3.26	+0.22
⑯個別の指導計画の目標を児童生徒と一緒に共有している。		2.77	2.93	+0.16	
⑰個別の指導計画の評価を児童生徒と一緒に共有している。		2.58	2.93	+0.35	
⑱単元（題材）の計画を児童生徒と一緒に作っている。		2.38	2.78	<u>+0.40</u>	
その他	⑲「児童生徒の学びがつながる」支援を工夫している。	2.81	3.33	<u>+0.52</u>	
	⑳児童生徒が学んだことを次に生かす様子は見られる。	2.85	3.30	<u>+0.45</u>	

- ・2回目の評価が高い平均値（3.5ポイント以上）になった項目は、「②単元（題材）で目指す子どもの姿を明らかにしている」、「③授業のねらいに合った、学びがよい教材・題材・資料等を選定している」、「⑦日頃、「めあて」のカードを使って授業をしている」の3項目あった。
- ・1回目比べて2回目の平均値が大幅（0.4ポイント以上）に増加したのは、「⑤単元（題材）や1単位時間の学習の見通しを子ども自身にもたせている」、「⑥単元（題材）や1単位時間毎に一人一人の子どもの成長を評価している」、「⑬児童生徒が学びを実感していると思う」、「⑱単元（題材）の計画を児童生徒と一緒に作っている」、「⑲「児童生徒の学びがつながる」支援を工夫している」、「⑳児童生徒が学んだことを次に生かす様子は見られる」の6項目あった。

＜表5＞高等部職員アンケート自由記述 結果 ～一部抜粋～

カテゴリー	内容
実態把握	・担任や学年、作業担当から情報をつかむように話を聞いたり、様子を見学したりするように心掛けている。
授業づくり	・授業のゴールから組み立てることで、「めあて」がLet`s型から、How to型などになってきた。他の授業でも練られてきたように感じる。 ・学びがつながりにくい知的障害の生徒にとって、1時間完結の授業だけでなく、時間をおいて確認する効果を感じた。
その他 (学校生活や家庭、寄宿舎の生活への般化)	・舎や家庭との連携した授業づくりをすることで、家庭で学んだことを生かす必然性が出て、学びにつながっている。 ・実習後は、2週間チャレンジを通して課題を意識して生活する様子が見られた。 ・職業科や家庭科で取り上げた内容を長期休みで課題として家庭生活につなげることができた。

### (8) 成果と課題に関するアンケート結果

職業科・家庭科における成果・課題についての回答は、「生徒の変容」、「学びを実感し、学びをつなげる支援の工夫」、「生徒による学習評価」の大カテゴリーに分類された。

＜表6＞職業科での成果（n=74）

①生徒の変容(30)	学んだことを実感(18)	自分事として捉える姿(13)
		知識、思考の深まり(4)
		自分の成長を実感する姿
	学びをつなげる(5)	普段の学習や生活への般化(4)
		課題解決する姿(1)
	学習意欲(7)	自発的な行動の増加(3)
		前向きに取り組もうとする姿(2)
見通しと役割の理解(2)		
②学びを実感し、学びをつなげる支援の工夫(23)	めあてや振り返り(4)	明確なゴールの設定(2)
		気付きにつながる「めあて」の工夫(2)
	学びを実感できる工夫(12)	見通しをもてる繰り返しの活動(3)
		ペアやグループによる学び合い(2)
		学年を越えた学び合い(2)
		個の学びを共有する場面設定(1)
		実践的な場面設定(1)
		感謝される場面設定(1)
		前時の確認テスト(1)
		気付きを促す言葉掛け(1)
	学びをつなげる工夫(9)	学んだことを生かす支援(5)
他の学習に学びをつなげる支援(2)		
③生徒による学習評価(21)	自己評価(3)	学んだことを実感できる振り返りテスト(2)
		日常的な自己評価(1)
	他者評価(8)	生徒同士によるプラスの評価(4)
		自己評価と他者評価の関連付け(3)
	めあてと振り返り(10)	体験を通した即時評価(1)
		めあてと振り返りの整合性が図られたことによる生徒の振り返りの充実(6)
	生徒自身が評価できるめあての設定(3)	
	つながりのあるワークシートの活用(1)	

＜表7＞家庭科での成果（n=69）

①生徒の変容(23)	学んだことを実感(8)	知識、思考の深まり(5)
		自分事として捉える姿(2)
		実践を通した技能の向上(1)
	学びをつなげる(9)	普段の生活への般化(8)
		継続的な目標を意識した行動(1)
	学習意欲(6)	意欲的、自発的な姿(4)
見通しと役割の理解(2)		
②学びを実感し、学びをつなげる支援の工夫(32)	学びを実感できる工夫(13)	実践的な場面設定(4)
		寄宿舎生と通学生による学び合い(3)
		小グループによる話し合い(2)
		友達同士による教え合い(1)
		学びのまとめと発信(1)
		将来に生かせる必然性のある学習内容(1)
		知識、技能、思考が関連し合う支援の工夫(1)
		ファイルを見返す場面の設定(1)
	学びをつなげる工夫(19)	家庭との連携(9)
		寄宿舎との連携・活用(6)
		家庭科通信の発行(3)
	学びを確認し、深める私服用週間(1)	
③生徒による学習評価(14)	自己評価(5)	実践や成果物による生徒自身の評価(3)
		教科の特質による評価のしやすさ(2)
	他者評価(3)	生徒同士による教え合い(1)
		体験を通した即時評価(1)
	めあてと振り返り(6)	自己評価と他者評価の関連付け(1)
		課題やポイントを絞ったことによる振り返りの充実(4)
めあての工夫による自己の課題の発見(1)		
	生徒自身が実感できる評価基準(1)	

<表8>職業科での課題 (n=44)

①生徒の変容 (10)	学んだことを実感(1)	実態による学びや振り返りの質の差(1)
	学びをつなげる(5)	普通の学習や生活への般化の不足(3) 思考と行動の乖離(2)
	学習意欲(4)	繰り返しによる集中力の欠如(2) 自己理解の差による授業への意識の差(1) 肯定的な自己理解の難しさ(1)
②学びを実感し、学びをつなげる支援の工夫 (21)	めあてや振り返り(6)	めあてや振り返りにつながる学習活動の設定(3)
		生徒が分かるめあての設定(2)
		繰り返しや振り返りの充実(1)
	学びを実感できる工夫(6)	実態差に応じたグルーピングの工夫(3)
		学習定着に向けた授業づくりの工夫(2)
		将来を意識した学びを実感するための工夫(1)
学びをつなげる工夫(9)	般化する気持ちを育てる工夫(3)	
	継続的に取り組む教育課程の編成(3)	
	余暇につながる学習内容の精選(2)	
	作業学習との関連(1)	
③生徒による学習評価 (13)	自己評価(7)	内面的な評価の難しさ(3)
		障害の重さによる評価の難しさ(2)
		日々の評価による意識の欠如(1)
		自己評価の甘さ(1)
	他者評価(4)	自己評価と他者評価のズレ(3)
		他者評価と自己評価の関連付け(1)
	めあてと振り返り(1)	活動量の増加による振り返り時間の不足(1)
学習計画(1)	生徒主体の俯瞰的な学習計画の共有(1)	

<表9>家庭科での課題 (n=40)

①生徒の変容 (11)	学んだことを実感(2)	課題発見に向けての認識不足(1) 技能面の評価の難しさ(1)
	学びをつなげる(8)	普通の生活への般化の不足(5) 次の学習に学びが繋がらない(3)
	学習意欲(1)	繰り返しによる集中力の欠如(1)
②学びを実感し、学びをつなげる支援の工夫 (22)	めあてや振り返り(1)	生徒が分かるめあての設定(1)
		学びを実感できる工夫(6)
	学びをつなげる工夫(15)	実践経験と時数の不足(4)
		実態に応じた学習内容の精選(1)
		課題を見つけるためのポイントの提示(1)
		家庭との連携(8)
自己評価(3)	生徒自身が評価できる評価基準の設定(2)	
	他者評価(3)	障害の重さによる評価の難しさ(1) 自己評価と他者評価のズレ(1) 実態差による適切な他者評価の難しさ(1) 生徒と教師による評価の共有(1)
	めあてと振り返り(1)	実態に応じためあての設定(1)

令和3年12月20日 (高) 職業科・家庭科 今年度の研究のまとめに向けて 氏名 \_\_\_\_\_

各学習グループでの取り組みを振り返って、生徒にどのような実感が得られ、どのように実感が有効だったのか職業科と家庭科それぞれの実感と課題についてお書きください。

**今年度の取り組み、キーワード**

- ・自分事として捉えられる「めあて」の設定 (Let's try-how to, why)
- ・学んだことを実感するための「振り返り」の工夫
- ・学びを積み重ね、日常的に活用する期間の工夫 (家庭・宿舎との連携、卒業後の生涯学習)
- ・目標、評価の軌道上映演講
- ・「めあて」と「振り返り」の融合性
- ・「児童生徒の学びがにつながる」実態の工夫
- ・他の学びを全体の学びとして共有し、自分事として生徒に生かす
- ・他者評価
- ・授業デザインミーティングⅠ・Ⅱ

項目	成果		課題	
	職業科	家庭科	職業科	家庭科
1 生徒の実感について				
2 学びを実感し、学びをつなげる支援の工夫について				
3 児童生徒による学習評価について				

<図4>職員に対するアンケート調査Ⅲ



## 7 まとめ

### (1) 生徒の変容

#### **自分事として捉える姿の高まり**

職員アンケートの「②単元（題材）で目指す子どもの姿を明らかにしていますか」、「③授業のねらいに合った、学びがよい教材・題材・資料等を選定していますか」という項目は、0.35ポイント以上増加している。生徒一人一人が将来の働くこと、暮らすこととのつながりを実感できるように単元計画、各教科との関連、家庭や寄宿舎との連携など、自分事となる仕掛けをしたことで生徒の主体性が高まった。

#### **学びをつなげる姿の増加**

生徒アンケートの「⑩職業科・家庭科で学んだことを学校生活や家庭、寄宿舎の生活で生かしたことはありますか」という項目は、0.16ポイント増加している。生徒アンケートの記述においても家庭科で学んだことを日常的に活用したという具体的な記述が増加しており、学んだことを学校生活だけでなく家庭、寄宿舎の生活に生かすことができた。

### (2) 学びを実感し、学びをつなげる支援の工夫

#### **学びを実感できる学び合いの工夫**

成果・課題に関するアンケート結果からも学びを実感できる工夫としてペアやグループでの学び合いや学年を越えた学び合いを有効性が挙げられている。授業実践3の成果にあるように、学びの蓄積を後輩に伝えるというアウトプットの機会をもつことで自分の成長や課題を改めて捉え直し、次につなげるための切り口となった。

#### **学びをつなげる家庭や寄宿舎との連携の充実**

職員アンケートの「⑭『児童生徒の学びがつながる』支援を工夫していますか」という項目が、0.52ポイント増加している。授業実践2の成果にあるように、寄宿舎を活用した実践的な学習をし、そこから他の授業や家庭生活につなげたように、職業科・家庭科で学んだことを学校の学びだけで終わらせないように学んだことを生かす必然性をもたせたり、家庭や寄宿舎との連携を図ったりすることが学びをつなぐ上で効果的だった。

### (3) 生徒による学習評価の充実

#### **「めあて」と「振り返り」の整合性が図られたことによる「振り返り」の充実**

成果・課題に関するアンケート結果から「めあて」と「振り返り」の整合性が図られたことにより、生徒による「振り返り」が充実してきたことが挙げられた。児童生徒による学習評価を充実させるためには、生徒にとって何を学ぶのかが分かりやすく必然性のもてる「めあて」が提示され、どの程度できたか評価しやすい「振り返り」を行うことが有効であることが考えられる。

#### **自己理解を深める生徒同士による肯定的な評価の活用**

成果・課題に関するアンケート結果から生徒同士によるプラスの評価の有効性が挙げられている。また、秋田大学准教授前原先生から、「自らの経験を振り返り、その経験を再構築していくようなことができなるといけないことや、他者評価の活用という視点で、先生や友達から評価される。」ことが自

己理解を深めるためには重要であると助言があった。本人が肯定的に自己を捉えるために他者評価の活用が有効だった。

#### **職業科・家庭科における教科の特質の違い**

家庭科に関しては清掃や裁縫、調理など実践や成果物による生徒自身が評価しやすいという教科の特質が挙げられた。一方で、職業科においては、知識中心の学習内容に偏りがちな傾向が大きく、内面的な評価の難しさが挙げられた。生徒自身が評価できる評価基準の設定や実態に応じた評価方法の工夫が求められる。

### **8 教育課程編成に向けての提言**









#### **各教科等との関連や系統性の整理**

職業科・家庭科の授業づくりを進める中で、教科学習としてどのような力を育むのかだけでなく、各教科等のどのような指導内容と関連させると効果的なのか学ぶ内容や系統性を整理する必要がある。そのためには、各教科等とのつながりが見える指導計画の作成や適正な授業時数の検討に向けた校内組織との連携が求められる。

#### **継続的に取り組む教育課程の編成**

職業科ワーキンググループで中学部職業・家庭科に関する学習内容参考一覧の作成に向けて、中学部からの3年間で「いつ、どのような内容を、どれくらい」取り扱うのかについて、学部を越えて協議を深めることができた。学習指導要領を基に系統性を踏まえたものを作成することができたが、長期的な視点で小学部段階から12年間を通した学びの積み重ねと学びのバトンがつながる支援についての検討が必要である。

〈資料1〉「学びを実感し、学びをつなげるための実践、授業場面（導入、振り返り）」の工夫一覧

<p style="text-align: center;"><b>高1 Iグループ</b></p> <p style="text-align: center;"><b>「家庭科通信」の発行～家庭との連携～</b></p> <p>・家庭でも挑戦したり、家族との会話の中で確認したりできるように、単元終了後に発行した。 ⇒通信の発行と併せて長期休暇中、家事へ挑戦する機会を設定したことで、チェックしてもらったり、コメントをもらったり、保護者の協力を得ることができた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; color: blue;"><b>家庭科通信～掃除・洗濯編～</b></p> <p style="text-align: right; font-size: small;">担当：佐藤美鈴</p> <p style="font-size: x-small;">11月22日と29日の家庭科の時間に、寄宿舎の先生方から掃除と洗濯の手順や留意点について教えてもらいました。実際に掃除機や洗濯機を使いながら学んだり、もっと丁寧にできるためのポイントを教えてもらったりと実践的に学ぶ良い機会になりました。今回学んだ内容を「冬休み家事チャレンジ」を決めていますので、御家庭でそれぞれのポイントについて、再度確認をお願いします。御協力よろしくお願ひします。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">《掃除ポイント》</p> <p style="font-weight: bold;">ほうき編</p> <p style="font-size: x-small;">・<u>机の上のゴミは机に入れて待つ。</u>（自在ほうき） △<u>周りの安全に気をつけて掃除するため。</u></p> </td> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">《洗濯ポイント》</p> <p style="font-weight: bold;">手順</p> <p style="font-size: x-small;">1.洗濯物のポケットの中身を確認する。 2.ひどい汚れがないかチェックする。</p> </td> </tr> </table> </div>	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">《掃除ポイント》</p> <p style="font-weight: bold;">ほうき編</p> <p style="font-size: x-small;">・<u>机の上のゴミは机に入れて待つ。</u>（自在ほうき） △<u>周りの安全に気をつけて掃除するため。</u></p>	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">《洗濯ポイント》</p> <p style="font-weight: bold;">手順</p> <p style="font-size: x-small;">1.洗濯物のポケットの中身を確認する。 2.ひどい汚れがないかチェックする。</p>	<p style="text-align: center;"><b>高2 Iグループ</b></p> <p style="text-align: center;"><b>学びをつなげる確認テスト</b></p> <p>・前時の学習の定着度を図り、本時の学びにつながるように、授業の導入時に確認テストを行った後に解説した。 ⇒生徒によっては、忘れていた既習事項を思い出した上で、本時の新しい課題に取り組めた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">かくにん <b>確認テスト</b></p> <p style="text-align: right; font-size: small;">2年 組 名前 _____</p> <p style="font-size: x-small;">に だ こ と え ら える 答 る べ き こ と</p> <p style="font-weight: bold;">正しい答えを選んで、○で囲みなさい。</p> <p>①職業適性とは、ある職業や仕事に ( 向いているかの目安 ・ 好きか嫌いか ) のこと。</p> <p>②業種とは、( 会社の種類 ・ 仕事の種類 ) のこと。 例えば、「工業」「製造業」「建設業」など</p> </div>
<p style="text-align: center; font-weight: bold;">《掃除ポイント》</p> <p style="font-weight: bold;">ほうき編</p> <p style="font-size: x-small;">・<u>机の上のゴミは机に入れて待つ。</u>（自在ほうき） △<u>周りの安全に気をつけて掃除するため。</u></p>	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">《洗濯ポイント》</p> <p style="font-weight: bold;">手順</p> <p style="font-size: x-small;">1.洗濯物のポケットの中身を確認する。 2.ひどい汚れがないかチェックする。</p>		
<p style="text-align: center;"><b>高2 IIグループ</b></p> <p style="text-align: center;"><b>“身に付けたい力”を生徒自身が意識して確認</b></p> <p>・単元の初めに、右図の中から生徒自身で、単元で付けたい力を2～3個選択し、その力をチェックできるような授業内容と「めあて」を設定した。 ⇒「めあて」を意識した「振り返り」ができるようになった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div>	<p style="text-align: center;"><b>高2 IIIグループ</b></p> <p style="text-align: center;"><b>What型のめあてで、目指す姿をシンプルに</b></p> <p>・質問形式で答えられるように「担当した仕事は何ですか?」「渡した花は何ですか?」などWhat型のめあてを設定した。 ⇒学習を繰り返す中で、自分と友達の役割を理解し、友達を手助けする姿が見られた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
<p style="text-align: center;"><b>高3 Iグループ</b></p> <p style="text-align: center;"><b>卒業後の生活の自信と安心に“つなげる” ～就労先や生活の場など個の実態に迫る実践～</b></p> <p>・家庭での実践・定着・向上に“つなげる”よう、寄宿舎での生活体験を行った。 ・TPOに応じた衣服の着用“つなげる”よう、私服着用期間を設定した。 ⇒実践する機会を設定したことで、机上の学び→学校（集団）での実践→家庭（個）での実践へと自信をもって“つなげる”生徒が多かった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<p style="text-align: center;"><b>高3 IIグループ</b></p> <p style="text-align: center;"><b>学びの履歴を振り返るSTタイム</b></p> <p>・学んだことを思い出し、活用できるようにファイルから学びの履歴を探して発表する機会としてST（職業トレーニング）タイムを設定した。 ⇒知りたい情報や学びを活用しようとする意識が高まった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="font-weight: bold; font-size: large;">STタイム</p> <p style="font-size: x-small;">(職業トレーニングタイム)</p> <p style="font-weight: bold;">学んだことを</p> <p>⇒思い出す!</p> <p>⇒活用する!</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <p style="font-size: x-small;">なんだっけ??</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <p style="font-size: x-small;">そっか!!! こうすればいいんだ!</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>		

	1年生 [知る]	2年生 [広げる]	3年生 [深める]		1段階	2段階	
職業に関する学習内容	<p>○<b>中学部スタート</b> A(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション、友達を知る、自己紹介</li> </ul> <p>○<b>未来へのスケッチ</b> A(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きなこと、将来の夢</li> <li>・個人目標</li> </ul> <p>○<b>未来へ向かって</b> A(ア)、Aイ②④、C(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品加工班でフコインランチ利用</li> <li>・高等部校内実習見学</li> <li>・福祉施設見学</li> </ul>	<p>○<b>2年生スタート</b> A(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション、友達を知る、自己紹介</li> </ul> <p>○<b>未来へのスケッチ</b> A(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意なこと、やってみたい仕事、自己理解</li> <li>・個人目標</li> </ul> <p>○<b>未来へ向かって</b> A(ア)、Aイ②④、C(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部作業学習・校内実習見学</li> <li>・福祉施設、職場見学</li> <li>・食品加工班でフコインランチ調理体験</li> </ul>	<p>○<b>3年生スタート</b> A(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション、友達を知る、自己紹介</li> </ul> <p>○<b>未来へのスケッチ</b> A(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所、短所、自己理解、他者理解</li> <li>・個人目標</li> </ul> <p>○<b>未来へ向かって</b> A(ア)、Aイ②④、C(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部体験(着替え、体カトレーニング、作業学習、職業科)</li> <li>・高等部作業学習、校内実習、実習報告会見学</li> <li>・福祉施設、職場見学</li> <li>・職場体験(1日)</li> <li>・高等部入学者選考：面接練習</li> </ul>		<p><b>A 職業生活</b></p> <p>ア 働くことの意義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 働くことの意味、知る</li> <li>(イ) 意欲や見通し、自分の役割、気付く</li> <li>(ウ) 作業や実習等、達成感を得る</li> </ul> <p>イ 職業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 知識や技能</li> <li>① 知識や技能、知る</li> <li>② 社会の仕組み、知る</li> <li>③ 材料や育成する生物等の扱い方、生産や生産活動等、知る</li> <li>④ 使用する道具等の扱い方、慣れる</li> <li>⑤ 持続性や巧緻性、身に付ける</li> <li>(イ) 思考力、判断力、表現力</li> <li>① 作業、実習との関連、気付く</li> <li>② 安全や衛生、気付く、工夫する</li> <li>③ 健康管理、気付く</li> </ul> <p>情報機器の活用</p> <p>産業現場等における実習</p>	<p>(ア) 働くことの意味、理解する</p> <p>(イ) 意欲や見通し、自分と他者との関係や役割、考える</p> <p>(ウ) 作業や実習等、達成感を得る、進んで取り組む</p> <p>イ 職業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 知識や技能</li> <li>① 知識や技能、理解する</li> <li>② 社会の仕組み、理解する</li> <li>③ 材料や育成する生物等の特性や扱い方、生産や生産活動等、理解</li> <li>④ 使用する道具等の扱い方、理解</li> <li>⑤ 確実性や巧緻性、身に付ける</li> <li>(イ) 思考力、判断力、表現力</li> <li>① 作業、実習との関連、考えて、発表</li> <li>② 安全や衛生、作業の効率性、考えて、工夫</li> <li>③ 健康管理、考える</li> </ul> <p>情報機器の基礎的な操作、知り、扱いに慣れる</p> <p>情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現</p> <p>調べて、理解する</p> <p>自己の成長、考えて、発表する</p>	
	年間	<p>○<b>調べ学習</b> Bアイ ・タブレットの活用、情報モラル</p> <p>○<b>作業学習</b> Aア(ア) (イ) (ウ)、Aイ(ア) ②④⑥⑧ (イ) ②④⑥⑧ ・作業学習、自立活動パワーアップ週間</p> <p>○<b>動画での振り返り</b> Bア ・タブレットの活用</p>					
	家庭に関する学習内容	<p>○<b>ひとりできるもん〜衣食住の衣の巻</b> Bウ(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯、アイロン(はちまき)</li> </ul> <p>○<b>ひとりできるもん〜衣食住の食の巻</b> Bイ(ア) (イ)、Cア(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物</li> <li>・公共交通機関の利用</li> <li>・簡単な調理：電子レンジ、ポット、炊飯器の利用</li> </ul> <p>○<b>ひとりできるもん〜衣食住の住の巻</b> Bエ(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の中での役割</li> <li>・簡単な手伝い</li> </ul>	<p>○<b>ひとりできるもん〜衣食住の衣の巻</b> Bウ(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯、アイロン(豆絞り)</li> <li>・縫い物</li> </ul> <p>○<b>ひとりできるもん〜衣食住の食の巻</b> Bイ(ア) (イ)、Cア(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物</li> <li>・公共交通機関の利用</li> <li>・簡単な調理：コンロの利用</li> </ul> <p>○<b>自分の成長を振り返ろう</b> Aエ(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい子どもと遊ぼう</li> </ul>	<p>○<b>ひとりできるもん〜衣食住の衣の巻</b> Bウ(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯、アイロン(半纏)</li> <li>・ミシンの利用</li> </ul> <p>○<b>ひとりできるもん〜衣食住の食の巻</b> B1段階イ、C2イ(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物</li> <li>・公共交通機関の利用</li> <li>・簡単な調理、：包丁の利用</li> <li>・弁当作り：バランスのとれた食事</li> </ul> <p>○<b>自分の成長を振り返ろう</b> Aア(ア) (イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業文集制作</li> </ul>		<p><b>A 家族・家庭生活</b></p> <p>ア 自分の成長と家族</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 自分の成長、家庭生活の大切さ、知る</li> <li>(イ) 家族とのやりとり、家族を大切にできる気持ち、気付く、他者に伝える</li> </ul> <p>イ 家庭生活と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 家庭における役割、地域との関わり、関心を持ち、知る</li> <li>(イ) 家庭生活に必要なこと、自分の果たす役割、気付く、他者に伝える</li> </ul> <p>ウ 家庭生活における余暇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 健康や様々な余暇の過ごし方、知り、実践しようとする</li> <li>(イ) 望ましい生活環境、健康管理及び様々な余暇の過ごし方、気付く、工夫</li> </ul> <p>エ 幼児の生活と家族</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 幼児の特徴や過ごし方、知る</li> <li>(イ) 幼児への適切な関わり方、気付く、他者に伝える</li> </ul> <p><b>B 衣食住の生活</b></p> <p>ア 食事の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 健康な生活と食事の役割、知る</li> <li>(イ) 適切な量の食事、楽しくとる、気付く、他者に伝える</li> </ul> <p>イ 調理の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 簡単な調理の仕方や手順、知り、できるようにする</li> <li>(イ) 簡単な調理計画、考える</li> </ul> <p>ウ 衣服の着用と手入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 場面に合った日常着の着用や手入れの仕方、知り、実践しようとする</li> <li>(イ) 日常着の着用や手入れの仕方、工夫</li> </ul> <p>エ 快適な住まい方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 住まいの主な働き、整理・整頓や清掃の仕方、知り、実践しようとする</li> <li>(イ) 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方、気付く、工夫</li> </ul> <p><b>C 身近な消費生活・環境</b></p> <p>ア 身近な消費生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方、知り、実践しようとする</li> <li>(イ) 生活に必要な物、選んだり、物を大切に使うこと</li> </ul> <p>イ 環境に配慮した生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 環境に配慮した物の使い方、知り、実践しようとする</li> <li>(イ) 環境に配慮した物の使い方、考え、工夫</li> </ul>	<p>ア 自分の成長と家族</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 自分の成長、家庭生活の大切さ、理解</li> <li>(イ) 家族とのやりとり、家族を大切にできる気持ちを育み、気付く、他者に伝える</li> </ul> <p>イ 家庭生活と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 家庭における役割、地域との関わり、調べ、理解</li> <li>(イ) 家庭生活に必要なこと、家族の一員として、自分の果たす役割、考え、表現</li> </ul> <p>ウ 家庭生活における余暇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 健康管理や余暇の過ごし方、理解し、実践する</li> <li>(イ) 望ましい生活環境、健康管理及び自分に合った余暇の過ごし方、考え、表現</li> </ul> <p>エ 家族や地域の人々との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 地域生活や地域の活動、調べ、理解する</li> <li>(イ) 家族との触れ合い、地域生活に関心、家族や地域の人々と地域活動への関わり、気付く、表現</li> </ul> <p>ア 食事の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 健康な生活と食事の役割、日常の食事の大切さ、理解</li> <li>(イ) 日常の食事の大切さ、規則正しい食事の必要性、考え、表現</li> </ul> <p>イ 栄養を考えた食事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 身体に必要な栄養、関心を持ち、理解し、実践</li> <li>(イ) バランスのとれた食事、気付く、献立などを工夫</li> </ul> <p>ウ 調理の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 調理に必要な材料の分量や手順、理解し、適切にできる</li> <li>(イ) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方、工夫</li> </ul> <p>エ 衣服の着用と手入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 日常着の使い分けや手入れの仕方、理解し、実践</li> <li>(イ) 日常着の快適な着用や手入れの仕方、考え、工夫</li> </ul> <p>オ 快適で安全な住まい方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 快適な住まい方、安全について理解し、実践しようとする</li> <li>(イ) 季節の変化に合わせた快適な住まい方、気付く、工夫</li> </ul> <p>ア 身近な消費生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 生活に必要な物の選択や扱い方、理解し、実践</li> <li>(イ) 生活に必要な物について考えて選ぶ、物を大切に使う工夫</li> </ul> <p>イ 環境に配慮した生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 環境に配慮した物の使い方、理解し、実践</li> <li>(イ) 環境との関わりや環境に配慮した生活、考え、物の使い方などを工夫</li> </ul>
年間	<p>○<b>長期休業の過ごし方</b> Aイ(ア) (イ) Aウ(ア) (イ) ・家庭での役割、余暇の過ごし方</p> <p>○<b>校外学習</b> Cア(ア) (イ) ・予算内の買い物</p> <p>○<b>給食</b> Bア(ア) (イ) ・食事のマナー</p> <p>○<b>日常生活の指導</b> Bウ(ア) (イ)、Bエ(ア) (イ) ・着替え、衣類の整理、清潔、清掃</p> <p>○<b>地域貢献活動</b> A2エ(ア) (イ)、Cイ(ア) (イ) ・クリーンアップ、近隣施設、町内との交流</p> <p>○<b>ピカピカデー(特活)</b> Bエ(ア) (イ) ・清掃、整理整頓</p>						

## 寄宿舎

### 研究主題

#### 児童生徒による学習評価の充実

—生徒が学びを実感し、学びをつなげる日常生活指導を通して—（2年次／2年計画）

#### 1 生徒の実態

今年度の寄宿舎には、中学部1名、高等部19名、計20名の生徒が在籍している。新型コロナウイルス感染症予防のため、全員が集まっての活動は制限されているが、グループや部屋毎の活動を中心に、協力して生活している。

昨年度より、目標設定や評価に生徒自身に関わることができるようにしたことにより、できるようになりたいことを具体的にイメージしたり、次にどうすればいいかを考えたりする様子がみられるようになった。しかし、生徒が自身の評価をするためには、生活場面で生徒自身が「できた」「失敗した」など実感を伴う活動が必要だと考えた。

#### 2 1年次の成果と課題

##### (1) 成果

- ・A P D C Aサイクルで個別の生活指導計画に向けた実態把握や目標設定、評価が生徒と一緒にできるおおぞらシートを作成した。目標設定に生徒自身に関わるようになったことで、具体的な目標設定につながった。
- ・保護者にP T Aや寄宿舎通信でおおぞらシートの活用方法について説明し、生徒の目標や取組の内容を伝えた。保護者の協力を得ることで、寄宿舎での取組が家庭でも継続できる生徒が増えた。
- ・目標と手立ての一覧を作成したり、生活記録簿の目標に関する欄への記録を工夫したりすることで、交代制勤務の職員が連携して指導できるようにした。

##### (2) 課題

- ・これまで、生徒の安全への配慮や職員の勤務態勢により、技術等の習得に必要な一連の流れを繰り返し経験することが難しく、生徒自身、経験を実感できる場面が少なかった。また、寄宿舎で経験したことを他の場面につなげるための手立てが不十分だった。
- ・できるようになりたいことをイメージしたり、次にどうすればいいかを考えたりする生徒が増えてきたことで、生活の様々な場面に、気づきや発見など学びがある生徒に対応できる指導力が必要だった。

#### 3 目指す生徒の姿（2年次）

- ・目的をもって意欲的に生活をする。
- ・様々な場面に対応できる生活力が身につく。

#### 4 研究対象

日常生活指導の場面

- ・食事、入浴、身なり、清潔、清掃、洗濯、交通ルール、金銭管理、時間の管理、コミュニケーション、調理活動等

## 5 内容与方法

### (1) おおぞらシートを活用した関係者との連携と共有



### (2) 生徒が考えて生活できる環境作り

- 生徒が選択する日課
- 生徒が計画する行事

## 6 研究の実際

### (1) おおぞらシートを活用した関係者との情報共有と連携

#### ・実態把握(シート1)

在舎生は、前年度のおおぞらシート、新入舎生は目標設定参考用紙(仮)(資料1)を参考に、担当と話し合う時間を持ち、将来や生活の中でできるようにしたいことを生徒主体の対話により聞き取った。

#### ・目標設定、中間評価(シート2、4)

生徒が目標設定に関わったこと、必要なときにいつでも見られるようにシートを舎室に置いたことにより、職員との対話が増え、目標に関する話合いや振り返りが日常的に行われるようになった。中間評価では、長期休業中の家庭での取組につなげるために、何をするか、どうすれば継続できるかを一緒に考えた。

#### ・長期休業中の家庭の取組、保護者との連携(シート3、5)

P T Aや帰省、帰舎日に寄宿舎での取組を説明した。家庭の様子を聞き取り、長期休業中の家庭生活につなげるためにできることや方法について話し合い、協力を得た。

#### ・評価(シート4、7)

個に応じて、写真やチェックシートなどを活用して具体的な場面や経験を振り返り、評価した。イラスト表記、キーワードや選択肢の提示をするなど生徒に応じた記入方法を工夫し、自身で確認できるようにした。(資料2)



・学部との連携

現場実習に向けての準備、寄宿舍を活用した洗濯や掃除に関する授業、私服週間（TPOに合わせた服装選び）など、家庭科や職業科の授業で連携した。また、寄宿舍指導員が家庭科と職業科の授業で寄宿舍の生活指導と関連するものを参観し、学部の授業と寄宿舍の指導に一貫性をもたせるようにした。



次に、おおぞらシートを活用した実践1, 2について示す。

**【実践1】**

<1年目の取組から>

洗濯物の干し方と衣類の整頓に取り組み、しわを伸ばして洗濯を干し方、衣類を収納場所に合わせたたたみ、仕分けて収納できるようになった。

衣類の収納は家庭生活にはつながらなかった。

<2年目の取組から>

現場実習での評価から、身だしなみを整えられるようになりたいと話し、衣類の汚れの落とし方やアイロンがけに取り組んできた。




**Aさん（高等部2年）**

**入舎2年目**

**<実態>**

**清潔に対する意識が低く、現場実習でも、その部分の評価が低かった。**

職員の支援	生徒の様子とエピソード
<ul style="list-style-type: none"> <li>靴下とワイシャツの襟袖の手洗いの手順を手本を示して教えた。</li> <li>洗剤の使い分けやボディークリーパーが皮脂汚れに有効なことを教えた。</li> <li>アイロンの安全な取り扱いと衣類に応じたかけ方を教えた。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>汚れが気になったときに手洗いやつけ置き洗いをしている。職員に質問して、そのときの衣類に合った汚れの落とし方を教えてもらっている。様々な方法から自分に合った方法を選び取っている。</li> <li>現場実習の評価から、身だしなみを自身の課題として捉えている。日頃スーツを着る機会が多い舎監の先生に質問し、アイロンがけで気を付けている点やコツを教えてもらっていた。</li> </ul>

**長期休業中の家庭での様子（保護者、本人からの聞き取りから）**

- サッカーで使った靴下を風呂に入ったときに手洗いし、洗濯機に入れるようになった。好きなことに関することであるため継続できている。以前より、靴下の汚れが目立たなくなった。
- 自室にアイロンを持ち込み、気が向いたときに自分の衣類にアイロンがけをしている。

**成果と課題（成果：○、課題：▲）**

- 衣類や身の回りを清潔に保つ方法を覚えた。
- 清潔に対する意識が高まり、ひげそりや整髪にも気を配るようになってきた。
- ▲現場実習以降、気分がムラがありアイロンがけが継続できない。

## 【実践2】

〈1年目の取組から〉

アイロンがけに取り組み、毎日着用するブラウスにアイロンをかける大切さを知り、家でもかけることが定着した。

技術面は心配ないが、借用時の話し方等に課題がみられた。

〈2年目の取組から〉

「女子高生なので弁当を作れるようになりたい」と話し、電子レンジや冷凍食品を活用した簡単に続けられる調理を行った。栄養や価格に配慮して旬の野菜を材料に取り入れた。




Bさん（高等部2年）

入舎2年目

〈実態〉

生活全般において経験不足なことが多い。

職員の支援	生徒の様子とエピソード
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットを活用し、旬の野菜について、一緒に調べた。</li> <li>・レシピ本を活用し、旬の野菜を使ったレシピが決まったら、必要な材料や道具を一緒に確認し、調理計画を立て、実践した。</li> <li>・おすすめの弁当のおかずアンケートを実施し、職員からのアドバイスとした。 (現場実習前)</li> </ul>	<p>【パンダ&amp;ブタのおにぎり弁当】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海苔や野菜でかわいく仕上げる事ができた。</li> <li>・弁当作りを通して、料理の楽しさを知る機会になった。</li> </ul> 

## 長期休業中の家庭での様子（おおぞらシートから抜粋）



【チャーハン作り】



【豆乳うどん作り】

## 成果と課題（成果：○、課題：▲）

○季節に合った野菜を知り、家庭で栽培されている旬の野菜を取り入れた弁当作りをすることができた。

○現場実習中に、前日からおかずを準備したり、簡単な物は出勤前に作ったり弁当を持参することができた。

▲居住地付近に商業施設がなく、一人での買い物経験がない。

### 【実践3】

〈昨年度の取組から〉

安全な移動を目標に道路の歩き方や信号の渡り方を確認し、福祉エリア内や商業施設までの歩き方を経験した。歩道の端を周囲に気を配って歩くことや横断前の確認ができるようになった。近隣施設や商業施設での買い物が取組の励みになっていた。

〈今年度の取組から〉

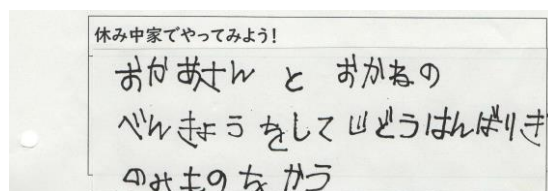
本人の楽しみとして自動販売機での飲料購入があり、保護者の「好きな物を自分で買うことができれば」との話から目標を「支払いの経験を増やす」と設定した。



Cさん（高等部2年）  
入舎4年目  
〈実態〉  
身辺は自立しているが、社会経験は少ない。

職員の支援	生徒の様子とエピソード
<ul style="list-style-type: none"><li>これまで、示された硬貨の図に合わせてお金を数える学習をしてきた。その方法を用いて、必要な金額を準備する場面を設定した。</li><li>自販機に見立てた教材を作成し、買い物の練習を繰り返し行う場面を設定した。</li><li>近隣施設で準備したお金で買い物をする機会を設けた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>下校後、おやつの際の飲み物を自販機に見立てた教材で買うことが習慣となり、継続できた。金種は分かるが、枚数を数えることが難しいため、買い物に必要なお金は職員と一緒に数えて準備した。</li><li>行きたい商業施設や欲しい物についての会話が增え、次回への期待感や意欲が感じられた。</li></ul>

### 長期休業中の家庭での様子（おおぞらシートから抜粋）



【自宅近くの自動販売機での買い物の様子】

### 成果と課題（成果：○、課題：▲）

- 金種が分かり、買い物の前に必要な経費を準備した。準備したお金で支払うことができるようになった。
- 買い物を楽しみ、次はどこに何を買いに行きたいかを話すようになった。
- ▲金種は分かるが、枚数を確認することが苦手なので、経費の準備には手伝いが必要になる。

## (2) 生徒が考えて生活できる環境作り

### ・生徒が選択する日課

夕食後の日課の一部を選択制にし、ある程度の時間の枠組みは保ちながら、生徒自身が考え、組み立てて生活できる環境を整えた。日課表は、日課と時間を自分で確認するためにデジタル、アナログ両方の時計表示をした。また、担当が個々に応じた工夫をした。



### ・生徒が計画する行事

夏祭りやおおぞらパーティーは、実行委員の生徒が中心に話し合っで計画した。好きなことや得意な面を生かした役割分担をして準備をした。

サークル活動では、行き先別グループで交通機関や行き先について調べる時間を設け、行程や時間配分を考えて計画を立てた。調べる過程では、職員のサポートを受けながら互いの希望を伝え、協力して情報を集め、話し合った。

## 7 まとめ

### 生徒の変容

- ・自分の思いや考えを言葉にすることで、目標を意識して生活する生徒が増えた。思いを言葉にすることが難しい生徒には、保護者や担任との情報交換、本人の興味・関心から、思いを引き出したり、言葉を補ったりした。
- ・目標達成に向け、何をするかを考えたり、分からないことを質問して教えてもらったりするなど、課題を自分事として捉え、行動する姿勢が見られるようになってきた。できたこと、失敗したこと、続けるためにはどうすればいいか、次にどうすればできるようになるかなど、日常的に職員との対話を通して自身で考え、生活するようになった。
- ・経験したことが、現場実習や家庭で役立ったことを実感し、次への意欲につながる生徒もいた。また、同じ目標や取組をしている友達に興味をもち、次は友達のようにしてみたいとまねたり、うまくできた経験を友達に伝えたりすることが、自身の振り返りや意欲につながった。
- ・好きなテレビをみるために、時間に間に合うためになど、夕食後から自習時間までの過ごし方を考える経験と振り返りを重ねる中で、物事の優先順位や時間配分を考えて予定を立てること、時計を見て次の行動を考え生活する様子がみられるようになってきた。
- ・希望の入浴時間が重なったときに、職員のサポートがなくても、話し合っで調整するなど生徒同士で話し合う場面が見られるようになっている。また、行事を通して得意なことを進んで行ったり、苦手なことを助けてもらったりと、自分自身や互いを知り、自分のできることで協力する様子が見られている。

### 学びを実感し学びをつなげる支援の工夫

- ・家庭科や職業科の授業での連携は、生徒がどのように学んでいるかを知る機会、日常生活の指導方法を振り返る機会となった。
- ・PTAで、保護者に寄宿舎での目標と何ができるようになったか、効果的だった方法や工夫を伝えた。家庭での様子を聞き取りながら、長期休業中にできる方法を話し合ったことにより取組が継



続できた。保護者との話し合いが家庭生活につながる支援を考える機会となった。

### 生徒による学習評価

- ・生徒が考えて生活できる環境づくりをしたことにより、実感を伴う経験をする場面が増えた。また、同じ目標や取組をしている友達に興味をもち、友達のようにしてみたいとまねたり、うまくできた方法を友達に伝えたりすることが、自身の振り返りにつながった。おおぞらシートを活用した振り返りでは、できたことを実感できた生徒が増えた。
- ・行事を協力して計画することなどを通して、友達から賞賛や感謝の言葉をかけられたり、苦手なこととは、サポートし合ったりするなど、自己理解や他者理解が進み、相互評価につながった。

## 8 次年度へ向けての提言

### おおぞらシートを活用した支援の継続

- ・できたことを実感しながら目的をもって意欲的に生活できるようにおおぞらシートを活用して生徒が目標設定や評価に関わること、生徒の経験とその過程に着目した生活指導を継続したい。

### 学部・保護者との連携の継続

- ・学部、保護者と指導方法を話し合い、学校生活や家庭生活につながる日常生活指導を継続することで、様々な場面に対応できる生活力が身に付く指導を目指したい。

### 寄宿舎の特色を生かした生活指導の改善

- ・友達からの賞賛や感謝の言葉、サポートなど、生徒同士の関わりが増え、意欲の高まり、自己理解や評価につながった。得意なことを教えたり、いいところをまねたりするなど生徒の意欲的な行動が学びの定着につながった。その良さを生かした学習会の計画や生活指導を検討していきたい。

### <資料1> 目標設定参考用紙（仮）

目標設定参考資料（寄宿舎で身につけられる生活の力）				身なり・身だしなみ			
身のまわりのこと							
 歯みがき	 うがい	 手洗い	 はんかち・ティッシュの携帯・使い方	 整えて服を着る	 ひも結び（くつなど）	 ボタンかけ	 衣服の表裏の確認
 鼻のかみかた	 脱履	 体調の変化に気づく（平熱を知る等） 不調を訴える・伝える	 お風呂のマナー	 季節に応じた衣類の調整	 TPO	 靴の使い方	 ファスナーの使い方
 体洗い	 洗髪	 シャワーの使い方	 入浴後の体の拭き方	 フックの止め方			
 タオルの折り方	 洗顔	 整髪・整髪料、 ブラシ・ドライヤーの使い方	 お肌のお手入れ	食事			
				 バランスの良い食事 （好き嫌い・三角食）	 姿勢	 食器の持ち方	 箸の持ち方

<資料2> おおぞらシートの活用例

【例1】

高等部3年男子

目標：簡単な調理ができる

電子レンジを使った簡単な調理方法を調べ、一人で調理できるようになった。

夏季休業中は、レシピを調べて昼食作りを行い、オリジナルのレシピノートを作成した。

シート③長期休み中に自宅でやってみたこと

名前 吉田幸太

休み中家でやってみよう!  
昼ごはん(お10回レンジで作る)

休み中やってみたこと(絵や写真でも自由に)  
家にあるお米やお味噌でかきたんを作れるレシピ本をみて昼ごはんを作りました。オリジナルのレシピノートを作りました。

シート② 前期目標・中期振り返り

名前	吉田幸太
前期目標	自分で作る簡単な料理と覚える。 いれ物をする時に使うお皿の言い算を覚える。
前期中間振り返り	1作る時に包丁の使い方を気をつけながら簡単に作る事ができました。
目標達成のために家ででもできること	昼ごはんレンジを使ったお料理をする。

簡単！お吸い物の素で茶碗蒸し

たまごを割ります。お吸い物の素と水をよく混ぜ合わせ、滑いたたまごを入れ混ぜます。

容器に入れて、ラップをふんわりかけます。

電子レンジ(500W)で4分加熱。  
(たまご2個、素2袋、水300ccの場合)

できあがり！

レンジで初めて作りました。いい感じにできてよかったです😊

ダブルチーズドリア

材料・バター、ピザ用チーズ、パセリ、黒コショウ(お好み)、お味噌汁、牛乳、コナーズ、じゃがいも、玉ねぎ、パルコン

作り方  
・フライパンにバターを少し溶かす。  
・フライパンに味噌汁とパセリ、お味噌汁を入れる。  
・お味噌汁を混ぜて、ピザ用チーズをのせる。(弱火、さっと)  
・お味噌汁を混ぜて、お味噌汁にする。(弱火で3分)  
・お味噌汁でパセリのお味噌汁、お味噌汁を混ぜる。  
完成!!

※お味噌汁→牛乳、コナーズ、じゃがいも、玉ねぎ、パルコン

肉巻きおにぎり

材料・月夜バラ(薄切り)肉に少し少く、冷たいお味噌汁の中に入れて煮汁(お味噌汁、お味噌汁、しょうゆ、水、お味噌汁、お味噌汁)・揚げ合わせ...レタス、トマト

作り方  
・月夜バラ(薄切り)肉に少し少く、冷たいお味噌汁の中に入れて煮汁(お味噌汁、お味噌汁、しょうゆ、水、お味噌汁、お味噌汁)を少し混ぜる。  
・肉を少し混ぜてお味噌汁を巻く。  
・フライパンに油を熱し、お味噌汁を焼く。  
・両面に焼きをつけてお味噌汁を返してお味噌汁を返す。  
・煮汁を返して、お味噌汁を返す。(お味噌汁を返す)お味噌汁を返す。  
・煮汁を返して、お味噌汁を返す。(お味噌汁を返す)お味噌汁を返す。

【例2】

高等部1年女子

目標：おやつ作りで余暇を楽しむ

文字を書くことが苦手なので、「お母さんのようになりたい。おかあさんみたいに料理がしたい」という思いや活動したことをイラストや写真を貼ってシートを作成した。

シート①(個別三者面談前に話し合う)

名前	よねざわ
将来において、こんなことができるようになりたい	
今、自分ができるようになりたいこと	

調理活動報告 9月14日(火) ホットケーキ作り

ホットケーキミックスと牛乳、混ぜたかな？まだかな？

上ずりひっくり返しました。

トッピングはチョコレート。

おいしかった！友達にもごちそうしました。

ホットケーキ作りをして楽しかった。

袋のなかに入れて入れるのが難しかった。ひっくり返すことは上手にできた。

また調理をしたい。



## 研究主題

### 児童生徒による学習評価の充実

—児童生徒が学びを実感し、学びをつなげる自立活動の授業づくりを通して—

(2年次/2年計画)

#### 1 児童生徒の実態

今年度の道川分教室には、小学部1名、高等部3名の計4名が在籍している。独立行政法人国立病院機構あきた病院に入院している児童生徒を対象に訪問教育を行っている。

児童生徒は、脳性まひ等に起因する重度の肢体不自由と知的障害を有しており、日常生活全般において医療的ケアや生活支援を必要としているが、いろいろな思いをもち、周囲からの働き掛けに心を動かしている。しかしながら、その表出は微細で受け取る側の教師も読み取りに難しさを感じる人が多い。

#### 2 1年次(令和2年度)の成果と課題

##### (1) 成果

###### 映像記録で共有する客観的な評価

担任だけでなく多角的な視点で微細な表情や身体の動き、つぶやきを教師が読み取り、より客観的な評価として活用することができた。また、映像記録を基にねらいや指導内容の妥当性を検証し授業改善を図ったことで、児童生徒が学びを実感し達成感を表している姿をチームで共有することができた。

###### 評価のポイントが一目で分かる学習評価記録用紙

チームで児童生徒の学習評価基準をより具体化し、ねらいを達成させる手立てを明確にして、目指す達成感を表す姿を引き出すことができた。略案と本時のねらいに対する評価基準(4段階)、生徒の様子、改善点等を一目で見て分かる学習評価記録用紙を作成し、実践を積み重ねたことで、生徒の変容となる手掛かりに気付きやすくなり、客観的な記録としても活用できた。

###### エピソード記録の活用

学習評価記録用紙や日々の記録から変容の手掛かりを見付け、エピソード記録で考察を複数の眼で行うことで、児童生徒の気持ちに寄り添い、思いを読み取るためのツールとして有効だった。

##### (2) 課題

###### 児童生徒一人一人にとって学びを実感できるための学習評価の在り方

児童生徒が自身の頑張りや課題の達成を実感する多くは、即時評価や集団の中での称賛であった。児童生徒一人一人にとって分かりやすく実感がもてる学習評価の在り方をチームで確認し、積み重ねていく必要がある。

###### 客観的な評価のためのツールの充実

学習評価記録用紙やエピソード記録は、児童生徒の実態や指導形態によって活用しやすい様式になるよう、より客観性のある評価ツールへと改善を図る。

#### 3 目指す児童生徒の姿(2年次)と研究の方向性

昨年度は自分なりに周囲の状況が分かり働き掛けを受け止め、表情や発声、身体の動き等で達成感を味わうことが個々の満足感や次の学びへの意欲につながると考え、その姿を目指した。今年度は昨

年度の成果と課題を踏まえた継続と発展をさせていく。具体的には、チームで児童生徒に今指導すべき課題を明確にした授業づくりを行う。さらに、次の学びや生活に生かせる目標設定と振り返りの機会、学習評価の在り方を検討し、学習評価の充実に向けた実践を積み重ねる必要があると考える。

「道川分教室における児童生徒による学習評価」とは  
 児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことは難しい実態であるが、児童生徒が学びを実感し、達成感を表す姿を児童生徒自身の評価と捉えていく。

#### 4 研究仮説

自立活動の個別学習において、チームで検討し多角的な視点で実態把握をすることで児童生徒の目標の妥当性が高まり、授業改善を積み重ねることで児童生徒の学びの実感や達成感を高めることができるのではないかと。そして授業づくり検討会で児童生徒の変容を定期的に検討し、指導計画等の見直しを図ることで学びをつなげていくことができるのではないかと。

#### 5 内容と方法

##### (1) 授業づくり

「授業づくり検討会」において、以下の取組をチーム（全職員）で行う。

##### ① 「アセスメントチェックリスト」と「流れ図」を活用した実態把握

- ・「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト」と「自立活動の流れ図」により中心課題を導き、年間目標、指導計画・内容を設定する。
- ・昨年度の中心的な課題を踏まえ、今年度の課題を整理し、整合性を図る。

##### ② 「道川授業デザインシート」を活用した題材づくりと「学習評価記録用紙」を活用した評価

- ・授業デザインシートを活用し、個別の指導計画等に基づく題材計画を検討する。また、題材終了時の改善点を次題材検討用のシートに反映させ、題材間で学習や指導・支援内容のつながりをもたせる（「道川授業デザインシート」について p68 資料1 参照）。
- ・「学びを実感し、達成感を表す姿」を基に学習評価基準を設け、本時のねらいと手立ての有効性について分析し、評価する。

##### ③ 映像及びエピソード記録等の活用による授業改善

- ・映像記録 → 動画で日々の指導を記録し、評価と改善を図る。
- ・エピソード記録 → 達成感を表す姿やつぶやき、表情等から思いを読み取り、考察する。

##### ④ 授業研究会

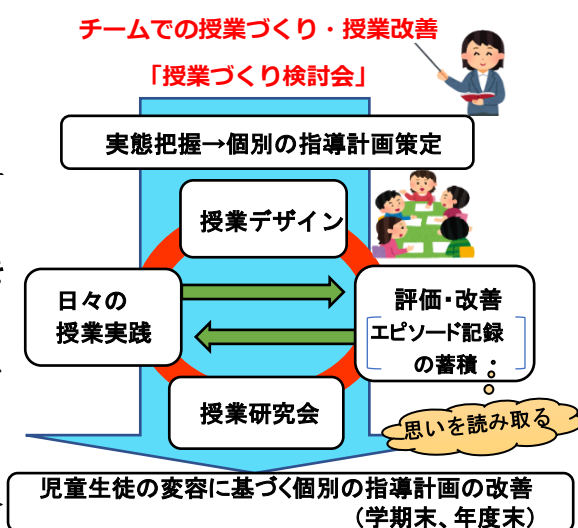
- ・個別学習の授業提示及び研究協議を通して、研究主題に沿った授業づくりや授業改善を図る。

##### ⑤ 児童生徒の変容に基づく個別の指導計画の改善

- ・授業実践による児童生徒の変容を基に、指導目標等を見直し個別の指導計画を修正、改善する。
- ・改善した個別の指導計画を次学期、次年度へ引継ぎ、学びの履歴として活用する。

##### (2) 研修

日々の授業改善や専門性の向上に生かすための研修を行う。



【図1】 授業づくりの流れ

## 6 研究計画 ※p76 資料4参照

## 7 研究の実際

### (1) 授業づくり

#### ①チーム（全職員）での授業づくり検討会の実施

全児童生徒（4名）について授業づくり検討会を実施した。年間を通して、図1「授業づくりの流れ」により、チームで検討しながら授業づくりを行った（年間計画についてp64資料4参照）。また、小学部6年A児を研究対象事例として取り上げ、研究主題に沿った授業研究会を実施した。

#### ②授業構想や学習評価に係るツールの作成と活用

授業づくりのツールとして、「道川授業デザインシート」及び「学習評価記録用紙」を活用し、授業デザインや評価について検討した。検討の視点が整理され、活発な意見交換につながった。

##### **道川授業デザインシート**の作成と活用 ※p68 資料1参照

流れ図や個別の指導計画に基づき、個々の実態に応じた題材計画の立案につなげた。また、本分教室で大切にしている「児童生徒が主体的に活動するための分かりやすい状況づくりである4つの観点『言葉掛け』『姿勢づくり』『教材・教具の工夫』『授業展開』」についても検討し、学びを実感し、達成感を味わえる授業実践につなげた。

##### **学習評価記録用紙**の作成と活用 ※p69-70 資料2・3参照

昨年度の課題を踏まえ、より児童生徒の実態や指導形態に応じた評価ができるよう、新たな様式を検討し、いずれかを選択して活用できるようにした。学習評価記録用紙Aは、昨年度活用した様式で、本時のねらいにおける評価基準（4段階）と自由記述によるものである。学習記録用紙Bは、表出等が微細な児童生徒の評価に活用しやすいように、題材づくりの段階で設定する「達成感を表す姿」を評価基準とし、自由記述と併せて評価するものとした（研究対象事例で活用）。

#### ③分教室授業研究会の実施

研究対象事例の提示授業（自立活動〈個別学習〉）について、チームで題材の構想について検討した。授業研究会は本校を会場に実施し、本校職員の参加も得ることで多様な改善の視点が出され、活発に協議を行うことができた。（詳細はp71～73参照）。

- ・期 日：令和3年11月4日（事前授業研究会：令和3年10月20日）
- ・指導助言：本校 教諭（兼）教育専門監 桐田 明日子

この他に、他生徒についてミニ授業研究会を実施した。授業の様子をビデオで参観し合い、指導主事や研修会講師からの助言等を踏まえて支援等を検討し、日常の授業に反映させた。

### (2) 研修

以下の研修を実施し、研究推進、授業改善、専門性の向上につなげるようにした。

#### ①外部講師による「重度・重複障害児の学習評価」に関する研修

- ・期日：令和3年9月27日
- ・内容：講話「重度・重複障害児の学習評価について～発達理解に基づいた指導と評価～」
- ・講師：秋田きらり支援学校 教諭（兼）教育専門監 二階堂 悟 氏

#### ②分教室職員が講師による研修（クォーター研修）

- ・「インリアルアプローチ」「ICT機器の活用」等に関する内容

①では、講話と併せ授業への助言もしていただき、授業改善の視点も得ることができた。

<資料1>

道川授業デザインシート [ 個別学習 ]

学部	学年	児童生徒氏名	指導者氏名
部	年		

～興味・関心～  ～できること～	～授業づくり検討会より～  <div style="border: 2px solid blue; background-color: #003366; color: white; padding: 10px; display: inline-block;">                     前の題材の改善点や 指導助言を記入                 </div>	～健康面等の配慮点～
------------------------	---	------------

<流れ図⑤「今指導すべき目標」（個別の指導計画年間目標）>



題材名	[期間： 月～ 月]
～目標、この題材で目指す姿～  ～指導内容～  ～手立て～ ○言葉掛け  ○姿勢づくり  ○教材・教具  ○授業展開  ○その他	[授業づくり検討会Vのビデオを受けた改善点] ○言葉掛け（相手に伝わる状況づくり）  ○姿勢づくり（取り組みやすい状況づくり）  ○教材・教具の工夫（意欲の喚起）  ○授業展開（見通しをもちやすい状況づくり）  ○その他 <div style="border: 2px solid blue; background-color: #003366; color: white; padding: 10px; margin-top: 20px;">                         ・ 授業の映像記録を見ながら評価するとき使用                          ・ 他の欄は、授業構想時に使用                     </div>

<資料2>

「学習評価記録用紙A」

児童生徒名 ○○ ○○

題材名 / お話大好き～スイミーⅡ～		日時 / 場所 / 他
本時のねらい	① 海の生き物等、好きな言葉を中心に、リズムカルに話す。	10月 4日 (月) 1階学習室
	② 教師と言葉や教材のやりとりを楽しむ。	
時間	学習活動	指導上の留意点
10:45	1 始めの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始まりを意識できるよう、目線を合わせ一緒に挨拶をする。</li> <li>・見通しがもてるよう、生徒と一緒に「本」と「魚」を準備し、それを提示しながら学習について話す。</li> <li>・次々にページをめくりたいときは、「待ってね」や「もう少し聞いてくれますか」と伝え、様子を見る。</li> <li>・活動の区切りが分かるように、教材を片付ける。</li> <li>・釣りの仕掛けを指さす等、やりたい気持ちを表したら、頭文字の「も」を示し、一緒に「もう1回」と話し、ひもを手渡す。</li> <li>・気持ちが向きにくい場合は「一緒にやりますか」と確認する。</li> </ul>
10:47	2 準備	
10:50	3 今日の学習	
10:55	4 お話を読もう	
11:08	5 片付け	
11:10	6 魚釣りゲーム	
11:25	7 振り返り	
11:27	8 片付け	
11:29	9 終わりの挨拶	
		準備物
		本魚(大・小) キーボード 魚釣りセット スロープ ホワイトボード

学習評価(ねらい①) ※学習評価～学習活動を実感し達成感を表す姿

評価基準	◎できた (8～10割)	○概ねできた (5～7割)	△時々できた (1～4割)	×できなかった (0)	9/21	9/22	9/30	10/1	10/4
児童生徒	◎ 「大きな魚を追い出した」等、文末以外の言葉を話す。				/	◎	◎	○	◎
	○ 好きな言葉(生き物等)や文末を中心に話す。				【備考】 ・9/21は、好きな場面をピックアップして読んだ。 ・10/1は調子が悪いながらも、意欲的に話す場面があり、○よりは◎に近い。				
	△ 言葉を掛けると、単語を話したり相づちを打ったりする。								
	× あまり話そうとしない。または、途中でやめてしまう。								
教師	達成感を表す姿を引き出す適切な支援ができたか。				/	○	○	△	○

学習評価(ねらい②)

評価基準	◎できた (8～10割)	○概ねできた (5～7割)	△時々できた (1～4割)	×できなかった (0)	9/21	9/22	9/30	10/1	10/4
児童生徒	◎ 問い掛けに対して「やる」「もう一回」等、意思を表す。また、自分から「はい、(どうぞ)」と物を手渡す。				△	/	○	◎	◎
	○ 指差しで意思を表す。また、教師と一緒に話しながら物を手渡す。				【備考】 ・9/21は、見本の魚に緊張していたので、見ることを中心にし、教材の色塗りを行った。 ・10/1は代わりの車椅子。全体的に低く、魚がテーブルに落ちてくるのはスムーズだった。				
	△ 何度か言葉を掛けると、意思を表したり、物を手渡したりする。								
	× 眠気や体調不良等、不安定で、学習に気持ちが向きにくい。								
教師	達成感を表す姿を引き出す適切な支援ができたか。				○	/	○	○	○

本時のねらいにおける評価基準

エピソード用自由記述～児童生徒の様子など	察及び改善点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月～8月末は「すいかー！」と言うことが多かった。スイミーⅡきた。</li> <li>・スイミーの歌が気に入り、歌い終わってからも部分的に口ずさんでいた。</li> <li>・月曜日の調子が良い。金曜日は週末と入浴が重なり、天気も悪いと本人が大変そう。</li> <li>・「もう1回」はノーヒントでは難しい。使う場面や意味は理解している気がする。</li> <li>・9月中旬頃から、「考えて」の言葉掛けに少し時間をおいて発言することがある。(間違えた言葉を正しく言い直せることもある。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すいかー」が定着してきた可能性もある。</li> <li>・新しい内容は、火・金曜始まりにしないようにする。</li> <li>・継続して様子を見ていく。</li> </ul>



<資料3>

「学習評価記録用紙B」

児童名

A

題材名 / 感じてみよう～りんご狩り⑩～

日時 / 場所 / 他

本時のねらい  
・タブレット端末(ピアノ)を指動かして鳴らし、お話を読んで欲しいと気持ちを伝える。  
・紐を引いて、りんごをもぎ取り、感じた気持ちを口や手、表情で表す。

11月22日(火)  
2階学習室

時間	学習活動	指導上の留意点	準備物
10:45	1 はじまりの歌 2 あいさつ 3 聞いてみよう	・手をつないで、本児のペースに合わせて歌う ・微細な動きを見逃さないため、タブレット端末を使 ・めあてを伝える。 ・手の動きを待ち、お話を読む。 ・体調に合わせ、車椅子の位置取り、角度等は常 時調整する。 ・もぎ取るりんごを自分で選択できるようにさいこ ろを転がす。 ・紐を引く右手を体操等で、緊	タブレット端末 絵本
11:25	4 りんご狩りをしよう 5 ふりかえり 6 あいさつ	・もぎ取るりんごを自分で選択できるようにさいこ ろを転がす。 ・紐を引く右手を体操等で、緊 ・頑張っていたところを伝え、	さいころ、スロープ

児童生徒が表す「姿」を  
評価基準とした。

学習評価

評価基準  
◎見られた (8～10割)    ○概ね見られた (5～7割)    △時々見られた (1～4割)    ■見られなかった (0)

達成感を表す児童の姿  
左右の口角があがる(笑顔)◎    働き掛けに応える(口や指先を動かす)○  
目をぱちぱちする○    手を動かす○    口を開ける○    じっと聞いている◎  
表情がかたい■    口や手の動きがない■    目を見開く○  
教師の働き掛けに反応がない■    寝てしまう■

教師の振り返り  
①言葉掛け  
・分かりやすい言葉でつたえよう(意味づけをもっと丁寧に)  
②姿勢づくり  
・「意思表示」「選ぶ」「もぎ取る」の活動が取り組みやすいように  
③教材・教具  
・もぎ取りやすいりんごの位置(高さ等)の工夫、動かしやすさ  
④展開  
・期待反応(気付き)を促す場面づくり  
⑤その他    ・もっと働き掛けからの反応を待っても良い

道川の4つの観点  
に整理して、教師  
の振り返りを記載。

エピソード用自由記述～児童の様子など	考察及び改善点
<p>* 久しぶりの学習室。 明るい陽差しにうれしそう。</p> <p>* はじまりの歌…握手をして歌う。 口を動かしたり、顔を動かしたりしてはじまりの歌と一緒に歌う。</p> <p>* 読み聞かせ…じっくり聞きながら、シロフォンで気持ちを表す。 よいしょよいしょのところで、手を動かすように腕上げた。</p> <p>* ゆるゆるして、りんごもってみる?と言葉を掛けると、両手を合わせるこ ができた。「上手」とことばを掛けると、にやりと笑う。</p> <p>* おわりのあいさつで、右手をたくさん動かしていた。</p>	<p>・Aさん発信で、授業が展開していく。タイミングよく、音が出るようになってきている。</p> <p>・「3. 2. 1」の言葉掛けで紐を引く姿が、増えてきている。</p> <p>・褒めると教師の方を向き、口をたくさん動かし「がんばったよ」といっているようだった。</p>

(3) 授業実践 小学部 6 学年：A 自立活動(個別学習)の指導

- ①実態
- ・慢性呼吸器障害があり、人工呼吸器を使用。胃ろうから栄養摂取している。
  - ・午前中は、ストレッチャー式車椅子を使用し呼吸器を離脱し参加し、午後は、ベッドで学習している。
  - ・身近な人の声や音のする方向に顔を向け、周囲の状況を聞いている。
  - ・肘を支点にして、右手で紐を引いたり、ペン等を短時間保持したりする。

児童の中心課題(自立活動の流れ図より)

- ・興味・関心の幅を広げ、感じた気持ちを口や手の動きで表す。
- ・様々な働き掛けを受け入れ、身体をリラックスさせて活動する時間を増やす。

②授業の実際(実施時期10月～11月(週1～2時間 総時数13時間))

題材名	感じてみよう～りんご狩りをしよう～
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手や足で、落ち葉(折紙)やりんごの感触を感じ、口や手、表情等で感じた気持ちを表す。</li> <li>・教材のりんごや落ち葉を一人で持ったり、教師と一緒に操作したりしてりんごをもぎ取る。</li> </ul>
指導計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち葉やりんごに触ってみよう</li> <li>・お話「らんらんらん りんごがり」を聞こう</li> <li>・りんご狩りをしよう</li> <li>・おでかけしようらんらんらん「りんご狩りに行こう(バーチャル体験)」</li> </ul>

【事前授業研究会】本時3/13

本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末を指で鳴らし、お話を読んでほしいと気持ちを伝える。</li> <li>・手を動かして落ち葉に触れたり「かさかさ」の音を聞いたりして感じた気持ちを口や手、表情で表す。</li> </ul>	
ポイントとなる手立て、教師の役割	児童の様子	
○分かりやすいめあての伝え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「お話を読んでほしい時は、指を動かして先生に教えてね」と言葉を掛ける。</li> <li>・指に触れ「ここね」とシンプルに伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の言葉掛けを聞き、顔を教師の方に徐々に向けた。口や指先を動かして、教師の言葉掛けに応えているような様子を見せた。教師に意識が向いていた。</li> </ul>
○達成感につながる即時評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お話を読み進めたり止めたりしながら、本児が「読んで」と指を動かして気持ちを伝えてくれたときは、タイミングを見て「指が動いてるね」「上手」と伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お話「らんらんらん りんごがり」を読み始めると動いていた口や腕の動きが止まった。読み聞かせを止めると「しーん」とした空気が流れたが、しばらくすると指を動かし「読んで」と伝えてくれた。</li> </ul>
○活動しやすい姿勢づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち葉(折紙)に触れたときに、自分から手を動かすことができるように、車椅子の角度やクッション等で腕や肘の角度を細やかに調整する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・右脇にクッションを入れると肘の緊張が緩んだ。肘置きを入れると肘や手首が安定し、手を握ったり開いたりして、落ち葉(折紙)の感触や「かさかさかさ」の音を感じているようだった。</li> </ul>
○丁寧な表情や気持ちの読み取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反応を十分に待ち、表情が変わった時に気持ちを代弁したり、共感したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の言葉掛けをじっと聞き入ったり、それを受け止め、口や手を動かして応えたりしている様子が見られた。</li> </ul>



**<エピソード記録より>**

「お話タイムはじまりはじまり」を聞き、指でタブレット端末（ピアノ）を鳴らす。鍵盤を連打。教師の読み聞かせが始まると、一瞬口や手の動きが止まったが、読み聞かせを止めると、口や手を動かしていた。「かさかさ落ち葉」のところは、繰り返しのフレーズをじっと聞いていた。「にこにこ顔の〇〇さん」というと口をパクパクさせ手を動かしていた。目もきよろきよろさせていた。「よいしょ よいしょ」のフレーズを読むと、手を上に上げた。「りんごが ごあいさつ」と言うとき口角があがり笑顔を見せた。読むのを止めると、指を動かしてタブレット端末（ピアノ）を鳴らすこともあった。

**<考察>**

- ・本児発信で、授業が展開していくという教師の意図が少しずつ伝わり始めたか。
- ・指を動かしてピアノの音を鳴らすと授業が次へと展開していくという事を続けていき積み重ねを期待したい。

**－本時の学習評価記録用紙より－**

学 習 評 価	
<b>評価基準</b>	◎見られた (8～10割)      ○概ね見られた (5～7割)      △時々見られた (1～4割)      ■見られなかった (0)
<b>達成感を表す姿</b>	左右の口角が上がる(笑顔)◎      働き掛けに応える(口や指先を動かす)○ 目をぱちぱちする○      手を動かす○      口を開ける△      じっと聞いている◎ 表情がかたい■      口や手の動きがない■      目を見開く△ 教師の働き掛けに反応がない■      寝てしまう■
<b>課題と改善策</b>	<p><b>&lt;事前授業研究会の協議より&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「らんらんらん りんごがり」の読み聞かせのときは、身体に触れない方がいい。      どの刺激に対する表出か評価しにくい。</li> <li>・丁寧な関わりや、「待つ」姿勢が、めりはりのなさにつながらないようにする。</li> <li>・腕を動かす活動があるので、体操を入れてもいいのではないか。</li> <li>・「なんだろう？」と気付きを促す場面をつくってほしい。</li> <li>・「学習内容を知る」場面で、めあてを伝えるときに、頬を触りながら伝えていた。声への反応なのか、触れたことへの反応なのか、表出を強化するためのアプローチとして、刺激の精選も進めてほしい。</li> <li>・本時の評価（教師の評価）に、環境設定の評価（①ポジショニング②教材・教具について）を加えたらどうか。</li> </ul>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【かさかさかさ 落ち葉（折紙）だよ】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【つるつるつる りんごだよ】</p> </div> </div>

<p><b>本時のねらい</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末（ピアノ）を指で動かして鳴らし、お話を読んでほしいと気持ち伝える。</li> <li>・ひもを引いて、りんごをもぎ取り、感じた気持ちを口や手、表情で表す。</li> </ul>
<p><b>事前研究会改善策を生かした手立て等</b></p>	<p><b>児童の様子</b></p>
<p><b>○シンプルで分かりやすい刺激の精選</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「聞く」「触れる」「感じる」等の刺激を本人が受け止めやすいように、学習活動の中に一つだけ設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と一緒にもぎ取ったりりんごに触れると、冷たさやつるつるした感触を感じ取り口を動かしていた。</li> <li>・十分に刺激を感じてから「冷たいね」「つるつるだね」の教師の言葉掛けをじっと聞いていた。</li> </ul>
<p><b>○気持ちに寄り添う「待つ姿勢」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境の違いに気付く、感じた気持ちや「はい・いいえ」の表出、自己選択、自分から取り組む等を微細な動きで表出するのを待ち、それを読み取り、意味付けする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習室のドアに付けた鈴の音を聞き、一瞬目を見開いた。「学習室に来たよ」の言葉掛けに口を動かして応えていた。</li> <li>・もぎ取るりんごをさいころを転がして選択した。口元や指の動きに合わせて言葉を掛けると教師の方に顔を向けた。</li> </ul>
<p><b>○期待感を高めるメリハリのある活動設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お話の読み聞かせ（静）とりんご狩り（動）の活動を組み合わせ、見通しをもって主体的な授業を展開できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせを止めると、指を動かして気持ちを伝えてくれた（3回程度）</li> <li>・ひもを握り、右肘をぐっと力強く曲げて一人でひもを引き、大きいりんごと小さいりんごを教師の支援なしでもぎ取った。</li> </ul>

**③授業づくりを通じた成果と課題（授業改善の視点）**

**<成果>**

**題材構成とねらいに迫る授業展開の工夫**

- ・ゴールを見据えた流れのある題材構成と見通しや安心感につながる（学びの実感）繰り返しの授業展開
- ・「安心感」「居場所感」に加え、非日常の心揺さぶられる体験の設定

**達成感につながる言葉掛けと気持ちの読み取り**

- ・達成感につながる称賛（即時評価）のタイミング
- ・思いを読み取る、待つ、反応を受け止める等の教師の働き掛けと寄り添い方

**支援がなくても一人で活動に取り組める工夫**

- ・得意なこと、一人でできそうな学習活動の設定
- ・教科学習を意識した押さえない言葉の精選

**<課題>**

**学びをつなぐ授業づくりの工夫**

- ・心地よさや楽しさを感じる教材・教具の準備

**場面の切り替えと五感の活用**

- ・香り、重さ、感触等を体験できる多様な活動設定



【本校での授業研究会の様子】

## 8 まとめ

### (1) 児童の変容

研究対象事例として取り上げた児童は、分教室では最も気持ちの表出等が微細な児童であるが、研究推進に係る授業づくりを通して、多くの変容が見られている。具体的には、刺激に対して口元を動かす、呼び掛けに対して顔を向けたり、聞き入ったりする、タイミングよく教具を引っ張ったり、タブレット端末を操作したりするなど、表情の豊かさや上肢・手指の動きの活発さが見られるようになった。

道川分教室の研究推進の柱である「授業づくり検討会」を通して児童理解が進み、個に応じた効果的な支援等を多様な視点で検討・提案できたことが、児童の変容につながった要因と考える。

### (2) 学びを実感し、学びをつなげる自立活動の授業づくりのポイント

#### **授業デザイン（題材づくり）**

道川授業デザインシートの活用により、児童の実態に応じた題材を構想することができ、児童の変容につながった。個別の指導計画等を踏まえ、個々の実態に応じた授業のデザインが必要である。

道川授業デザインシートは、新たな題材を検討する際にも活用した。前題材の目指す姿を踏まえることで、学びをステップアップさせる視点でつなげることができた。変容に基づく題材づくりを大切にしていきたい。

題材計画は、体験的な活動を題材のゴールに据え、そこに向けて関連する一連の活動を展開していくという、流れのある計画とした。このことで児童の意欲が喚起され、変容に見られる多様な表出につながったと考える。単なる繰り返しでない、流れのある題材計画を大切にしていきたい。

#### **個に応じた学習評価**

今年度活用した学習評価用紙Bにより、達成感を表す姿を評価基準にすることで、実態に即した具体的な到達状況を明確にしなが、授業を展開することができた。また、学習活動の中で、評価基準に基づく即時評価にもつながり、児童へ学びをフィードバックさせることができた。

学習評価用紙Bを活用して、チームでエピソード記録を分析し、児童の内面の考察にも努めた。評価基準と併せて総合的に評価し、目標の達成度や教師の支援の改善点を見出すことができた。

#### **個別の指導計画の改善**

個別の指導計画は、当初の仮説に基づいて立てた見通しである。学習評価に基づく学習状況や指導の結果に基づいて修正を図り、より実態に即した適切な計画に改善することが必要である。今回、児童の変容を基に年間指導目標を修正した。このことで、児童の実態に応じた学習活動の展開、効果的な支援等の実施につながった。自立活動の授業づくりにおける個別の指導計画への立ち返りを大切にしていきたい。

### (3) 道川分教室における学習評価の充実に向けて

チームでの計画的な授業づくりにより、「学習内容」や「学習状況」がつながり、児童が学びを実感し、達成感を表す姿に結び付けることができた。個々の学びの履歴や学び方が異なることを前提として、個を多角的に評価する体制やシステムを機能させていくことが、学習評価の充実に向けて大切な視点である。

本分教室は自立活動を主とした指導を行っているが、各教科等との関連に着目しながら指導目標等



を検証する体制はまだ途上にある。各教科等の資質・能力を支える自立活動の意義を共通理解し、体系的な指導・評価ができる体制づくりについて検討したい。

## 9 おわりに

今年度、20回を超える授業づくり検討会を行い、全児童生徒の授業づくりを全職員で行ってきた。職員数6名という小規模校のメリットを最大限生かした取組である。このことで、児童生徒一人一人について同じ視点で理解を深め、有効な支援等を提案し合い、ワンチームでそれぞれの個別学習を支えた。

授業づくり検討会は、道川分教室の授業改善の原動力である。次年度もチームでの授業づくりを大切に、児童生徒の確かな成長を支えていきたい。

### <参考・引用文献>

- ・特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 文部科学省 平成29年4月
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 文部科学省 平成30年3月
- ・特別支援学校自立活動ガイド 秋田県教育庁特別支援教育課 令和2年3月
- ・令和2年度 研究ゆり 第22号 秋田県立ゆり支援学校 令和3年3月
- ・平成28年度 研究ゆり 第17号 秋田県立ゆり支援学校 平成28年3月
- ・自立活動実践セミナー2021 資料 筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校 令和3年8月28日  
「新学習指導要領における自立活動の指導について」  
(文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野和彦)
- ・令和3年度 秋田県立ゆり支援学校道川分教室研修会資料 (令和3年9月27日)  
「重度・重複障害児の学習評価について～発達の理解に基づいた指導と評価～」
- ・重度・重複障害児のアセスメントチェックリストー認知・コミュニケーションを中心にーver.5.0  
(広島県立福山特別支援学校)

<資料4> 道川分教室研究計画

☆：クォーター研修会

主 な 活 動 内 容				
月	研 究 会	授業づくり検討会・授業研究会	研 修 会	そ の 他
4	○分教室研究会①(26) ・今年度の研究の進め方について			
5	○分教室研究会②(24) ・研究概要の確認	○授業づくり検討会Ⅰ(6～13) ・アセスメントメントチェックリストによる実態把握 ・教育的ニーズ、流れ図による課題の検討 ・題材目標、指導内容の検討(題材計画)  ○授業づくり検討会Ⅱ(24～7) ・計画訪問指導案検討		
6			☆クォーター研修会 「教師の働き掛けについて」 (全3回)	・指導主事計画訪問(18)
7		○授業づくり検討会Ⅲ ・指導主事計画訪問の成果と課題の確認 ・1学期の成果と課題 ・2学期に向けての改善点	↓	
8		○授業づくり検討会Ⅳ ・授業研究会に向けて	・教育課程研修会(3) ・「重度・重複障害児の学習評価」	・県央地区病弱教育研修会(3) *秋田きらり支援学校 主催
9	○分教室研究会③(30) ・前期の成果と課題の共通理解、後期に向けた授業改善	○授業づくり検討会Ⅴ ・校内授業研究会①②の提示授業に係る事前検討 ○校内授業研究会①②		
10		○授業づくり検討会Ⅵ ・校内授業研究会③の提示授業に係る事前検討 ○校内授業研究会③	☆オンライン研修「障害のある児童生徒に対する指導と評価」	・訪問担当教員研修会：後期(8)
11		○授業づくり検討会Ⅶ ・校内授業研究会④の提示授業に係る事前検討 ○校内授業研究会④	☆「教育課程について」	
12	○分教室研究会④(14) ・研究の評価及び課題の整理	○授業づくり検討会Ⅶ ・2学期の成果と課題 ・3学期に向けての改善点		
1	○分教室研究会⑤(27) ・研究のまとめと研究紀要作成に向けて		☆「ICT機器研修(情報部)」 ・教材・教具研修会(県立大)	・病弱教育研修会(8) *秋田きらり支援学校 主催
2		○授業づくり検討会Ⅷ ・児童生徒の変容の確認、来年度の課題に係る検討	・研修報告会	
3	○分教室研究会⑥(15) ・研究のまとめと次年度の研究に向けて			

## 秋田県立ゆり支援学校 研究の歩み

※平成27年度まで「秋田県立ゆり養護学校」、平成28年度より「秋田県立ゆり支援学校」となる。

号	年度	研究主題
1	平成11年度	「地域に支えられ、地域に開かれた学校を目指して」～新設校への理解を求めて～
2	平成12年度	「地域に支えられ、地域に開かれた学校を目指して」～新設校への理解を求めて～
3	平成13年度	「一人一人が生き生きと取り組む授業づくりを目指して」～授業づくりに結びつく個別の指導計画の作成を通して～
4	平成14年度	「一人一人が生き生きと取り組む授業づくりを目指して」～授業づくりに結びつく個別の指導計画の作成を通して～
5	平成15年度	「一人一人が生き生きと取り組む授業づくりを目指して」
6	平成16年度	「集団の中で一人一人が生きる授業づくりを目指して」
7	平成17年度	平成17・18年度 秋田県教育委員会委嘱特殊教育実践研究協力校 「障害の多様化に応じた教育課程の在り方に関する実践研究」～一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実を目指して～ ★校内研究～「集団の中で一人一人が生きる授業づくりを目指して」
8	平成18年度	平成17・18年度 秋田県教育委員会委嘱特殊教育実践研究協力校 「障害の多様化に応じた教育課程の在り方に関する実践研究」～一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実を目指して～
9	平成19年度	平成19・20年度 秋田県教育委員会委嘱特別支援教育実践研究協力校 「障害の多様化に応じた特別支援学校の在り方に関する実践研究」～一人一人のニーズに応じた生き方指導の在り方を探って～
10	平成20年度	平成19・20年度 秋田県教育委員会委嘱特別支援教育実践研究協力校 「障害の多様化に応じた特別支援学校の在り方に関する実践研究」～一人一人のニーズに応じた生き方指導の在り方を探って～

号	年度	研究主題
11	平成21年度	「集団の中で一人一人がのびる授業づくり」～目指す姿を明確にした目標設定と支援の在り方～
12	平成22年度	★本校 「豊かな生活を送るために～活動する喜びや働く喜びが実感できる授業を目指して～」 ★道川分教室 「一人一人が周囲とかかわる力を伸ばすための支援の在り方」
13	平成23年度	★本校 平成23・24年度 新学習指導要領に基づいた教育課程の編成等に関する実践研究協力校 「豊かな生活を送るために」～活動する喜びや働く喜びが実感できる授業を目指して～ ★道川分教室 「一人一人の教育的ニーズに応じた授業の創造を求めて」～児童生徒の主観に迫る的確な実態把握とは～
14	平成24年度	★本校 平成23・24年度 新学習指導要領に基づいた教育課程の編成等に関する実践研究協力校 「豊かな生活を送るために」～活動する喜びや働く喜びが実感できる授業を目指して～ ★道川分教室 「一人一人の教育的ニーズに応じた授業の創造を求めて」～自発的に活動する姿を育む状況作りとは～
15	平成25年度	★本校 平成25年度文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究充実事業研究推進校 「自ら考え、自ら活動する児童生徒の育成」～生徒指導の観点を生かした授業づくりと研修の充実を目指して～ ★道川分教室 「集団の中で個が生きる授業づくりを目指して」～分かりやすい状況を作る4つの観点を生かして～
16	平成26年度	★本校 平成25年度文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究充実事業研究推進校 「自ら考え、自ら活動する児童生徒の育成」～生徒指導の観点を大切に授業づくりと教育課程の改善を通して～ ★道川分教室 「コミュニケーションの深まりを目指した授業づくり」～個々のニーズにあった教材・教具の工夫、改善を通して～
17	平成27年度	★本校 「人と関わる力を高める授業づくり～自分の気持ちや考えを自ら伝える姿を目指して～」 ★道川分教室 「コミュニケーションの深まりを目指した授業づくり～4つの観点を大切に支援の在り方～」
18	平成28年度	★本校 「児童生徒一人一人の人と関わる力を高めるために～気持ちや考えを伝え合う姿を目指した授業づくり～」 ★道川分教室 「人との関わりを広げる授業づくり～自分の気持ちを表し、伝える姿を目指して～」
19	平成29年度	★本校 「児童生徒一人一人の人と関わる力を高めるために～気持ちや考えを伝え合う姿を目指した授業づくり～」 ★道川分教室 「人との関わりを広げる授業づくり～自分の気持ちを表し、伝える姿を目指して～」
20	平成30年度	★本校 「主体的に人と関わる力を高めるために～校内資源や地域資源を活用した授業づくりを通して～」 ★道川分教室 「一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくり～自立活動における個別学習の指導を通して～」
21	令和元年度	★本校 「主体的に人と関わる力を高めるために」 ★道川分教室 「一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくり～自立活動における個別学習の指導を通して～」
22	令和2年度	★本校 「児童生徒による学習評価の充実～各教科の授業づくりを通して～」 ★道川分教室 「児童生徒による学習評価の充実～自立活動の授業づくりを通して～」

令和3年度 秋田県立ゆり支援学校 研究同人

校長 高橋 譲  
教頭 近藤 郁 神部 守 佐々木 朋広 (道川分教室)

【本校】

〈小学部〉

畠山 千恵	長谷川絵美子	塚田 誠	高橋真理子	高橋 一久	下村 志穂
大島 由紀	伊藤 和美	熊地ゆうき	津田 徹男	小形美穂子	高橋 直志
高橋 真紀	藤澤祐美子	高橋 健太	横山 友香	廣田 舞花	藤澤 知里
横田 千春	小番 奈々	佐藤恵梨子	佐藤美奈子	藤原実乃里	

〈中学部〉

菊地 正紀	高橋 直子	桐田明日子	山田瀬里奈	江川 悠介	鷹島 薫
山中 征子	伊藤 昌子	大川 周悦	佐々木 颯	堀井 千秋	軽部 亜紀
長谷山孝志	大滝 陽平	鈴木 晋	岡部 萌花	川村 沙織	佐々木あゆみ

〈高等部〉

鈴木 健	大庭せい子	石垣 幸子	斎藤 仁	佐藤 江美	三浦 智己
板垣 五月	加藤 俊和	渡辺美樹子	安藤 真貴	池田 和馬	諏訪江梨子
塚本 竹美	小池成生子	神田 雄樹	東谷いずみ	工藤裕美子	今野 瑞恵
永井 淑子	佐藤 聖哉	高野 哲	佐藤 美鈴	佐藤 由生	松橋 智恵
谷苗 曜子	齋藤 行正	菊地 瞳子	佐藤 美白	石井 真	中川 祥

〈寄宿舍〉

佐藤菜穂子	仁平 牧子	佐藤 礼子	新山 和征	川尻恵美子	佐々木なおみ
小澤美和子	朝香由美子	近野 福子	渡會 妙子	谷口 大介	佐藤 弘泰
佐々木 恵	工藤 美香				

【道川分教室】

阿部 泰雄	小松 百子	相場眞里子	土田 奈緒	高橋 成暢	
-------	-------	-------	-------	-------	--

◇ 令和3年度 研究ゆり 第23号 ◇  
令和4年3月発行

〈本校〉

〒015-0885 秋田県由利本荘市水林456-3

TEL 0184-27-2630

FAX 0184-22-8706

ホームページ <http://www.yuri-s.akita-pref.ed.jp/>

メールアドレス [yuri-s@akita-pref.ed.jp](mailto:yuri-s@akita-pref.ed.jp)

〈道川分教室〉 独立行政法人 国立病院機構 あきた病院内

〒018-1301 秋田県由利本荘市岩城内道川字井戸ノ沢84-40

TEL 0184-62-6136

FAX 0184-62-6145

ホームページ <http://www.yuri-s-michikawa.akita-pref.ed.jp/>

メールアドレス [yuri-s-michikawa@akita-pref.ed.jp](mailto:yuri-s-michikawa@akita-pref.ed.jp)